NVR

ネットワーク・ビデオ・レコーダー

取扱説明書

バージョン：V1.10

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ご利用中に何か問題があったら、直ちに販売者に連絡してください。

声明

注意：

本製品のデフォルトパスワードは初回ログイン用に限定され、安全のため、初回ログイン後デフォルトパスワードを強いパスワードとして修正してください。

- 安全度強いパスワード：８やそれ以上の桁があり、大文字、小文字、特殊文字、数字の三種や四種で構成します；
- 安全度中等パスワード：８やそれ以上の桁があり、大文字、小文字、特殊文字、数字の二種で構成します；
- 安全度弱いパスワード：８やそれ以上の桁があり、大文字、小文字、特殊文字、数字の一種で構成します。

- 本マニュアルの図形、グラフや写真などはただの説明例として、実際の製品と異なるおそれがあるので、実物に準じてください。
- カットされた画面図はただの説明例として、各バージョンの画面に差分があるので、実際の画面に準じてください。
- 本マニュアルは、複数の型番製品に対応しますが、各製品の使用状況を１つずつ記載しないので、実際の製品によって自分で照合してください。
- 当社は、予告なく本マニュアルの内容を修正することがありますが、マニュアルの内容に間違いがないことを一切保証しません。
- 物理環境などの不確定要素によって、一部のデータの実際値は、マニュアルに提供された参考値とはずれがあるかもしれませんが、何かご疑問や争議がある場合には、当社の最終的な解釈に準拠してください。
- ご使用中、本マニュアルの操作説明を守ってください。説明の未順守による問題については、当社は一切責任を負いません。ご協力ありがとうございます。

安全上のご注意

- 取付けやメンテナンスの従業員は、安全操作の基本能力がなければなりません。本設備操作する前に、必ず本書に規定されている安全基準をよく読んでください。
- 本設備はレベルＡのセ品で、生活環境において、無線干渉を引き起こす可能性があります。その時、ユーザは無線干渉に対して必要な措置を取ります。
- 設備の安定的、通風良好の場所で取り付けられることを保証します。設備作業中、通風口の周辺に障害物がないと確認します。
- 設備を許可している温度や湿度の範囲内に作業させてください。湿っぽい、ほこり、熱すぎる、寒すぎる、強い電磁輻射、振動など場所で置かないでください。
- 環境電圧が安定、且つ設備の通電要求に合わなければなりません。定格の入力･出力範囲内しか使用しません。落雷防護と接地も必要です。
- 電源ケーブル、プラグ、コンセント、装置から引き出された接点所は踏み、押し出しことがありません。
- 接続の間違いで体や設備に障害を齎さないように、取付け完成後正確性をよくチェックしてください。

- 分解防止機能シールを取り外さないでください。設備分解の必要があれば、ローカル販売者とご連絡を取ってください；そうでないと、無断分解でメンテナンスできない状況に対して、当社は一切の結果を引き受けません。ご協力ありがとうございます。
- 異常断電は設備のハードディスク損害や機能異常を引き起す可能性があります。設備 OFF の時、取扱説明書により操作してください。頻繁的断電の場所で設備を使用すれば、UPS を配置してください。

特記事項

記号の意味

本書で採用された図形画面の記号は次に示します：

記号	意味
<>	< >印付きはボタン名を示し、例えば、<決定>ボタンをクリックする。
[ ]	[ ] 印付きはメニュー、タブ、ウィンドウ名を示し、例えば、[設備管理]を選ぶ。
>	マルチメニューは>印で区切り、例えば、[設備管理>設備の追加]マルチメニューは、[設備管理]メニュー下の[設備の追加]サブメニューを示す。

シンボルの意味

本書で採用された操作中の注意事項を示す絵表示の意味は次に示します：

絵表示	意味
	警告。この表示の欄は、「不当操作による人への危害が生じる可能性が想定される」内容です。
	注意。この表示の欄は、操作中の注意事項を示し、「不当操作による製品損壊、データ紛失や機能異常が生じる可能性が想定される」内容です。
	説明。この表示の欄は、製品の操作使用に関する情報の補足内容です。

目次

第一部：ローカル操作……1
1 操作必読……1
1.1 ユーザログイン……1
1.2 ローカル画面の操作方法……1
2 初期設定……4
2.1 スタート準備……4
2.2 スタートガイド……5
3 プレビュー……10
3.1 プレビュー画面状態……10
3.2 ウインドウツールバー……11
3.3 下部ツールバー……12
3.4 右ボタンメニュー……13
3.5 パトロール設定……14
3.6 デジタル拡大……15
3.7 画像設定……16
3.8 プレビュー設定……16
4 チャネル設定……19
4.1 チャネル管理……19
4.2 OSD 設定……35
4.3 画像パラメータの設定……35
4.4 プライバシーカバー……39
5 パンチルト制御……40
5.1 パンチルト設定画面に遷移……40
5.2 プリセット設定……42
5.3 プリセットクルーズ設定……43
5.4 軌跡クルーズ設定……43
5.5 ホームポジション設定……44
6 録画とカット……44
6.1 コーディングパラメータ設定……45
6.2 録画/カット計画の制定方法……47
6.3 定時録画/カット……49
6.4 動作検出録画/カット……50
6.5 アラーム録画/カット……52
6.6 手動録画/カット……54

6.7 休日の録画/カット 55
6.8 その他の録画/カット 58
7 再生 59
7.1 リアルタイム再生 59
7.2 再生ツールバー 59
7.3 普通再生 60
7.4 コリドー再生 61
7.5 タグ再生 61
7.6 イベント再生 61
7.7 スマート再生 62
7.8 外部ファイルの再生 62
7.9 写真再生 63
7.10 POS 再生 63
7.11 ファイル管理 63
8 バックアップ 64
8.1 録画バックアップ 64
8.2 写真バックアップ 66
9 アラーム 66
9.1 入力出力 66
9.2 動作検出 69
9.3 カバー検知 71
9.4 録画紛失 72
9.5 スマート検知 73
9.6 異常設定 81
9.7 音声アラーム 82
9.8 アラーム連動 82
9.9 手動アラーム 83
10 スマート探索 83
10.1 行為探索 84
10.2 顔探索 85
10.3 人数カウント 86
11 インターネット設定 87
11.1 TCP/IP 87
11.2 PPPoE 88
11.3 宇視クラウド 89
11.4 DDNS 90
11.5 3G/4G 91

11.6 ポート 91
11.7 ポートマッピング 92
11.8 メール 94
11.9 FTP 95
11.10 SNMP 96
11.11 マルチキャスト 97
12 ハードディスク設定 98
12.1 ハードディスク管理 98
12.2 アレイ設定 99
12.3 パック設定 102
12.4 容量設定 103
12.5 高級設定 104
12.6 ハードディスク検収 104
13 システム設定 106
13.1 基本設定 106
13.2 日時設定 107
13.3 取引設定 108
13.4 シリアルポート設定 109
13.5 ユーザー設定 110
13.6 安全設定 112
13.7 ホットバックアップ設定 115
14 システムメンテナンス 116
14.1 システム情報 116
14.2 ネットワーク情報 118
14.3 ログ検索 122
14.4 システムバックアップ 123
14.5 システム回復 125
14.6 自動メンテナンス 125
14.7 システムアップグレード 126

15 設備のシャットダウン……127
第二部分：Web 操作……127
1 操作前のご注意……127
2 ログイン……128
3 リアルタイムライブビュー……128
4 再生……129
5 設定……130
付録：こんなときは？……131

第一部：ローカル操作

1 操作必読

- 下記の図はご参照（異なる設備と型番は差異がある）だけで、使用の際、実の表示に基づき操作します。
- ローカル画面においてハッチングで表示しているパラメータは変更できません。具体的なパラメータ値について、画面情報をご参照ください。下記は区分で説明しません。

1.1 ユーザログイン

ご注意：

- ローカル画面に初回でログインの際、デフォルトユーザ名 admin とパスワード 123456 をご使用ください。
- 安全のため、初期パスワードを強いパスワードに変更するとお勧めます。大文字、小文字、数字と特殊文字の 3 種や全部を使用し、且つ長さが 8 文字以上でなければなりません。

(1) プレビュー画面に進入して、右をクリックして、「メインメニュー」を選択した後、ユーザログインダイアログを表示します。

(2) ログインダイアログにおいてユーザログインを選択して、正しいパスワードを入力し、「ログイン」をクリックしてからログインになります。

1.2 ローカル画面の操作方法

「2 初期設定」を参照して、ローカル画面に対して簡単・快速の設定を行って、設備は正常の作業状態に入ることができます。

説明：

特別な説明がなければ、本マニュアルにおいて、設備に対する設定及び操作はデフォルトにマウスで行います。マウスの操作説明について、「1.2.1 マウスの操作方法」をご参照ください。

1.2.1 マウスの操作方法

本マニュアルにおいて、右手でマウスを使用することを例としてあげます。

表1-1 マウスの操作

名称	操作	詳細
左ボタン	クリック	• 操作内容の選択、決定 • 編集ウインドウにおいて、数字、中国語、記号、英語大文字と小文字を選択して編集することができます
	ダブルクリック	プレビューの際、単一画面と複数画面の表示切替
	押し・引き	矩形ウインドウを描き、移動する。例えばカバーエリアを設定する時
右ボタン	クリック	• 右ボタンのメニューをポップアップします • デジタル拡大状態から戻ります

名称	操作	詳細
		• 当該画面において、<取り消し>や<退出>がある場合、右ボタンをクリックして、当該画面から退出することができます
ロール	ロールアップ	上下の選択ウインドウ、ロールアップ選択肢;ロールバー、ロールアップ画面
	ロールダウン	上下の選択ウインドウ、ロールダウン選択肢;ロールバー、ロールダウン画面

1.2.2 前パネルボタンの機能

異なる設備の前パネルは差異があるため、使用の際、実の表示に基づき操作します。

表1-2 前パネルボタン 1

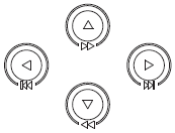
項目	機能と説明
	メインメニュー画面に入る
	メニューのサブタグを切り替える:入力方法の切り替え
	補助機能ボタン
	当該画面から戻る
	方向ボタン:ウインドウ切り替え;メニュー切り替え;パンチルト制御パネルが隠した場合、パンチルト回転の上下左右方向を制御する • 左/右ボタン：フルスクリーンの再生画面で、後退 30 秒/前進 30 秒 • 上/下ボタン：フルスクリーンの再生画面で、倍数の前進/倍速後退
	決定操作;再生状態で、放送開始/放送一時停止
	ログイン状態で、【電源】ボタンを3秒間以上長押して、OFFの提示があり、決定した後OFFになる

表1-3 前パネルボタン 2

項目	機能と説明
	ログイン状態で、【電源】ボタンを3秒間以上長押して、OFFの提示があり、決定した後OFFになる
	数字1を入力する;メインメニューを出す
	数字2を入力する;文字ABCを入力する;リアルタイム再生を起動する
	数字3を入力する;文字DEFを入力する;手動録画を起動する
	数字4を入力する;文字GHIを入力する;パンチルト制御画面に遷移する
	数字5を入力する;文字JKLを入力する;プレビューや再生画面の画面分割数の切り替え
	数字6を入力する;文字MNOを入力する;ワンキーでアラームシステムON/OFFの切り替え

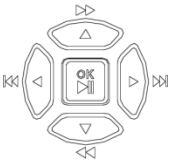
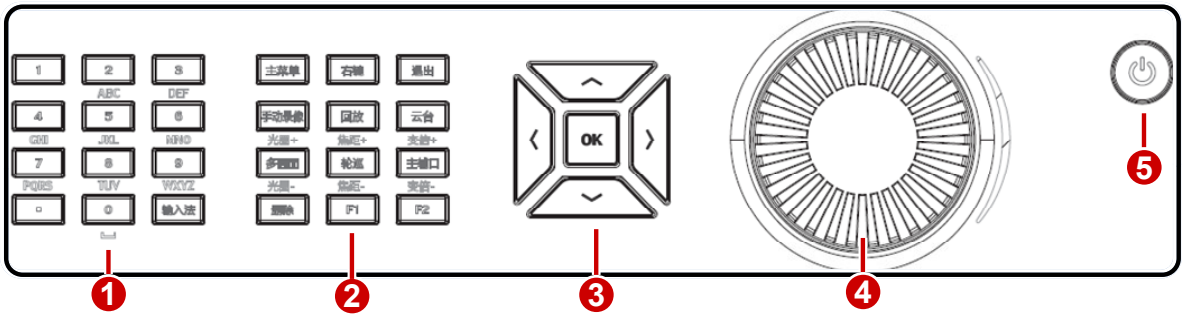
項目	機能と説明
	数字7を入力する;文字PQRSを入力する;スナップ
	数字8を入力する;文字TUVを入力する
	数字9を入力する;文字WXYZを入力する
	数字0を入力する;スペースを入力する
	削除
	入力方法の切り替え
	補助機能ボタン
	当該画面から戻る
	メニューのサブタブを切り替え
	• 方向ボタン：メニューを切り替え；ウインドウ切り替え；パンチルト制御パネルが隠した場合、パンチルト回転の上下左右方向を制御する ○ 左/右ボタン：フルスクリーンの再生画面で、後退 30 秒/前進 30 秒 ○ 上/下ボタン：フルスクリーンの再生画面で、倍数の前進/倍速後退 • ok ボタン：決定操作；再生状態で、放送開始/放送一時停止

表1-4 前パネルボタン 3



番号	名称	機能と説明
1	1	数字1を入力する
	2/ABC	数字2を入力する;文字ABC を入力する
	3/DEF	数字3を入力する;文字DEFを入力する
	4/GHI	数字4を入力する;文字GHIを入力する
	5/JKL	数字5を入力する;文字JKLを入力する
	6/MNO	数字6を入力する;文字MNO を入力する
	7/PQRS	数字7を入力する;文字PQRSを入力する
	8/TUV	数字8を入力する;文字TUVを入力する
	9/WXYZ	数字9を入力する;文字WXYZを入力する

番号	名称	機能と説明
	0/␣	数字0を入力する;スペースを入力する
2	メインメニュー	メインメニュー画面に入る
	右ボタン	右ボタンのメニューを出す
	退出	当該画面から戻る
	手動録画/アイリス+	手動録画;パンチルト制御状態のアイリス拡大
	再生/焦点距離+	再生;パンチルト制御状態の焦点距離拡大
	パンチルト/ズーム+	パンチルト;パンチルト制御状態のズーム拡大
	マルチ画面/アイリス-	マルチ画面;パンチルト制御状態のアイリス縮小
	パトロール/焦点距離-	パトロール;パンチルト制御状態の焦点距離縮小
	メイン補助ポート/ズーム-	メイン補助ポート;パンチルト制御状態のズーム縮小
	削除	• 削除
	F1	• 補助機能ボタン
	F2	• メニューサブタブの切り替え
3	方向ボタン&okボタン	• 方向ボタン：メニュー切り替え；ウインドウ切り替え；パンチルト制御パネルが隠した場合、パンチルト回転の上下左右方向を制御する ○ 左/右ボタン：フルスクリーンの再生画面で、後退 30 秒/前進 30 秒 ○ 上/下ボタン：フルスクリーンの再生画面で、倍数の前進/倍速後退 ○ ok ボタン：決定操作；再生状態で、放送開始/放送一時停止
4	ワンキー操作ボタン	プレビュー画面でウインドウの切り替え;メインメニュー画面でメニューの切り替え
5	電源ボタン	ログイン状態で、【電源】ボタンを3秒間以上長押して、OFFの提示があり、決定した後OFFになる

2 初期設定

2.1 スタート準備

- 少なくとも一つのディスプレイが設備の後パネルにある VGA/HDMI インタフェースと正常で接続していると確認します。そうでないとローカル画面を表示しません;

- ハードディスクが正しく取り付けたことをご確認ください。ハードディスクの詳しい取付け手順は、快速ガイドをご参照ください。

2.2 スタートガイド

スタートガイドにより簡単な設定を行うことができ、設備が正常に作業させます。

説明：

- 実の状況によりスタートガイドが異なる可能性がありますので、実物に準じてください。1、2 タブ設備はガイド 1 をご参照ください；その他の設備はガイド 2 をご参照ください。
- 下記の内容は、非 RAID 設備が初回スタートのガイド画面です。

2.2.1 ガイド

操作手順は下記の通り：

(1) 自分の需要により、次回スタートの際、ガイドをポップアップするかどうかを選択します。<次へ>をクリックして、[パスワード変更]画面に遷移します。





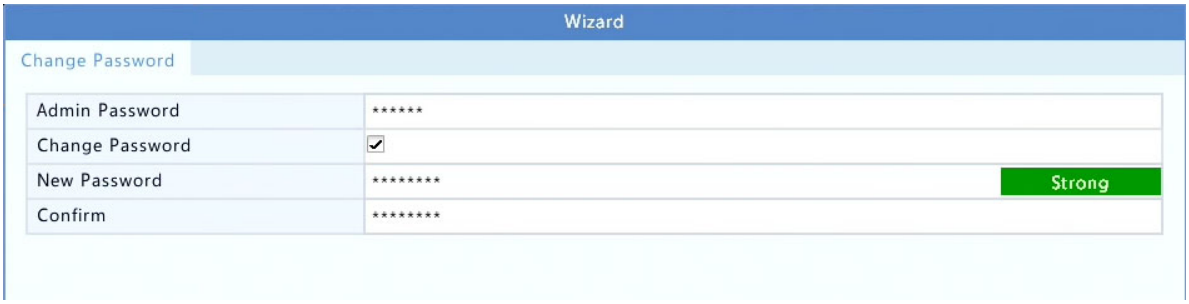
説明：

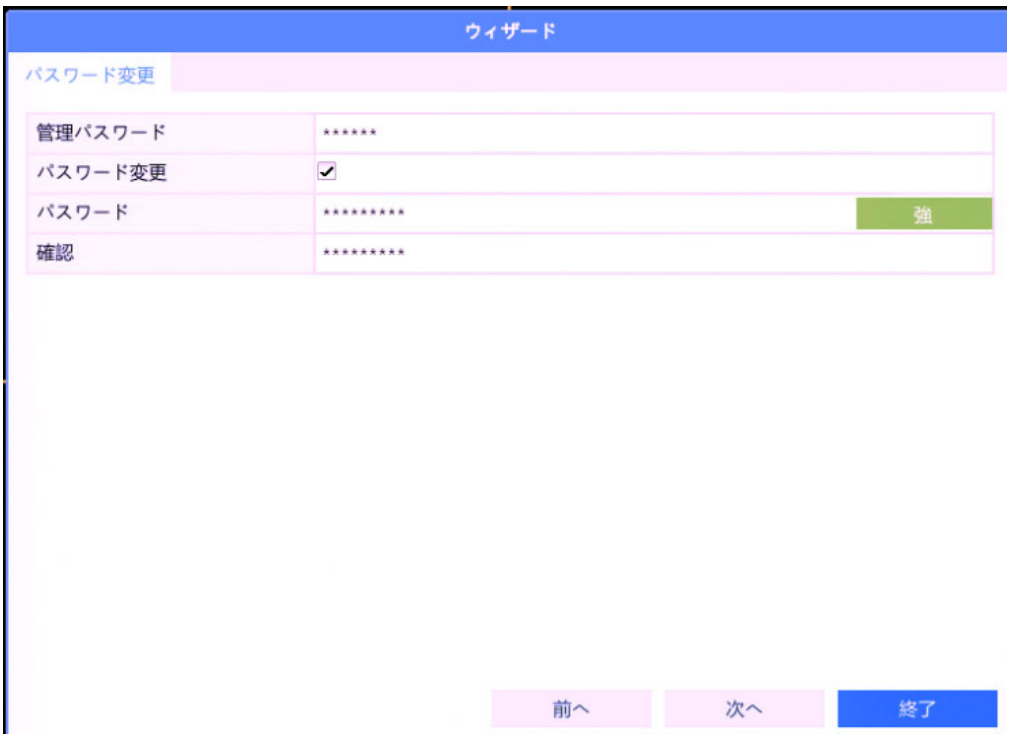
- チェックボックスを選択しないと、NVR が次回スタート後、ガイド画面をポップアップしません。[メインメニュー>システム設定>基本設定]を選択して、「基本設定」画面に遷移し、スタートガイドを選択します。
- QR コードがある画面に対して、QR コードをスキャンして APP をダウンロードして、無線で当該 NVR の制御を実現します。

(2) 管理者パスワード（デフォルトに 123456 と設定しました）を入力して、<次へ>をクリックして、[時間設定]画面に遷移します。

ご注意：

安全のため、初期パスワードを強いパスワードに変更するとお勧めます。大文字、小文字、数字と特殊文字の 3 種や全部を使用し、且つ長さが 8 文字以上でなければなりません。





説明：

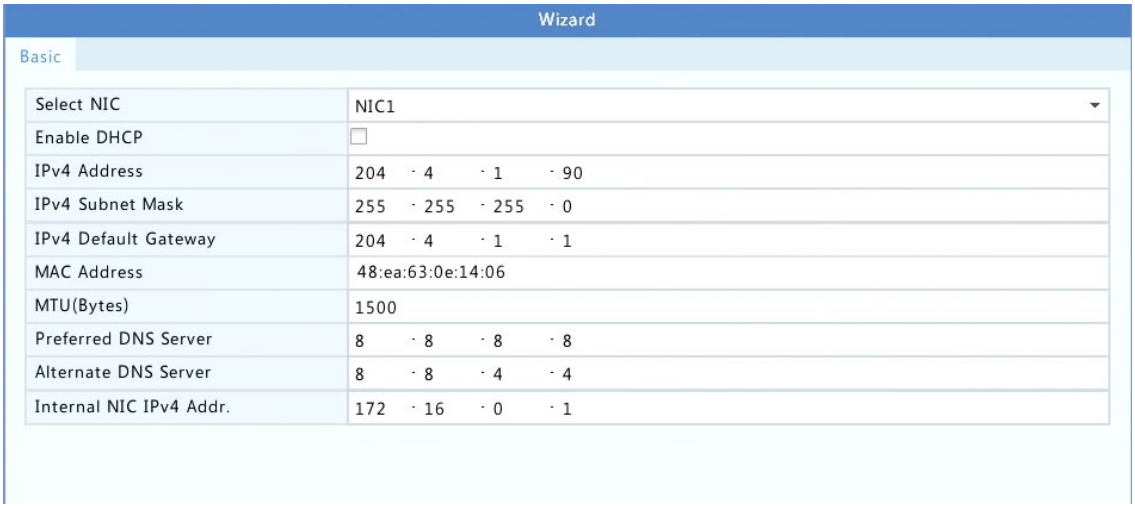
RAID 型設備は、パスワード変更後 RAID の設定画面に遷移します。自分の要求により RAID を設定してください。

(3) タイムゾーン、日時と時間フォーマットを選択し、且つシステム時間を設定した後、<次へ>をクリックして、[有線インターネット]画面に遷移します。





(4) IP アドレス、ネットのマスク、デフォルトゲートウェイを設定します。特別な要求がなければ、その他のパラメータはデフォルト設定を保持します。<次へ>をクリックして、[IP チャネル]画面に遷移します。

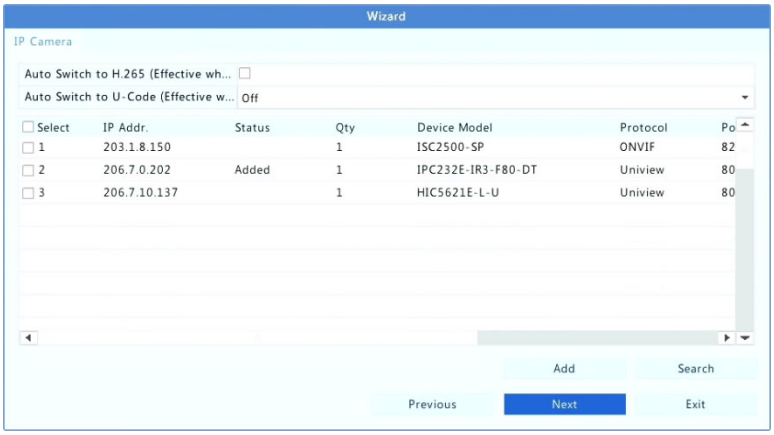




説明：

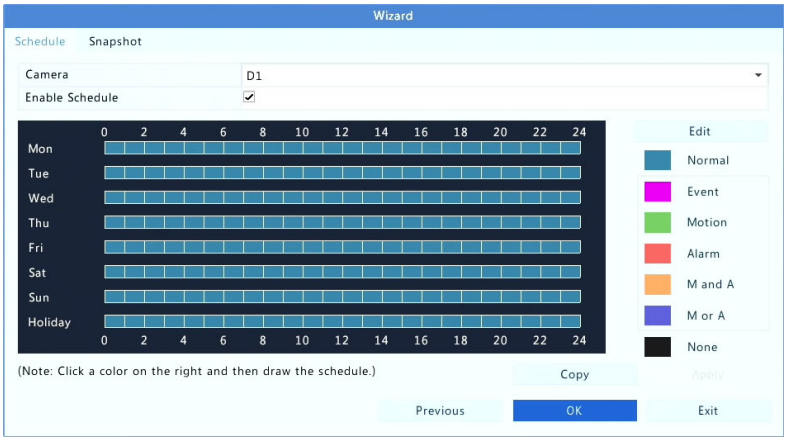
- 一部の設備はデフォルトに「自動的に IPv4 アドレス取得」を選択します。
- マルチネットカード設備に対して、設定の必要があるネットカードとデフォルトルーターを選択することができます。
- PoE ネットワークインターフェースや交換ネットワークインターフェースが付けている設備は、内部ネットカードの IPv4 アドレスも設定できます。

(5) <探索>をクリックして、設備は自動的に IP 設備を探索します。追加の必要ある IP 設備を選択した後、<追加>をクリックします。<次へ>をクリックして、[録画/カット設定]画面に遷移します。?





(6) 録画/カット計画を設定します。<決定>をクリックして、ガイド設定を完成します。





説明：

[メインメニュー>システム設定>基本設定]を選択して、「基本設定」画面に遷移します。<スタートガイド>をクリックして、メインメニュー画面に設定ガイドを表示させます。

3 プレビュー

3.1 プレビュー画面状態

プレビュー画面において、各チャネルの録画、アラームなど状態は、プレビューウインドウの上方にある絵表示と対応しています。

表3-1 プレビュー絵表示の説明

アイコン	意味	絵表示	意味
	遮断アラーム		録画
	動き検出アラーム		音声対談

アイコン	意味	絵表示	意味
	音声放送		

スマート

設備使用中、下記のウインドウ状態があります：

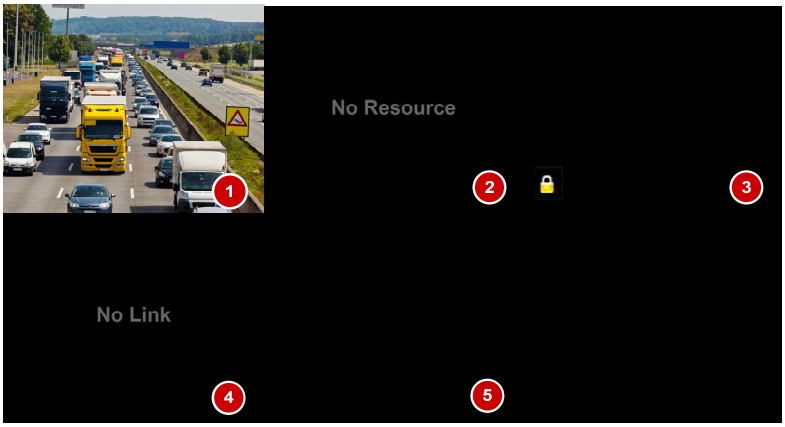


表3-2 ウインドウ状態の説明

番号	詳細
1	関連ウインドウに追加したIP設備がオンラインになり、且つイメージを表示します
2	関連ウインドウに追加したIP設備がオンラインになったが、NVR設備デコード能力の不足で、イメージを表示することができません
3	関連ウインドウのイメージをチェックする権限がありません
4	関連ウインドウに追加したIP設備がオフラインです
5	関連ウインドウにIP設備を追加しません

3.2 ウインドウツールバー

プレビューの状態でウインドウをクリックして、ツールバーを表示します。

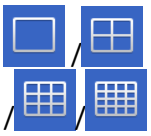
表3-3 ウインドウツールバーのボタン説明

アイコン	ボタン名称	詳細
	パンチルト制御	パンチルトビデオがプレビューの状態で、クリックしてパンチルト画面に遷移します
	フィッシュアイモード	フィッシュアイモードの取付けと表示(フィッシュアイ設備のチャネルだけ表示します)を設定します
	ローカル録画	ウインドウに再生していることをハードディスクに書き込みます。録画開始後、アイコンがと変更し、クリックするとローカル録画が停止になります
	リアルタイム再生	今の時間より5分半間以前の録画を再生します
	デジタル拡大	ウインドウに放送している画像を比例的に一部拡大します
	画像設定	クリックして画像設定画面に遷移します。ウインドウに放送している画面に対し、モード選択とパラメータ設定を行います。[メインメニュー>チャネル設定>画像パラメータ]を選択して設定できます

アイコン	ボタン名称	詳細
	カット	クリックしてカットできます。ウインドウに白い点滅があります。[メインメニュー>フィードバック>画像フィードバック]を選択して、カット結果チェック及びフィードバック操作ができます
	チャネル情報	マウスをボタンに遷移させると、ウインドウのリアルタイム情報を了解することができます；クリックして、チャネル情報画面に遷移します
	音声対談	NVRとフロントエンドIPCの音声対談機能ができます。をクリックすると対談停止になり、音量も調節できます。 ご注意： 音声対談は、独立のオーディオ入力出力インターフェース（AUDIO IN/OUT）と接続しなければなりません
	静音取り消し	録画の音声を放送している時、をクリックすると、音声がなくなります。音量も調節できます。 ご注意： ウインドウの音声を放送するとき、この前放送しているウインドウの音声がなくなります
	カメラ変更	クリックしてIPチャネルの変更画面に遷移します。当該チャネルと接続しているIP設備を置き換えます
	ツールバー退出	当該ウインドウのツールバーから退出します

3.3 下部ツールバー

表3-4 下部ツールバーのボタン説明

アイコン	詳細
	クリックしてメインメニューに遷移します
	クリックして1/4/9/16画面を選択します
	クリックして、前のスクリーン/次のスクリーンを選択します
	クリックしてパトロールをON/OFFします
	クリックして再生画面に遷移します
	リストにあるUディスクを選択して、USB設備画面をポップアップします。Uディスク機能の快速ガイドがあり、クリックして対応の画面に遷移します 説明： • U ディストを差し込んだ設備だけ本機能があります • 設備再起動の際、或いはプレビュー画面の時 U ディスクを差し込むと、システムは自動的に USB 画面をポップアップする機能をサポートします
	クリックしてチャネル状態とコーディングパラメータ（フレームレート、ビットレート、解像度など）を表示します
	クリックして、設備のアラーム状態とチャネルアラーム状態を表示します

アイコン	詳細
	マウスをボタンに遷移させ、ネットカードの情報を表示します；ボタンをクリックして、インターネットの基本設定画面に遷移します
	マウスをボタンに遷移させ、時間情報を表示します；ボタンをクリックして、時間設定画面に遷移します
	クリックしてクラウドサービス画面に遷移します。QRコードのスキャンでAPPをダウンロードして、無線でNVRを制御します **説明：** 一部の設備だけクラウドサービスをサポートします
	クリックしてツールバーを隠します；をクリックしてツールバーをロックします

3.4 右ボタンメニュー

プレビュー画面において、右ボタンをクリックして、下図の快速メニューをポップアップします、詳細な機能は下記の通り：

表3-5 プレビュー操作

メニュー	詳細	画面
メインメニュー	メインメニュー画面に遷移します	
シングル画面	メニューをスクロールダウンして、シングル画面の切り替えを行います	
マルチ画面	メニューをスクロールダウンして、ディスプレイの画面分割モードを変更します	
コリドーモード	マルチ分割した画面でコリドーモードの録画をチェックします 説明： [メインメニュー>システム設定>プレビュー設定]により、スタートのデフォルト画面のスクロールウインドウにコリドーモードの分割表示を選択することができます	
メイン補助ポート	異なるビデオ出力インターネットのリアルタイムライブビュー画面を切り替えます	
フィッシュアイモード	フィッシュアイモードの取付けと表示モードを選択します	
パンチルト制御	デフォルトに第一番目のパンチルトカメラのパンチルト制御画面に遷移します	
カメラの新規追加	IPチャネル画面に遷移して、カメラを新規追加します	
再生	選択されたチャネル当日の再生画面に遷移します 説明： ウインドウは何れのチャネルとバインディングしていないと、チャネルを選択しなくて、自動再生を実行しません	
出力モード	ポップアップにより画面のプレビュー効果を選択します。出力モードは標準、柔らかいなど選択肢があります	

説明：

- 正確的にコリドーモードの画面を表示するために、カメラを右や左へ 90 度を回った後取付けます。そして[メインメニュー>チャネル設定>画像パラメータ]を選択して、「画像設定」画面に遷移し、画像をミラーリングで右や左へ 90 度を回って設定します。
- チャネルをコリドーモードと設定すると、当該チャネルと対応しているエリアの操作（例えば、デジタル拡大、動作検出エリアなど）はコリドーモードで行います。

3.5 パトロール設定

パトロールはディスプレイのレビュー画面において、画面分割モードにより対応のプレビュー画像を出力し、且つ一定の時間間隔で循環で切り替えます。

以下は 5 のカメラを使用し、ディスプレイで 4 分割表示(クワッドビュー)を表示することを例として操作手順を説明します：

(1) プレビューウインドウを 4 分割表示(クワッドビュー)に切り替えます。

プレビュー画面に遷移します。右ボタンをクリックして、[マルチ画面>4 画面]を選択して、ディスプレイ画面を 4 の部分に分けます。

説明：

異なる型番号の設備の画面分割数が異なりますので、使用の際、具体の状況に準じてください。

(2) パトロールのスタート。

下部のツールバーをクリックすると、システムはプレビューウインドウの 4 分割表示(クワッドビュー)に対応している各カメラをパトロールします。2 のディスプレイで表示し、各ディスプレイは 4 のウインドウ（第 2 番目のディスプレイは一つのカメラだけ表示します）があり、そしてパトロールの間隔により続いて循環切り替えを行います。





説明：
システムにおいて、デフォルトにパトロールの切り替え時間は 8 秒とします。パトロール時間を変更の場合、[メインメニュー>システム設定>プレビュー設定]を選択して、「プレビュー設定」画面に遷移して、パトロール間隔を設定します。

3.6 デジタル拡大

再生プレビュー画面を一定の比例で一部拡大することができます。そうすると、関心な画像の詳細をチェックすることができます。

デジタル拡大に操作手順は下記の通り：

(1) プレビュー画面に遷移して、リアルタイムライブビュー放送しているウインドウをクリックして、ツールバーのを選択して、デジタル拡大画面に遷移します。

(2) 画面の右下にマウスの左ボタンで拡大エリアを選択して、赤い枠エリアの画面を拡大します。



説明：
赤い枠のエリアは、ウインドウのサイズと比例により自動的に調節することができます。且つ拡大効果を保証するために、赤い枠をマークする時、最小エリアの制限があります。

3.7 画像設定

画像設定により、ユーザは具体的なチャネルに対して画像の表示効果を設定します。

操作手順：

(1) プレビュー画面に遷移して、リアルタイムライブビュー放送しているウインドウをクリックして、ツールバーのを選択して、画像設定画面に遷移します。?





(2) 画像モードを選択して、画像のパラメータを変更します。

表3-6 画像パラメータの説明

アイコン	意味	詳細
	明るさ	画像の明るさです。値が大きくなるほど、画像が明るくなります。
	飽和度	画像の色の鮮やかさです。値が大きくなるほど、画像の色の鮮やかになります。
	コントラスト	画像の最も明るい（白い）と最も暗い（黒い）の比です。値が大きくなるほど、画像の明暗の反差が大きくなります。
	色調	画像にある色の純度です。

(3) <決定>をクリックして、設定を終了させ、当該画面から退出します。

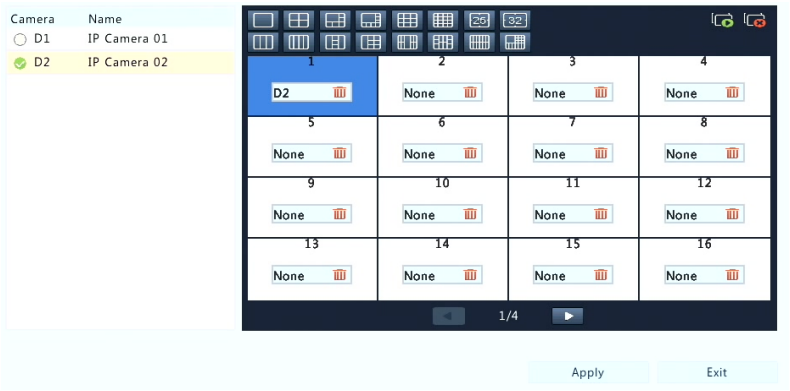
3.8 プレビュー設定

3.8.1 基本設定?

一般的に、スタートガイドにより設定を行った後、プレビュー開始になります。プレビューのパラメータを変更する必要があれば、下記の手順により操作します。

(1) [メインメニュー>システム設定>プレビュー設定]を選択して、「プレビュー設定」画面に遷移します。

(2) プレビューパラメータを設定します。例えば出力ポート、解像度と画面分割数など。





説明：

- マウスのロールを 3 秒以上長押して、デフォルト解像度に回復します。
- 出力ポートと設備サポートしている画面分割数はご参照だけで、異なる型番号の設備の画面分割数が異なりますので、使用の際、具体の状況に準じてください。

(3) <適用>をクリックして、設定完了になります。

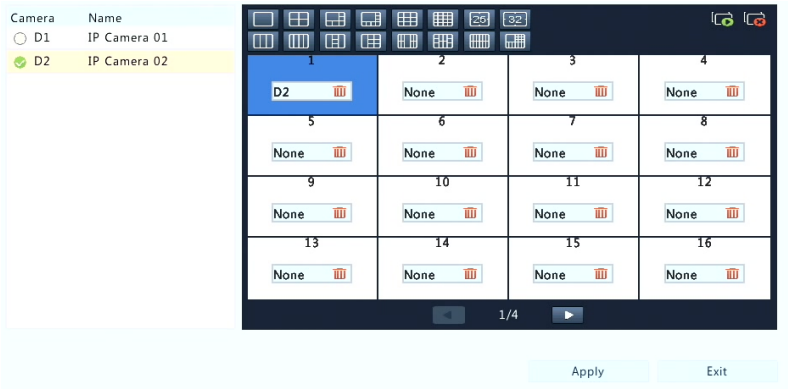
3.8.2 ビュー設定

リアルタイムライブビューウインドウとチャネルは一々対応としています。即ち第 1 ウインドウはチャネル D1 と対応し、第 2 ウインドウはチャネル D2 と対応し、順次類推します。プレビュー設定画面のビュー機能はチャネルとウインドウの動的バインディングが実現できます。D1 と D2 チャネルウインドウの互換を例として操作手順を説明します。

説明：

リアルタイムライブビュー画面において、直接にウインドウを引いて互換することができます。そしてプレビュー設定画面に戻して、引いた後のビュー対応関係をチェックします（推薦）。当該方法の実現条件は、ユーザが「設定」権限を許し、且つ異なるディスプレイ間のウインドウ互換ができないことです。

(1) 右エリアにある第一ウインドウ D1 をクリックして、選択した状態になされて、そして左側のチャネル番号 D2 をクリックすると、第一ウインドウは自動的に D2 に変更し、第二ウインドウが自動的に無しになりました。

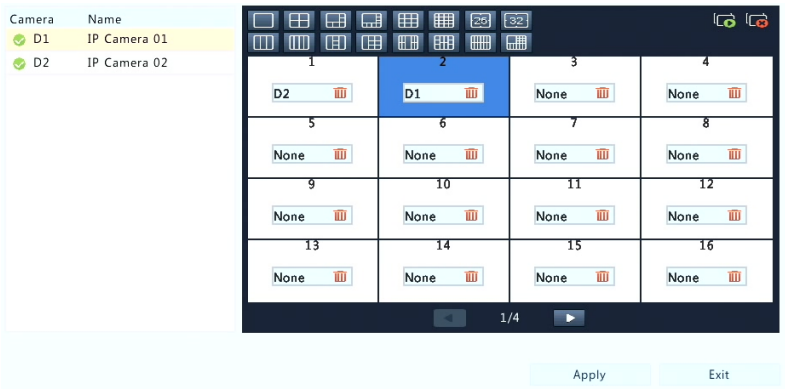




説明：

その時、チャネル番号 D1 のチェック入れアイコンが空く○になると、当該チャネルはプレビューウインドウとバインディングしていないと意味しています。

(2) 右側エリアの第二ウインドウ無しをクリックして、選択した状態になされて、そして左側のチャネル番号 D1 をクリックすると、第二ウインドウは自動的に D1 に変更します。即ち、D1 と D2 のプレビューウインドウ交換を完成しました。



3.8.3 高級設定

[メインメニュー>システム設定>プレビュー設定]を選択して、「高級設定」画面に遷移します。マルチ画面の場合、優先的に補助データレートを使用してリアルタイムライブビューを実現（デフォルトに選択しません）することができます。

4 チャネル設定

4.1 チャネル管理

IP チャネルの管理を設定する前に、IP 設備が NVR のインターネットと接続しているかどうかをご確認ください。

ご注意：

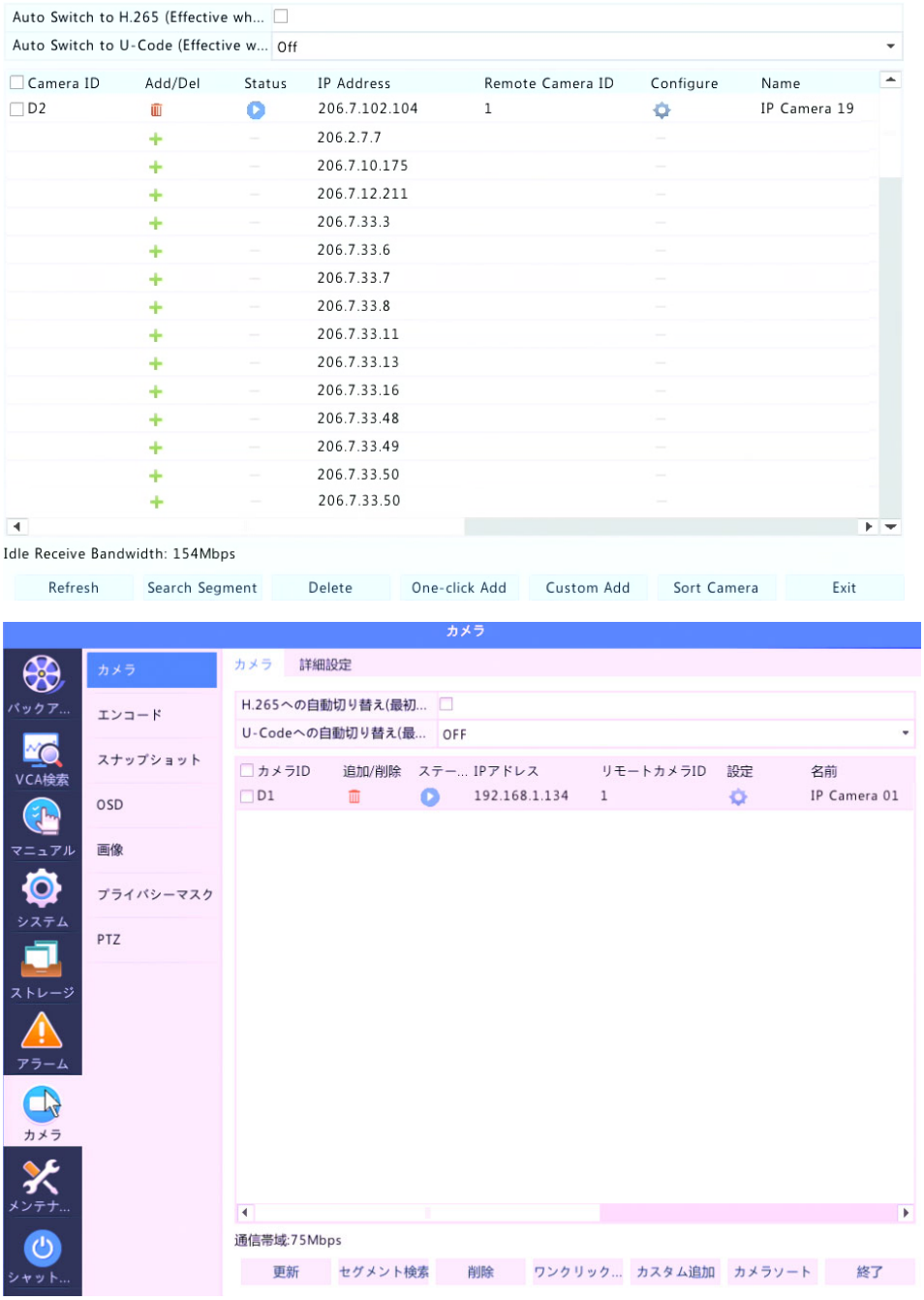
- 本書の IP 設備は、主にインターネットカメラ（IPC）やエンコーダ（DVS）の意味です。
- 一つの IP 設備が一つの NVR と接続されています。そうでないと、IP 設備管理の混乱を引き起こします。

4.1.1 IP チャネルの新規追加

1. 一般の IP 設備の新規追加

操作手順：

(1) [メインメニュー>チャネル設定カメラ？>チャネル管理]を選択して、「IP チャネル」画面に遷移します。



説明：

- 「」の場合、設備オンラインの意味で、本ボタンをクリックしてリアルタイムライブビュー画面をプレビューすることができます。「」の場合、設備オフラインの意味で、マウスを当該ボタンを指して、オフライン原因のヒントを表示します。
- ページ下部のヒントにより、タイムリーにインターネットの受信余剰帯域幅をチェックすることができます。帯域幅について、詳細は「14.2.6 ネットワーク資源統計」をご参照ください。

(2) この時、システムはデフォルトに一回の快速探索を実行します。<更新>をクリックして、システムは自動的にネットワークにある IP 設備を探索し、且つ IP チャネルの状態を更新します。

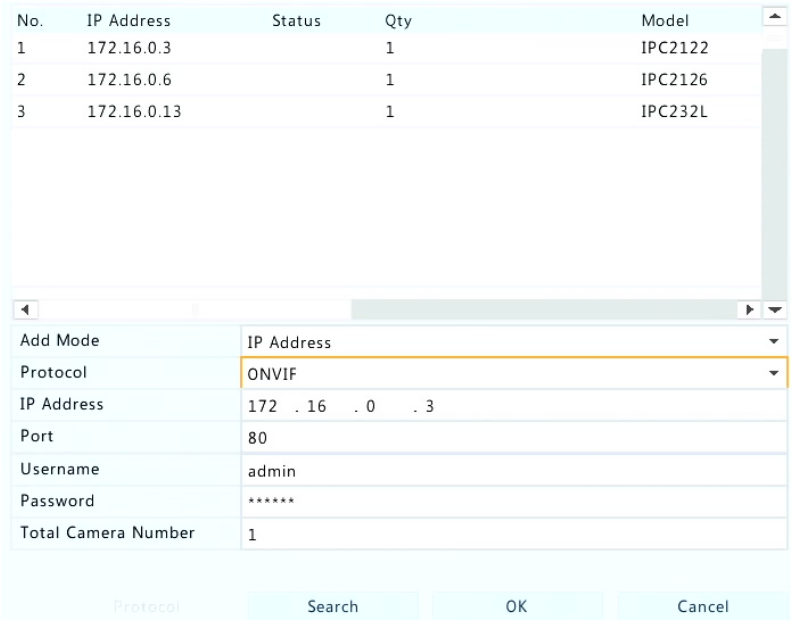
説明：

<セグメント探索>をクリックすると、セグメントにおいて IP 設備を探索することができます。

(3) 「＋」をクリックして、IP 設備をチャネルに追加することができます。

- <ワンキー追加>をクリックして、設備許可の範囲内、探索できた IP 設備を全部 NVR に追加します。
- <カスタム追加>をクリックして、下記の「カスタム添加 IP チャネル」画面に遷移します。

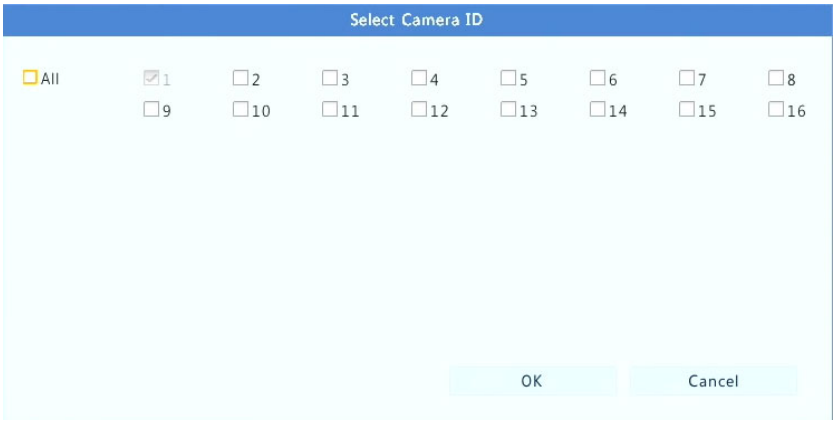
手動で追加する必要がある IP 設備の IP アドレスとパラメータを入力して、<追加>をクリックします。繰り返し操作して、その他の IP チャネルの追加を実行します。

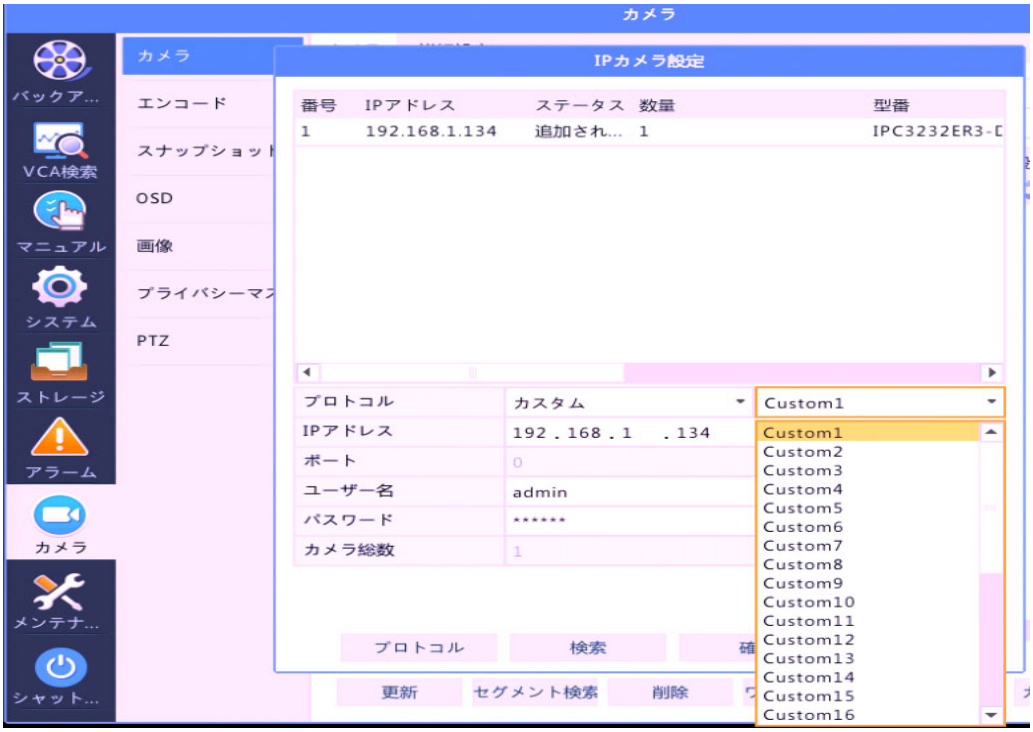




説明：

- 下記の画面は自動探索機能があります。直接に探索リストの IP 設備を選択して、<追加>をクリックします。
- 複数ロードの DVS 設備を追加する場合、<追加>をクリックする時下記の画面があり、複数のチャネル番号にチェックをいれて、DVS 設備が複数のチャネルと対応している機能を実現します。



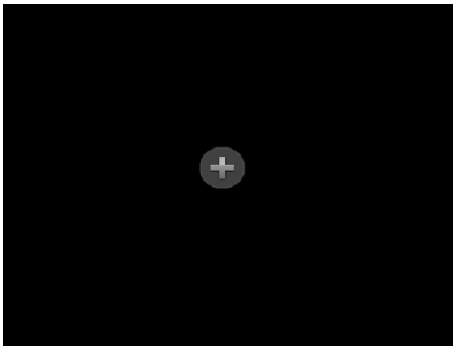


2. IP 設備の快速追加

説明：

PoE ネットワークインターフェースや交換ネットワークインターフェースが付いている設備は IP チャネルの快速追加機能をサポートしません。

(1) プレビュー状態で、IP 設備を追加しないウインドウに対して、「+」をクリックして「IP 設備の追加」画面に遷移します。



(2) 追加する必要がある IP 設備を選択して、<追加>をクリックすると IP 設備の快速追加を実現します。

3. プラグアンドプレイで IP 設備の追加

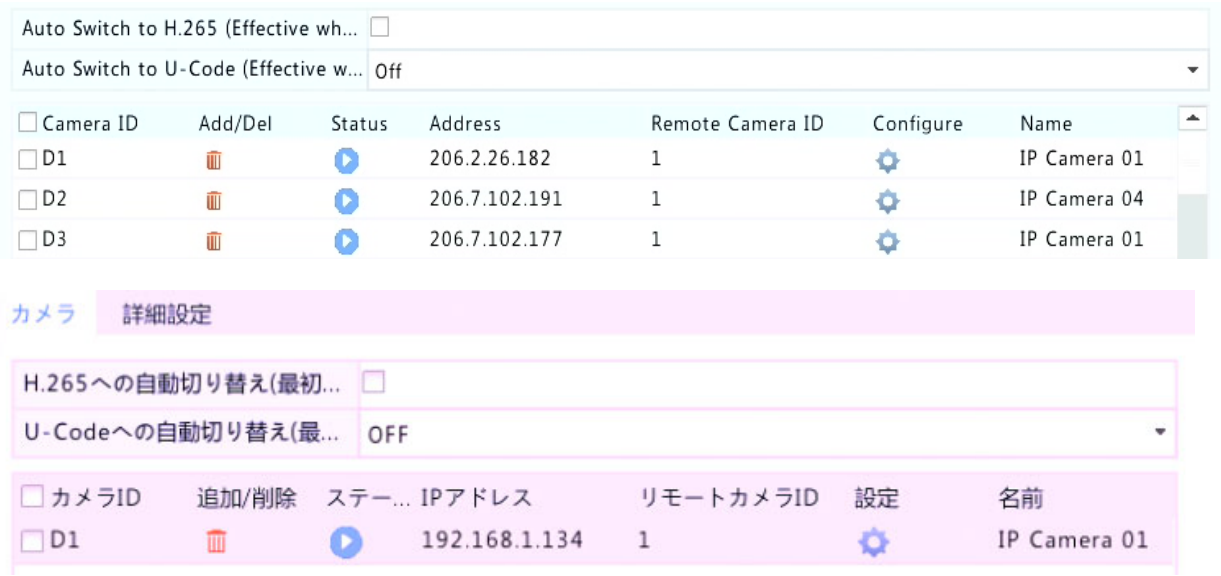
説明：

- PoE ネットワークインターフェースや交換ネットワークインターフェースが付いている設備だけプラグアンドプレイで IPC を追加する機能をサポートします。
- PoE ネットワークインターフェースや交換ネットワークインターフェースと対応しているチャネルが削除できません。

操作手順：

(1) IPC をケーブルで直接に NVR の PoE ネットワークインターフェースや交換ネットワークインターフェースと接続すると、設備は自動的に当該 IPC に接続します。

(2) [メインメニュー>チャネル設定>チャネル管理]を選択して、「IP チャネル」画面に遷移して、接続状態をチェックします。



説明：

- PoE ネットワークインターフェースや交換ネットワークインターフェースと対応しているチャネルにネットワークの直接に接続しない IPC を追加すれば、編集ボタン をクリックして、デフォルトしている「プラグアンドプレイ」の追加方法を「手動」に変更し、且つ正確的に関連パラメータを設定します。
- PoE ネットワークインターフェースが付いている設備に対して、オンラインの IPC は電力不足や電力超過の場合、「状態」ところで を表示します。

4. 公衆通信ネットをクロスしている IP 設備の追加

- NVR と IPC が異なるルードにある場合、公衆通信ネットをクロスして IP 設備を追加することができます。

説明：
公衆通信ネットをクロスして IPC を追加する場合、まず IPC の Web 画面にアクセスして、[設定>ポート設定>ポートマッピング]を選択して、ポートマッピングを ON にして保存します。

操作手順：

（1）ローカル画面において、[メインメニュー>チャネル設定>チャネル管理]を選択して、IP チャネル画面に遷移して、<カスタム追加>をクリックして“カスタムで IP チャネル追加”画面に遷移します。

（2）追加方法の選択

- IP アドレスの追加
  - IPC の Web 画面から[設定>ポート設定>ポートマッピング]画面に遷移して、IPC 公衆通信ネットの IP アドレスと外部ポートを取得します。
  - ローカルポートにおいて、プロトコルを選択して、取得した IP アドレス、ポート及びユーザ名、パスワードなどを入力します。
  - <決定>をクリックして、追加完了になります。

説明：
- 公衆通信ネットクロス追加は、GB28181 プロトコルの追加をサポートしません。

- EZDDNS 追加
  - IPC の Web 画面にアクセスして、[設定>ネット>DDNS]画面に遷移して、DDNS サービスを ON にし、DDNS タイプは EZDDNS を選択します。ドメイン名を設定して、サーバアドレスを取得します。

注意：
- ドメイン名設定後、設備のアドレスで IPC の Web にアクセスできるようと保証します。
- すべての使用している EZDDNS サーバは NVR のネットと接続可能で、NVR 自身が ping で EZDDNS サーバと接続できます。

  - ローカルポートにおいて、プロトコルを選択して、取得したサーバアドレス、ポート及びユーザ名、パスワードなどを入力します。
  - <決定>をクリックして、追加完了になります。
- 汎用ドメイン名の追加
  - IPC の Web 画面にアクセスして、[設定>ネット>DDNS]画面に遷移して、DDNS サービスを ON にし、DDNS タイプは DynDNS や NO-IP を選択します。ドメイン名申請サイトで申請したドメイン名、ユーザ名とパスワードを入力して、<保存>をクリックします。
  - ローカルポートにおいて、プロトコルを選択して、ドメイン名申請サイトで申請したドメイン名、ユーザ名、パスワードなど情報を入力します。
  - <決定>をクリックして、追加完了になります。

説明:

- カスタムプロトコルを選択して、ポートについて、IPC マッピングした外部 RTSP ポートを選択します。
- １つの IPC が、異なる追加方式で同一の NVR に追加することができません。例えば、１つの IPC は、IP の方式で NVR に追加され、そしれ EZDDNS の方式で NVR に追加することです。
- IPC が EZDDNS/通用イン名/IP アドレス方式(公衆ネット IP と公衆ネットワークインターフェース)の方式で追加された場合、NVR と IPC は異なるルートにあるから、アラームの送信ができないが、設定することのみができます。

5. カスタムプロトコルで IP 設備の追加

ご注意：

カスタムプロトコルの方式で追加した IP 設備は、基準 RTSP ストリーム取得をサポートしなければなりません。そうでないと追加できない。

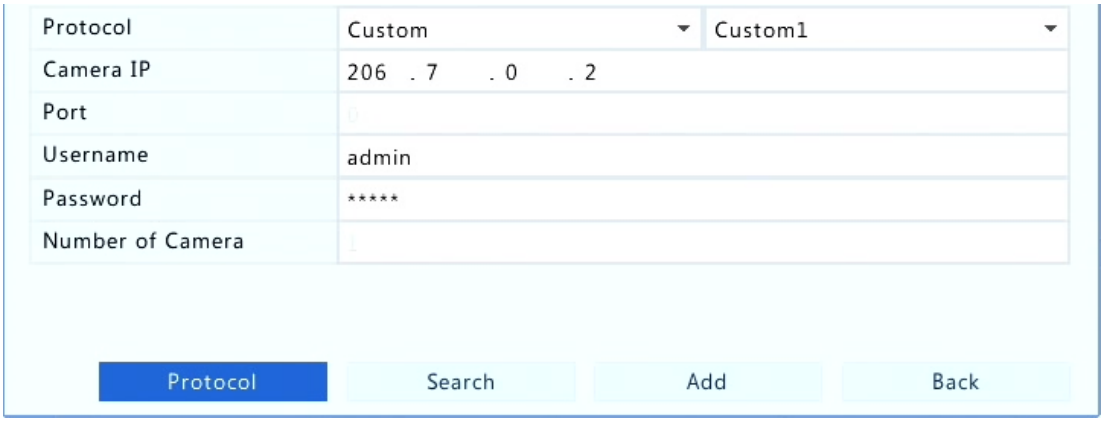
カスタムプロトコルで追加した IP 設備は、リアルタイムライブビューと再生だけサポートし、いずれの設定操作をサポートしません。

操作手順：

(1) [メインメニュー>チャネル設定>チャネル管理]を選択して、「IP チャネル」画面に遷移します。

(2) <カスタム追加>をクリックして、「カスタムで IP チャネル追加」 画面に遷移します。

(3) プロトコルは「カスタム」を選択して、<プロトコル管理>をクリックします。

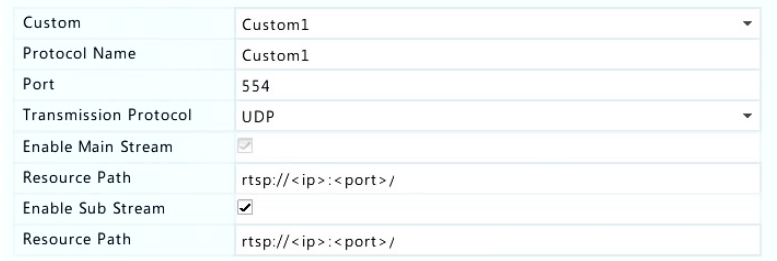




(4) プロトコル管理画面において、プロトコル名称をカスタムして、IP 設備の RTSP ポート番号、転送プロトコル、リソースパスなどパラメータを入力します。<決定>をクリックして、カスタムプロトコルを完成します。

説明：

カメラメーカーにご連絡を取って、メインデータレートとサブデータレートのリソースパスを取得します。





(5) カスタムで IP チャネルの追加画面に戻って、IP チャネルアドレス、ユーザ名とパスワードを入力して、<追加>をクリックして、IP チャネル画面で接続状態をチェックします。

4.1.2 IP チャネル管理

[メインメニュー>チャネル設定>チャネル管理]を選択して、「IP チャネル」画面に遷移します。

1. IP チャネルの設定

目標チャネルを選択して、設定ボタン⚙をクリックして、下記に画面に遷移します。編集完成後、<決定>をクリックします。



説明：

- 当該チャネルに接続した IP 設備を切り替える必要があれば、手動で IP チャネルアドレスを変更し、且つ正確的にその他の関連パラメータを書き込んで、或いは直接に上方のリストにあるその他を設備をクリックします。
- 実の状況によりチャネルの設定画面が異なる可能性がありますので、実物に準じてください。

2. IP チャネルの削除

- 削除する必要がある一つのチャネルを選択して、🗑をクリックして、「この IP チャネルを削除しますか」のシステムヒントがあります。<決定>をクリックして削除します。

- 削除する必要がある複数のチャネルを選択して、<削除>をクリックして、「選択した IP チャネルを削除しますか」のシステムヒントがあります。<決定>をクリックして削除します。

説明：

PoE ネットワークインターフェースや交換ネットワークインターフェースと対応しているチャネルが削除できません。

3. チャネルソート

説明：

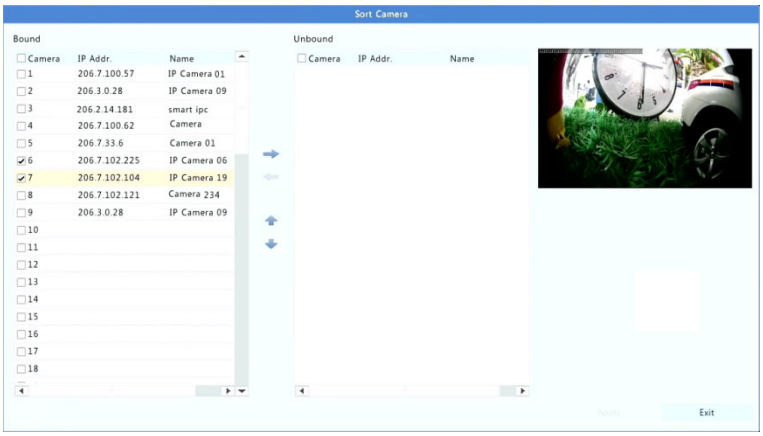
- **POE ポートと交換ポートの設備は、チャネルソート機能をサポートしません。**
- **32 ロード以下（32 ロードが含みます）の設備のチャネルソートは、マウスの引き操作で実現できます。下記は 32 路以上の設備のチャネルソート機能を重点的に紹介します。**

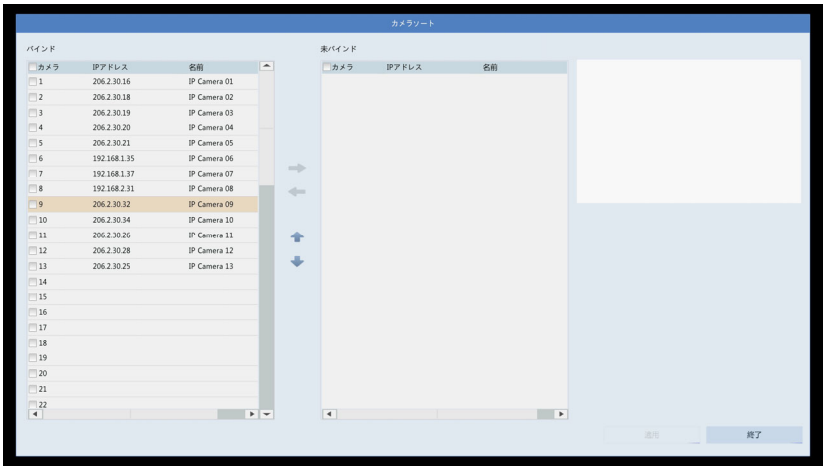
<チャネルソート>をクリックして、下記の画面に遷移します。チャネル 1 とチャネル 4 の互換を例として操作手順を説明します：

(1) 「バインディング済チャネル」リストにおいて、チャネル 1 にチェックを入れて、右へ移動ボタンをクリックすると、チャネル 1 は「バインディングしないチャネル」リストに遷移されました；同じ方法でチャネル 4 を操作します。

(2) 「バインディングしないチャネル」リストにおいて、チャネル 4 にチェックを入れて、左へ移動ボタンをクリックすると、チャネル 4 は「バインディング済チャネル」リストの元々チャネル 1 の位置に遷移されました；同じ方法でチャネル 1 を操作して、チャネル 1 は「バインディング済チャネル」リストの元々チャネル 4 の位置に遷移されました。

(3) 「適用」をクリックして、「YES」によりチャネルのソートを完成します。





ご注意：

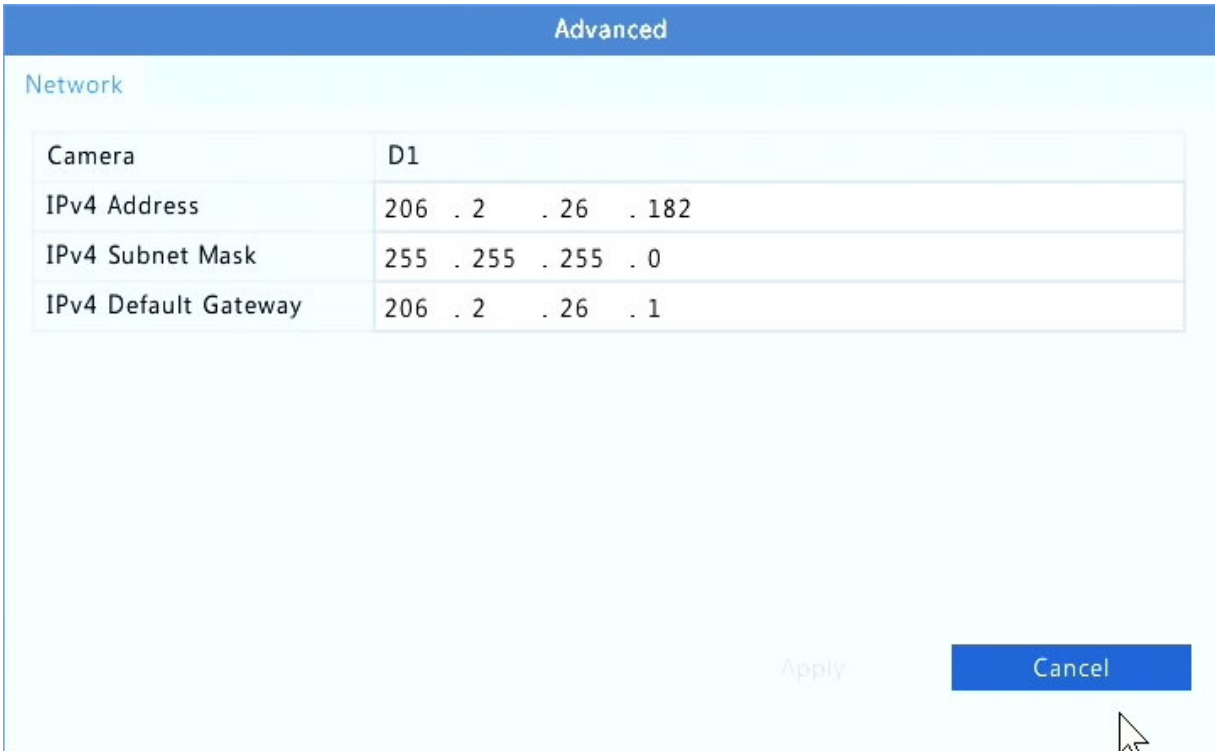
- 上へ/下へ機能は、ハイライトで表示されたチャネル（チェックを入れたチャネルと関係がありません）は上/下のチャネルと位置互換を行います。
- チャネルを左へ移動の際、左側で空く位置にチェックを入れない場合、デフォルトに第一の空く位置に差し込みます；左側で空く位置にチェックを入れた場合、チェックを入れた第一の空く位置に差し込みます。上から下へ、空く位置が無くまで差し込みます。
- 「バインディングしないチャネル」リストにデータがあれば、保存できなくなり、ユーザはデータを全部削除してから保存できます。

4. 高級設定

高級設定ボタン⚙をクリックして、リモートで当該チャネルと接続している IPC の IP アドレスなど情報を修正することができます。

説明：

- アイコン「⁻」は、当該チャネルが高級設定できないと表示します。
- 今 DVS の IP アドレスなど情報を修正することができません。DVS の web 画面に遷移して操作できます。



説明：
実の状況により高級設定の画面が異なる可能性がありますので、実物に準じてください。

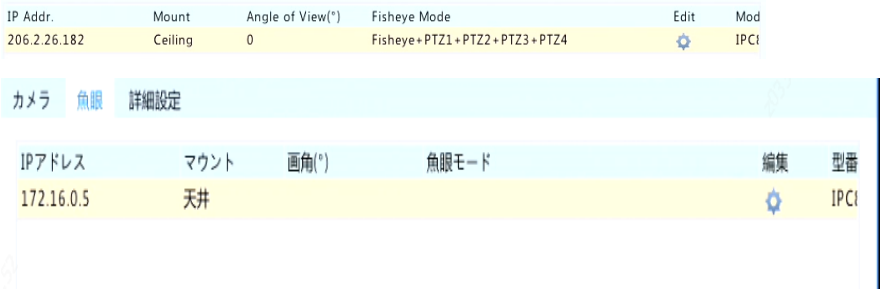
4.1.3 フィッシュアイ補正

一部の設備だけフィッシュアイカメラの後端補正をサポートします。

1. フィッシュアイ設定

説明：
一部のフィッシュアイカメラだけフィッシュアイ設定をサポートします。

操作手順：
[メインメニュー>チャネル設定>チャネル管理]を選択して、「フィッシュアイ設定」画面に遷移します。



(1) 設定ボタン「⚙」をクリックして、「フィッシュアイ設定」タブに遷移します。



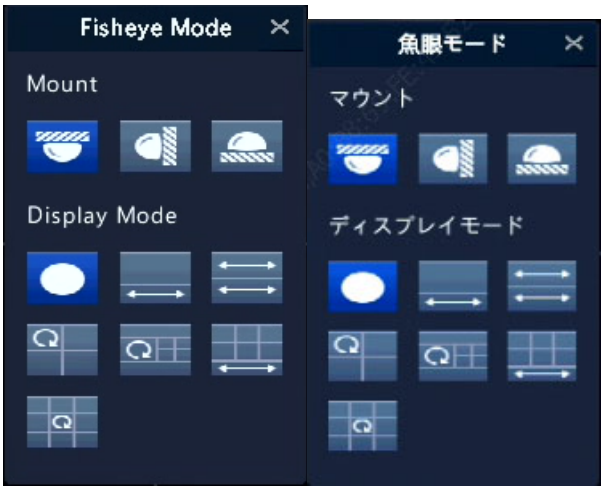


(2) フィッシュアイカメラの取付けモードなどを選択して、<決定>をクリックして、設定完成になります。

2. フィッシュアイ補正

説明：
リアルタイムライブプレビュー画面と再生画面（一般再生モードとコリドー再生モードは補正をサポートします）はフィッシュアイを補正することができます。操作手順は似っています。下記はプレビュー画面を例として補正操作を説明します。

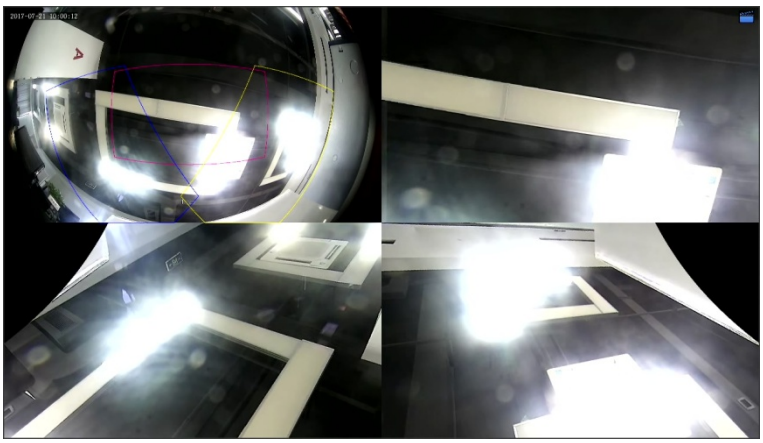
プレビュー画面において、フィッシュアイチャネルを選択して、マウスの右ボタンをクリックして、「フィッシュアイモード」を選択して、下記の画面に遷移します。フィッシュアイの取付けモードと表示モードを設定することができます。



フィッシュアイの取付けモードは、上部取付け、壁取付け、下部取付けです。上部取付けと下部取付けの補正方法は同じです。

取付けモード	表示モード	説明
（上部取付け） （下部取付け）		オリジナル画像
		360°パノラマ＋1PTZ
		180°パノラマ
		フィッシュアイ＋3PTZ
		フィッシュアイ＋4PTZ
		360°パノラマ＋6PTZ
		フィッシュアイ＋8PTZ
（壁取付け）		オリジナル画像
		パノラマ
		パノラマ＋3PTZ
		パノラマ＋4PTZ
		パノラマ＋8PTZ

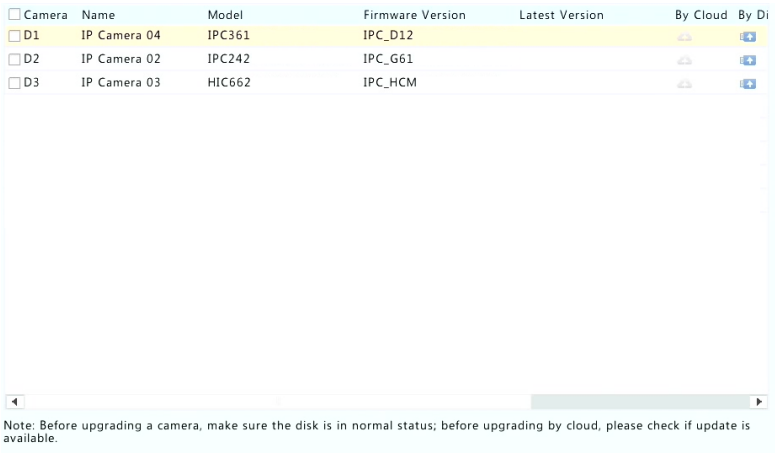
補正操作：上部でフィッシュアイ＋3PTZ が取り付けること例とします

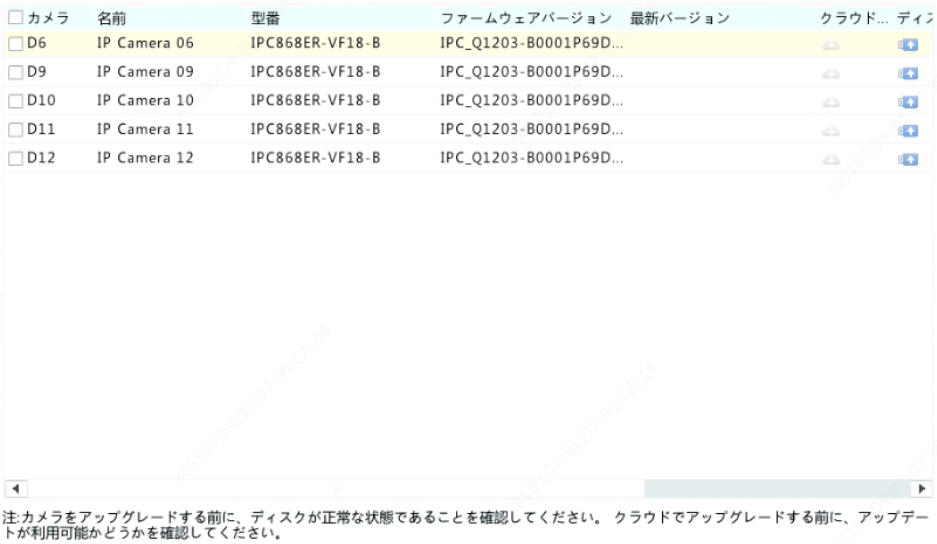


方法一：パノラマ画像にあるカラーエリアの位置の遷移で補正します；
方法二：マウスで補正画像エリアを遷移して、補正します。

4.1.4 高級設定

[メインメニュー>チャネル設定>チャネル管理]を選択して、「高級設定」画面に遷移します。





1. IPC バージョンのアップデート

操作手順：

(1) 「バージョン確認」をクリックして、IPC バージョンは最新バージョンであるかをチェックします；

(2) アップデート方法：

- クラウドアップデート
  - 「☁」をクリックして、一つの IPC をアップデートします。
  - 複数のチャネルを選択して、<クラウドアップデート>クリックして、ロットアップデートを行います。
- U ディスクアップデート

- 「」をクリックして、USB 記憶装置とアップデートファイルを選択して、１つの IPC をアップデートします。
- 複数のチャネルを選択して、<U ディスクアップデート>クリックして、ロットアップデートを行います。

2. デフォルト設定の回復

「」をクリックして、システムヒントをポップアップします。そして<決定>をクリックして、IPC のデフォルト設定に回復します。

4.2 OSD設定

OSD は、録画画像と一緒に重ね合せて画面に表示している文字情報です。
操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>チャネル設定>OSD 設定]を選択して、「OSD 設定」画面に遷移します。

(2) チャネルを選択して、チャネル名称を設定します。

(3) OSD 設定。

自分の要求により日付フォーマット、タイムフォーマットを選択し、表示時間、表示名称と人数統計にチェックを入れ、且つ文字サイズと色を選択することができます。当該チャネルの OSD 位置を変更する必要があれば、直接にマウスで左側の OSD ウインドウを引いて変更します。

説明：
その他のチャネルの設定が同じであれば、<コピー>ボタンをクリックして、コピーする必要があるパラメータと目標チャネルにチェックを入れます。

(4) <適用>をクリックして、設定完了になります。

4.3 画像パラメータの設定

操作手順：

(1) [メインメニュー>チャネル設定>画像パラメータ]をクリックして、「画像設定」画面に遷移します。

(2) チャネルとシーンを選択します。

(3) 「画像設定」画面において、各タブを選択して、パラメータを変更します。

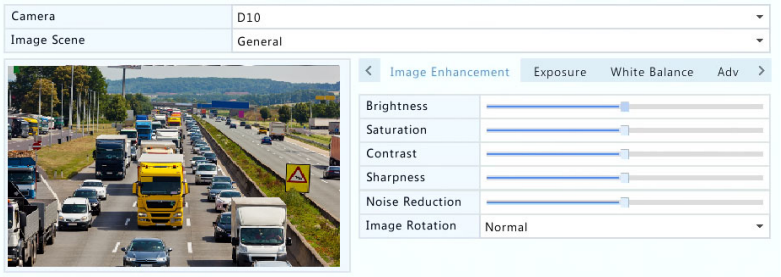
説明：
- IPC がシーン選択機能をサポートする場合だけ、シーンを選択することができます。
- 画像パラメータのデフォルト設定に回復する必要があれば、画面の右下にある<デフォルト設定に回復>ボタンをクリックします。本機能は、IPC のプロトコルがプライベートプロトコルであるだけ実行できます。
- 画像パラメータを変更すると、プレビュー画像だけでなく、録画画像も変えます。

(4)

1. 画像強化パラメータの設定

操作手順：

(1) 「画像強化」タブを選択して、画像強化設定画面に遷移します。





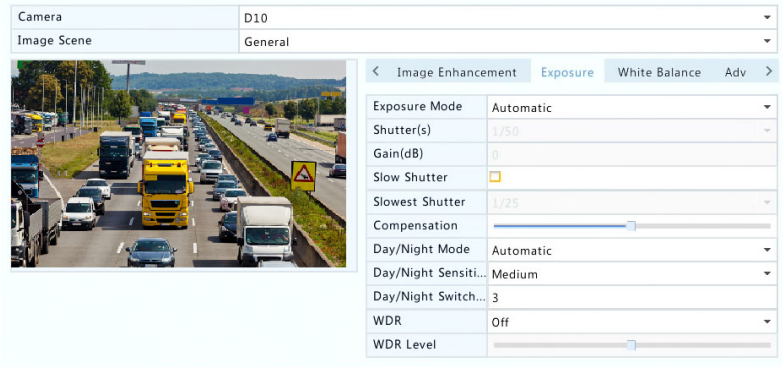
(2) 画像の右にある各パラメータを変更して、明るさ、飽和度など画像強化に関するパラメータをよく設定します。重要な画像パラメータに関する説明は下表の通り：

内容	詳細
明るさ	画像の明るさです。値が大きくなるほど、画像が明るくなります。
飽和度	画像の色の鮮やかさです。値が大きくなるほど、画像の色の鮮やかになります。
コントラスト	画像の最も明るい（白い）と最も暗い（黒い）の比です。値が大きくなるほど、画像の明暗の反差が大きくなります。
色調	画像にある色の純度です。
アキュータンス	画像エッジのアキュータンス程度です。
画像ノイズ除去	画像に対してノイズ除去操作を行います。
画像のミラーリング	• 正常：ミラーリング処理しません • 垂直：垂直方向のミラーリング処理を行います • 水平：水平方向のミラーリング処理を行います • 水平+垂直：同時に垂直方向、水平方向のミラーリング処理を行います • 左へ 90 度回転、右へ 90 回転：画像のコリドーモードを表示します。前提として IPC が左や右へ 90 度回転で取り付けています。

2. 露出パラメータ設定

操作手順：

(1) 「露出パラメータ」タブを選択して、露出パラメータ設定画面に遷移します。





(2) 画像の右にある各パラメータを変更します。重要なパラメータの説明は下記の通り：

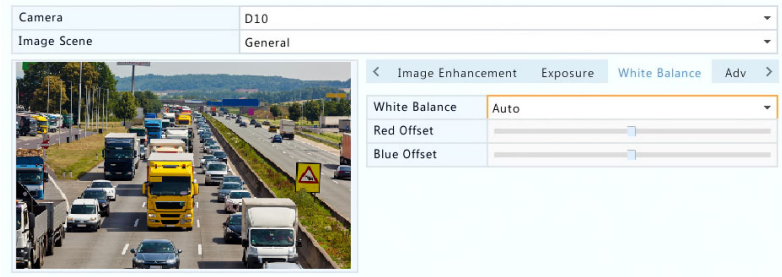
内容	詳細
露出モード	異なるモードを選択して、要求の露出効果に達します。
シャッター時間	写真機のレンズに取り付け，光のはいる穴を開閉する装置です。シャッター時間が短い場合、運動撮影に適応します；シャッター時間が長い場合、変化が遅いことの撮影に適応します
ゲイン	画像の信号の制御を通して、異なる光環境でも基準のビデオ信号を出力することを保証します
アイリス	アイリスサイズを調節して、光を制御します
スローシャッター	起動後、低光環境で画像輝度をアップさせます
一番スローのスローシャッター	露出の際使用できる一番スローのシャッター値です
露出補正	露出を調節して、要求の画像効果を取得します
デイ&ナイト機能	• 自動：光環境の変化により、最高の画像を出力することができます。黒白モードとカラーモードの切り替えができます • 黒白：光環境を利用して、高品質の黒白画像を出力します • カラー：光環境を利用して、高品質のカラー画像を出力します
デイ&ナイト機能の感度	設備はラカー/黒白切り替える時、対応している光しきい値です。感度が高くなるほど、切り替えが容易になります

内容	詳細
デイ&ナイト機能の切り替え時間	切り替え時間に達した後、設備は黒白モードとカラーモードの切り替えが行います
ワイドダイナミックレンジ	起動後、同時に画像にある亮と暗のエリアを見えます
ワイドダイナミックレンジレベル	ワイドダイナミック起動後、本パラメータを小生して、画像を改善します

3. ホワイトバランスパラメータ設定

操作手順は下記の通り：

(1) 「ホワイトバランス」タブを選択して、ホワイトバランスパラメータ設定画面に遷移します。





(2) 画像の右にある各パラメータを変更します。重要なパラメータの説明は下記の通り：

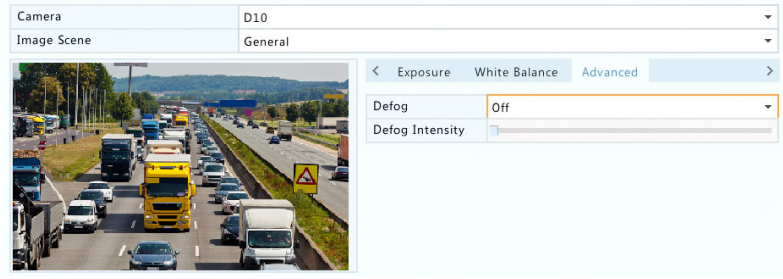
内容	詳細
ホワイトバランスモード	画像全体の Red ゲインと Blue ゲインを変更して、外部の光で引き起した誤差を修正します • 自動：設備は光環境により自動的に Red ゲインと Blue ゲイン（冷たい色調モード）を変更します • 微調整：手動で Red と Blue のオフセット値を変更します
Red オフセット値	ホワイトバランスモードの Red ゲインを手動で変更します
Blue オフセッ	ホワイトバランスモードの Blue ゲインを手動で変更します

内容	詳細
ト値	

4. 高級設定

操作手順は下記の通り：

(1) 「高級設定」タブを選択して、高級設定画面に遷移します。





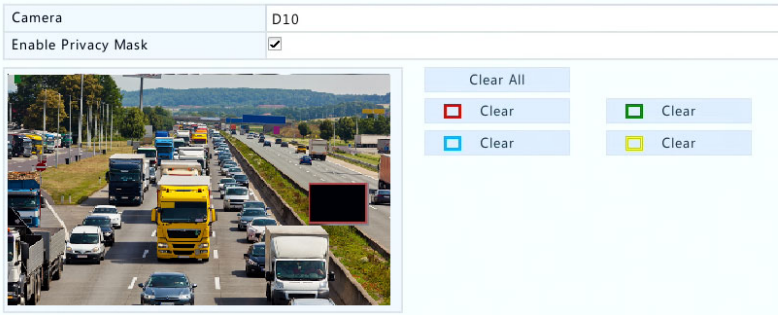
(2) 霧、スモッグの環境であれば、撮影した画像の品質が低下になる可能性がありますので、透霧機能で画像の精細度を調節することができます。

4.4 プライバシーカバー

設定の手順は下記の通り:

(1) [メインメニュー>チャネル設定>プライバシーカバー]を選択して、「プライバシーカバー」画面に遷移します。

(2) チャネルを選択し、「カバー」にチェックを入れた後、マウスでカバーエリアをマークします。





説明：
今最大 4 のエリアをカバーすることができます。<クリア>をクリックして、対応しているカラーのカバーエリアをクリアすることができます。

(3) <適用>をクリックして、設定完成になります。

5 パンチルト制御

説明：
パンチルトカメラだけパンチルト制御を実行することができます。パンチルトカメラがサポートしているパンチルトプロトコルと機能によって、パンチルトの制御を実行します。パンチルト使用前に、当該パンチルトの規格説明をご参照ください。

5.1 パンチルト設定画面に遷移

5.1.1 パンチルトツールバーによって入る

操作手順は下記の通り：

(1) プレビュー画面において、カメラのプレビューウインドウを選択して、ツールバーのをクリックして、パンチルト制御画面に遷移します。

(2) 画面において、チャネルと対応しているパンチルトツールバーを表示します。「表 5-1」により簡単なパンチルト制御操作を行います。

(3) <設定>をクリックして、「パンチルト設定」画面に遷移します。

表5-1 パンチルトツールバーパラメータの説明

ボタンアイコン	詳細
	パンチルト回転方向の制御、或いは回転停止になされます
	• パンチルトのズームを変更します **説明:** マウスのロールもパンチルトズームできます

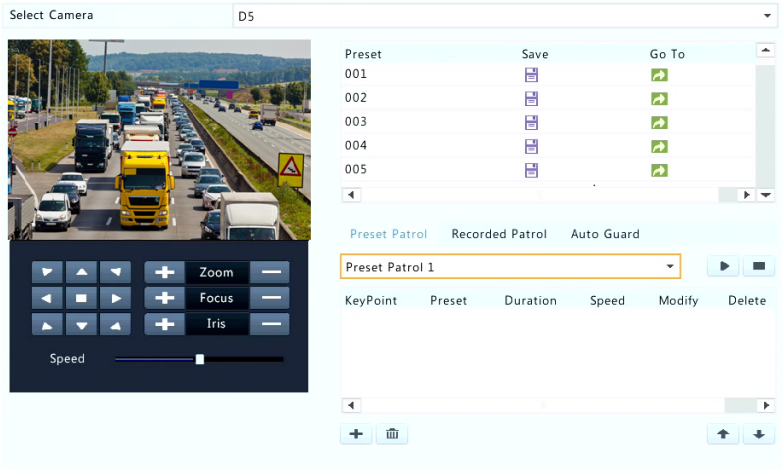
ボタンアイコン	詳細
	• パンチルトの焦点距離を変更します • パンチルトのアイリスを変更します
	パンチルトの回転速度：1が一番スローで、9が一番速いです
	パンチルト設定画面に遷移します
	• パンチルトの照明を ON/OFF にします • パンチルトワイパーを ON/OFF にします • パンチルトの 3D ロケーション機能を実現します • パンチルトの加熱機能を実現します • パンチルトの雪除け機能を実現します • パンチルトの快速操作機能を実現します 説明： • IPC は 3D ロケーション、加熱と雪除け機能をサポートしているだけ、これらの機能が実現できます。 • 3D ロケーション画面において、枠の調整によって、ズームを行います。上から下への場合、拡大の意味で、下から上への場合、縮小の意味です。
	プリセットボタン
	• プリセットを保存して、当該パンチルト位置状態をプリセットに保存します • プリセットをコールして、パンチルトを選択したプリセットに回転します • プリセットを削除します 説明： 成功的に保存したプリセットだけ、「コール」と「削除」ボタンを表示します
	プリセットクルーズ/軌跡クルーズ/ホームポジションボタン
	• 起動/停止

5.1.2 メインメニューによって入る

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>チャネル設定>パンチルト設定]を選択して、「パンチルト設定」画面に遷移します。

(2) チャネルを選択して、パンチルト設定操作を行います。





5.2 プリセット設定

操作手順は下記の通り：

(1) パンチルト設定画面に遷移します。詳細は「5.1 パンチルト設定画面に遷移」をご参照ください。

(2) パンチルトプリセットを設定します。

パンチルト方向ボタンを使用して、パンチルトを適合な位置に回転します。プリセットリストウインドウにおいて、プリセットと関連していない番号を選択して、をクリックしてプリセット設定を完成します。上記を繰り返し操作して、複数のプリセットが設定できます。

(3) パンチルトプリセットのコール

プリセットリストウインドウにおいて、コールの必要があるプリセットを選択して、をクリックして、パンチルトは対応の位置に回転します。

5.3 プリセットクルーズ設定

説明：

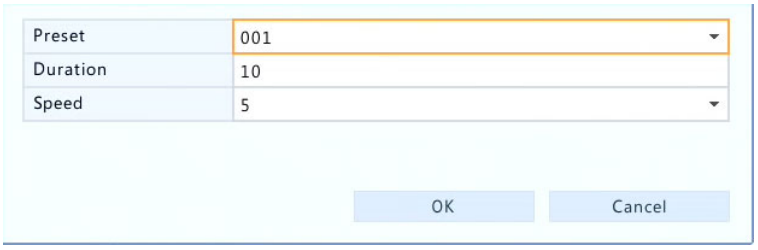
１つのチャネルは最大で 4 のクルーズロードが設定できます。1 のクルーズロードは最大で 8 のプリセットが設定できます。

操作手順は下記の通り：

(1) パンチルト設定画面に遷移します。詳細は「5.1 パンチルト設定画面に遷移」をご参照ください。

(2) クルーズロードを設定します。

[プリセットクルーズ]タブのクルーズロードを選択して、＋をクリックして、キーポイントを新規追加して、クルーズロードプリセットの設定画面に遷移します。上記を繰り返し操作して、複数のキーポイントが追加することができます。<適用>をクリックして設定を保存します。





(3) クルーズロードをコールします。

クルーズロードの下へスクロールリストにおいて、クルーズ必要があるロードを選択して、▶をクリックして、クルーズロードをスタートします。■をクリックして、クルーズを停止します。

説明：

- 中止時間の範囲は 0-1800 で、デフォルトに 10 秒とします；回転速度の範囲は 1-9 で、デフォルトに 5 とします。
- ✎、🗑は対応しているプリセットを修正、削除します。
- ↑、↓は、キーポイントを上/下へ遷移します。
- 🗑はすべてのキーポイントを削除します。

5.4 軌跡クルーズ設定

説明：

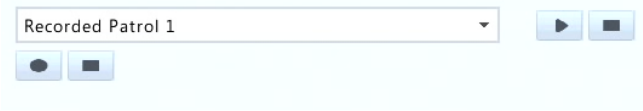
- 前端 IPC は軌跡機能をサポートしない場合、画面において当該設定内容を隠します。
- 今 1 の軌跡ロードだけ設定できます。

操作手順は下記の通り：

(1) パンチルト設定画面に遷移します。詳細は「5.1 パンチルト設定画面に遷移」をご参照ください。

(2) 軌跡ロードを設定します。

[軌跡クルーズ]タブにおいて、●をクリックして、軌跡を設定します。ズーム、フォーカス、アイリスと方向変換など操作を選択して、パンチルトカメラを操作・制御します。■をクリックして、軌跡設定を停止します。<適用>をクリックして、設定を保存します。



(3) 軌跡ロードをコールします。

▶をクリックして、軌跡ロードをスタートします。■をクリックして、軌跡を停止します。

5.5 ホームポジション設定

ホームポジションの意味：パンチルトカメラは規定した時間の以内で制御信号を受け取らない状態で設定した操作を実行し、重要な監視場所において、人為的にカメラをキーエリアに回転し、監視漏れを齎すことを避けます。

説明：
前端 IPC は**ホームポジション**機能がサポートしていない場合、画面において当該設定を隠します。

操作手順は下記の通り：

(1) パンチルト設定画面に遷移します。詳細は「5.1 パンチルト設定画面に遷移」をご参照ください。

(2) ホームポジションを設定します。

[**ホームポジション**]タブにおいて、起動にチェックを入れて、モード（プリセット、プリセットクルーズと軌跡クルーズ）を選択します。<適用>をクリックして、設定を完成します。



6 録画とカット

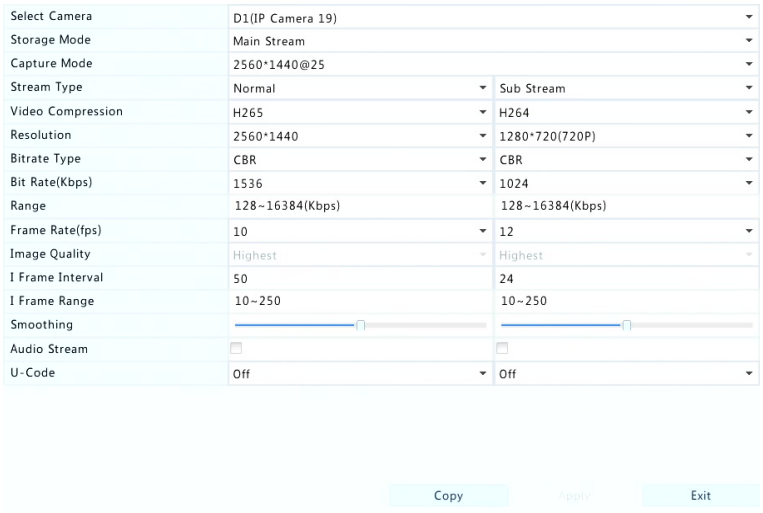
説明：
録画タイプの優先レベル：イベント録画>手動録画>定時録画。

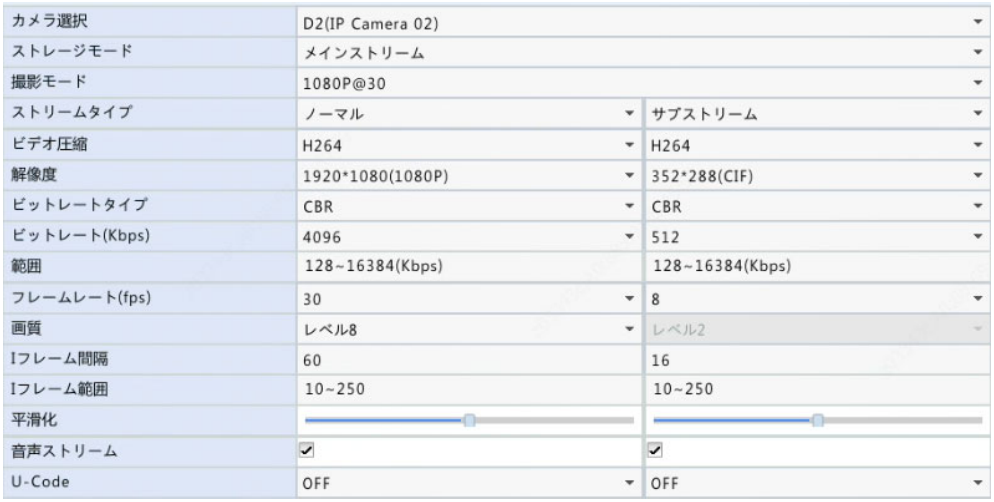
6.1 コーディングパラメータ設定

6.1.1 コーディングパラメータ設定

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>チャネル設定>コーディングパラメータ]を選択して、「コーディングパラメータ」画面に遷移します。





(2) チャネルと記録方式を選択して、各コーディングパラメータを設定します。

パラメータ名称	パラメータ説明	パラメータ設定
記録方式	2の記録方式：メジャーストリーム、マイナーストリームがあります	スクロールダウンボックスで選択することができます（デフォルトにメジャーストリームの方式で記録します）
収集方式	解像度@フレームレート	スクロールダウンボックスで選択します 説明： プライベートプロトコルで IP と接続しているチャネルだけ本設定をサポートします
データレートタイプ	データレートの分類： 定時（メジャーストリーム）：定時録画計画コーデ	スクロールダウンボックスで選択します

パラメータ名称	パラメータ説明	パラメータ設定
	ィングパラメータ イベント（メジャーストリーム）：動作検出、アラーム入力など事件が発生の際のコーディングパラメータ ネット伝送（マイナーストリーム）：ネットだけ伝送できる解像度が低いコーディングパラメータ	
コーディングフォーマット	先端設備のパラメータにより、H264、H265などをサポートします	先端設備のパラメータにより、スクロールダウンボックスで選択します
解像度	1フレームにおいて含まれている画素点の数です。	スクロールダウンボックスで選択します
ビットレートタイプ	可変ビットレートと定数ビットレート2種類あります • 可変ビットレート：ビットレートはシーンの変化により調整します • 定数ビットレート：ビットレートはできるだけビットレートの上限でコーディングし、画像の品質が調整できません	スクロールダウンボックスで選択します
ビットレート	一定の時間以内、一秒で伝送する桁です	スクロールダウンボックスで推薦のビットレートサイズを選択し、或いはカスタム設定を行います
ビットレート推薦範囲	カスタム状態でユーザが入力したビットレートの範囲です	固定
フレームレート	毎秒のフレーム数	スクロールダウンボックスで選択します
画像品質	可変ビットレートの際設定することができます。9のレベルがあり、調節可です	スクロールダウンボックスで選択します
I フレーム間隔	2のI フレームの間の画像フレーム数です	ユーザカスタム
I フレーム範囲	カスタム状態で、ユーザが入力したI フレームの値範囲です	固定
データレートスムーズ	ビットレートの突発を制御します	スクロールバーで調節します
オーディオフロー	オーディオフローがONにするかを選択します	チェックボックスで選択します
U-Codeスマートコーディング	閉じ、基礎モード、高級モードと分けています。高級モードでもっと高いコーディング圧縮率が使用できます	スクロールダウンボックスで選択します

説明：

- 実の状況により IPC や IPC バージョンのコーディング設定が異なる可能性がありますので、実物に準じてください。
- IPC バージョンが低い場合、一部の機能が使用できません。この時、IPC バージョンをアップグレードしてください。
- その他のチャネルの設定が同じであれば、<コピー>ボタンをクリックして、コピーの必要があるパラメータと目標チャネルにチェックを入れます。

(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

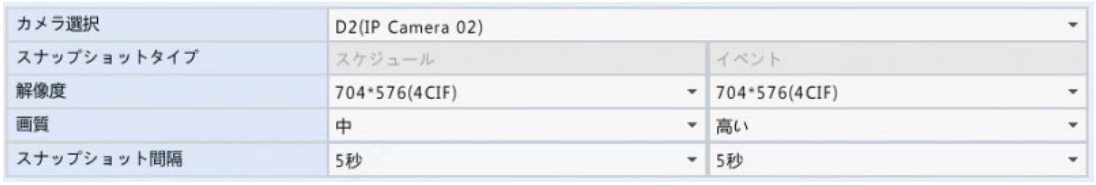
6.1.2 カットパラメータ設定

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>チャネル設定>カットパラメータ]を選択して、「カットパラメータ」画面に遷移します。

(2) カットパラメータを設定します。





説明：

- 定時カットは普通の定時計画カットです。イベントカットはアラーム入力、動作検出などイベントが発生する際のカットです。手動カットはイベントカットパラメータを採用します。
- カット間隔は、2 回のカット操作の間の間隔時間です。

(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

6.2 録画/カット計画の制定方法

録画/カット計画の制定方法は製図法、編集法があります。
カット計画と録画計画の制定方法は似っているため、下記は録画計画の制定方法を例として紹介します。

6.2.1 製図法

操作手順は下記の通り：

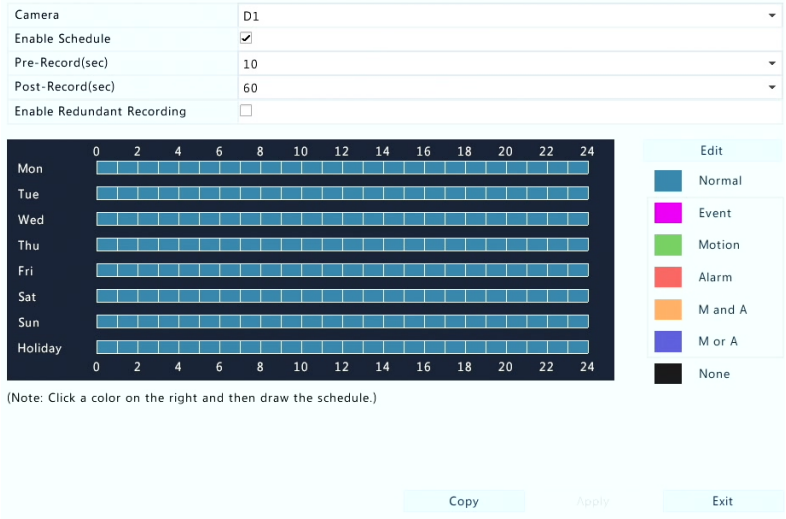
(1) [メインメニュー>ストレージ設定>録画設定]を選択して、「録画設定」画面に遷移します。

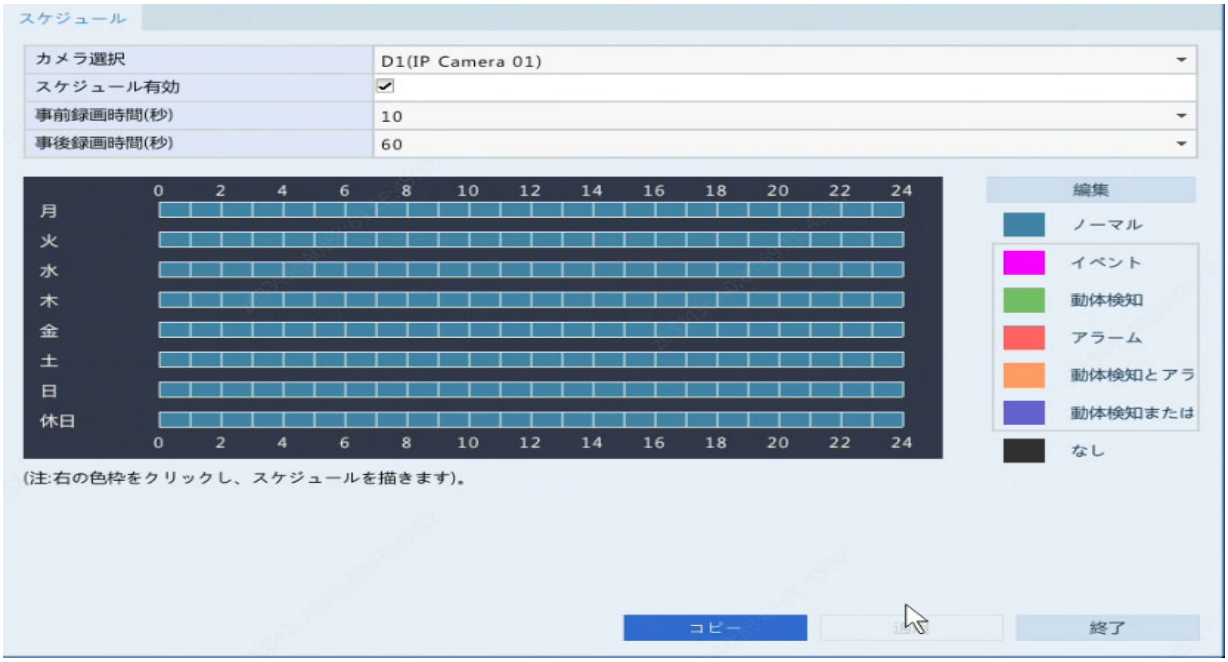
(2) チャネルを選択します。

a. 「録画計画起動」にチェックを入れます。

b. スクロールバーでアラーム事前録画とアラーム後の録画時間を選択します。

c. 冗長録画を起動するかを選択します。一部の設備だけ冗長録画をサポートします。当該機能を有効にするために、「冗長」と設定しているディスクが必要です。





(3) 録画計画を確認します。

実の要求により、右側にある対応しているタイプのカラーブロックをクリックします。左側の計画表に遷移し、マウスのポインターが製図筆になります。そして、マウスの左ボタンを押して、製図の起点と持続時間を確認して、マウスの左ボタンから手を離して、録画計画を保存します。

(4) <適用>をクリックして、設定を完成します。

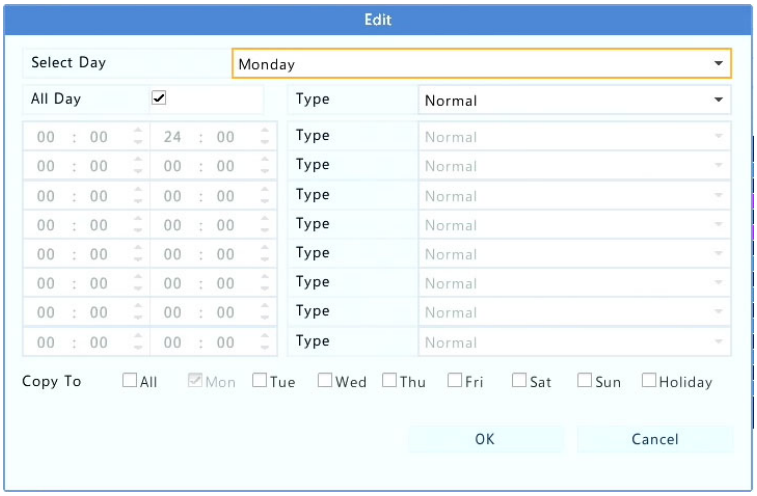
説明：

その他のチャネルの設定が同じであれば、<コピー>ボタンをクリックして、対応のチャネルにチェックを入れます。

6.2.2 編集法

編集法と製図法は、第(3)ステップ（その他のステップは完全に同じです）だけ異なります。詳細は下記の通り：

<編集>をクリックして、下記の画面に遷移します。実の要求により、録画のタイプを選択します。<決定>をクリックして、録画設定画面に戻ります。



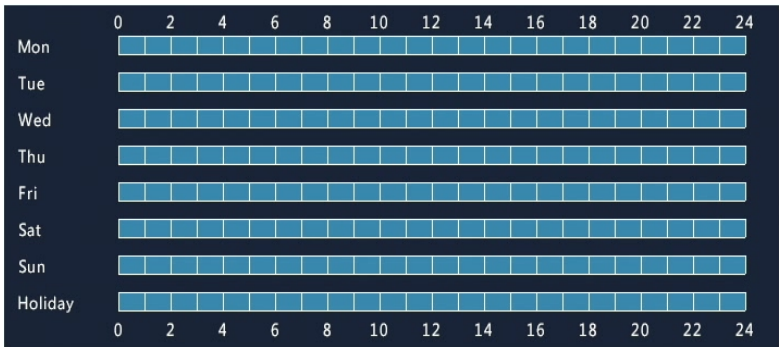
説明：

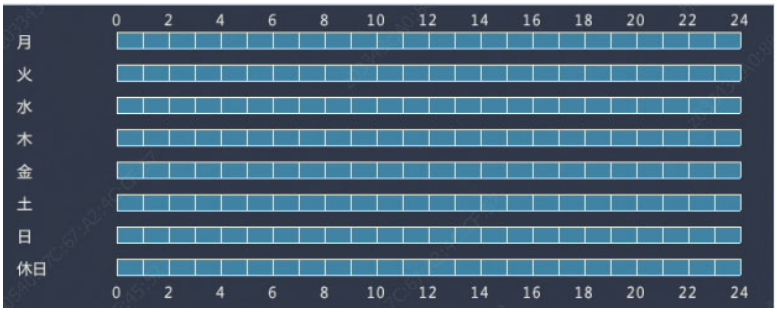
- システムはデフォルトに「全日録画」にチェックを入れます。チェックをいれば、設備は一日に最高 8 の時間帯を設定することができます。
- その他の日の録画計画が全く同じである場合、「曜日にコピー」のチェックボックスで対応の時間にチェックを入れます。

6.3 定時録画/カット

6.3.1 定時録画

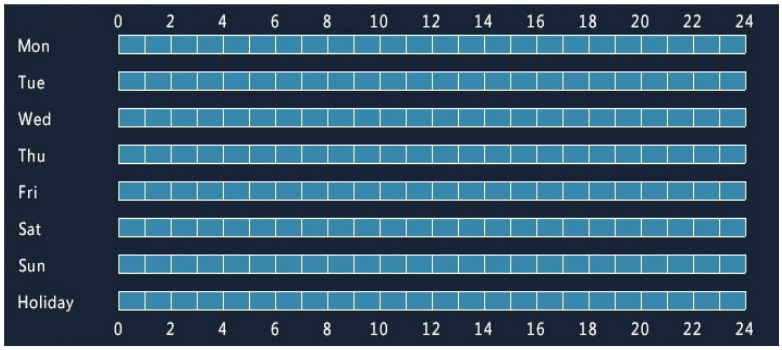
システムはデフォルトに各チャネル 7*24 時間の定時録画計画を起動します。
定時録画の計画制定について、「6.2 録画/カット計画の制定方法」をご参照ください。
注意するのは、録画タイプが「定時計画」を選択します。設定完了後、チャネル録画は、定時計画の録画状態になります。

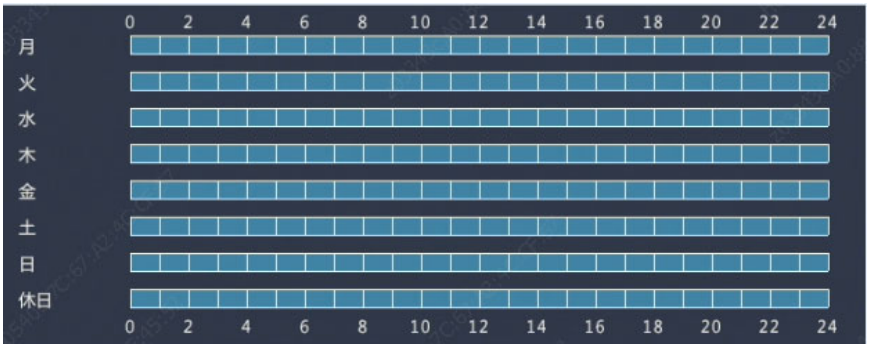




6.3.2 定時カット

定時カット計画は、「6.2 録画/カット計画の制定方法」をご参照ください。注意するのは、録画タイプが「定時計画」を選択します。設定完了後、チャネル録画は、定時計画のカット状態になります。





6.4 動作検出録画/カット

6.4.1 動作検出録画

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>動作検出]を選択して、「运动检测」画面に遷移します。

(2) チャネルを選択して、「動作検出開始」にチェックを入れます。

説明：
動作検出アラームが発生する場合、画面の右上に動作検出アラームのアイコンを表示します。

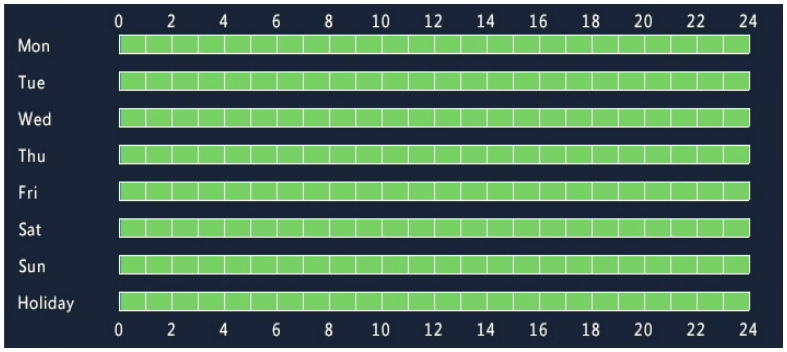
(3) マウスで動作検出エリアを描画します。スライドバーを引いて、適切な感度を選びます。

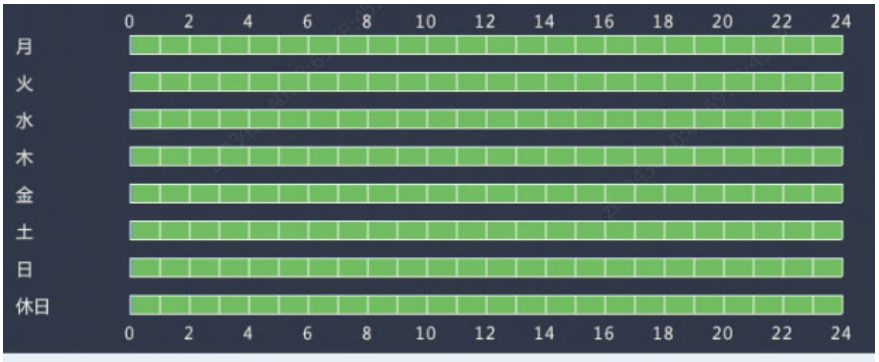
(4) 連動記録。

連動方法ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。[連動記録]タブを選択して、連動必要があるチャネルにチェックを入れて、<決定>をクリックします。

(5) [メインメニュー>ストレージ設定>録画設定]を選択して、録画設定画面に遷移します。録画計画の制定は、「6.2 録画/カット計画の制定方法」をご参照ください。注

意するのは、録画タイプが「動作検出」を選択します。設定完了後、チャネル録画は、動作検出の録画状態になります。





6.4.2 動作検出カット

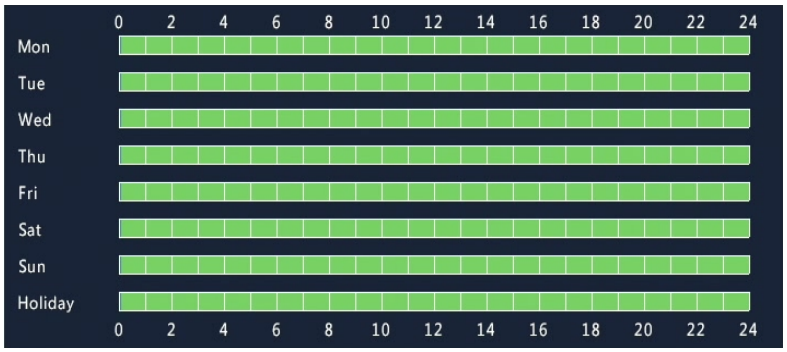
動作検出検査カットを設定する前に、まず動作検出アラームを ON にしなければなりません。詳細は「6.4.1 動作検出録画」のステップ(1)~(3)の内容をご参照ください。

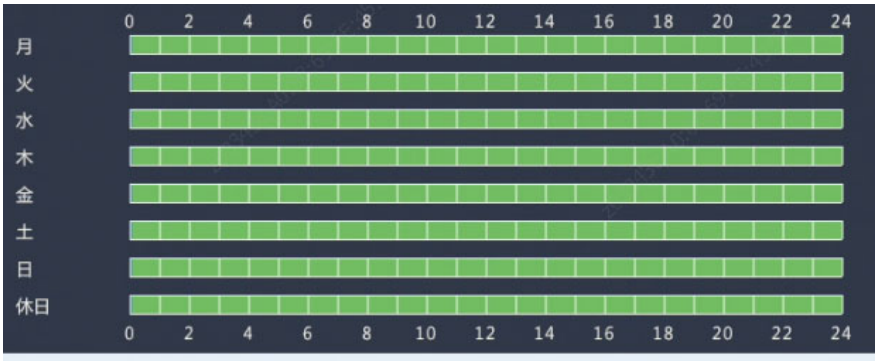
次の操作手順は下記の通り：

(1) 連動カット。

連動方式⚙をクリックして、アラーム連動画面に遷移します。[連動カット]タブを選択して、連動カットのチャネルにチェックを入れて、<決定>をクリックします。

(2) [メインメニュー>ストレージ設定>カット設定]を選択して、「カット設定」画面に遷移します。カット計画の制定について、「6.2 録画/カット計画の制定方法」をご参照ください。注意するのは、録画タイプが「動作検出」を選択します。設定完了後、チャネル録画は、動作検出のカットになります。ストレージ設定





6.5 アラーム録画/カット

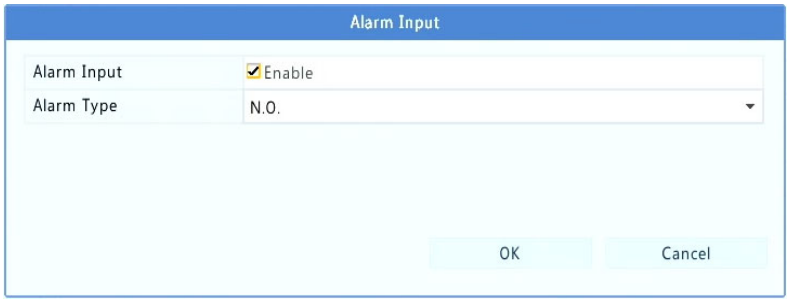
6.5.1 アラーム録画

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>入力出力]を選択して、「アラーム入力」画面に遷移します。

(2) アラーム入力を ON にします。

チャネルを選択して、をクリックして、「ON」にチェックを入れて、トリガー方式を選択します。<決定>をクリックして、当該アラーム入力の設定を完成します。





説明：

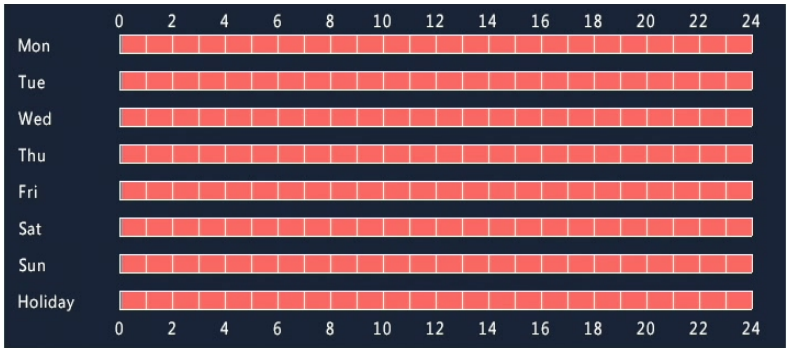
その他のチャネルの設定が同じであれば、<コピー>ボタンをクリックして、チェックボックスにおいて、対応のチャネルにチェックを入れます。

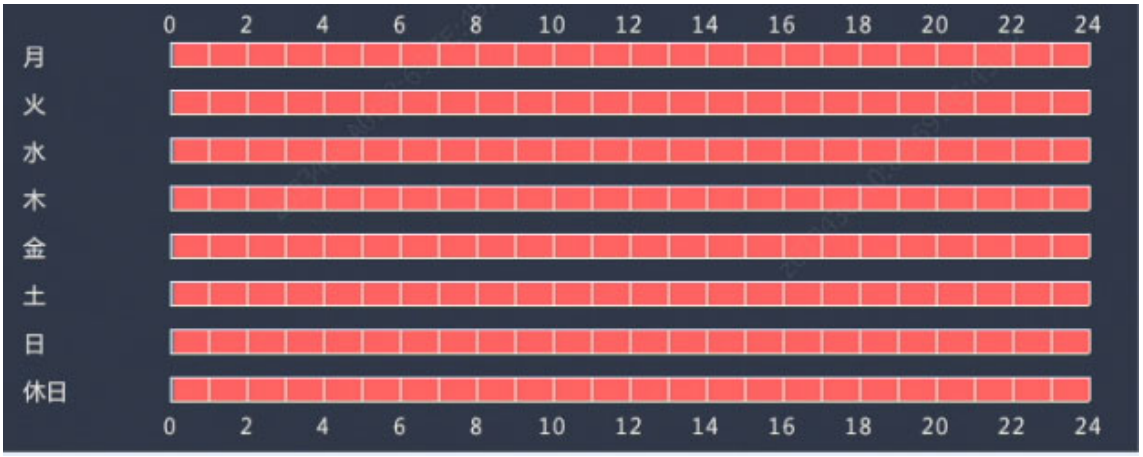
(3) 連動格納。

連動方式ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。[連動格納]タブを選択して、連動必要があるチャネルにチェックを入れて、<決定>をクリックします。

(4) [メインメニュー>ストレージ設定>録画設定]を選択して、録画設定画面に遷移します。録画計画の制定について、「6.2 録画/カット計画の制定方法」をご参照くださ

い。注意するのは、録画タイプが「アラーム計画」を選択します。設定完了後、チャネル録画は、アラーム計画の録画状態になります。





6.5.2 アラームカット

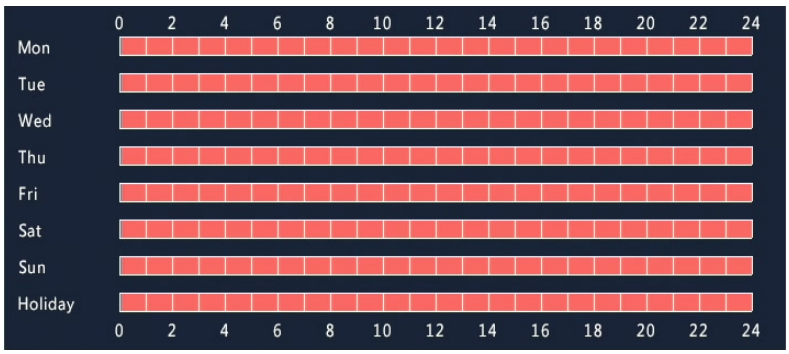
アラームカットを設定する前に、まずアラーム入力を ON にしなければなりません。詳細は「6.5.1 アラーム録画」 のステップ(1)~(2) の内容をご参照ください。

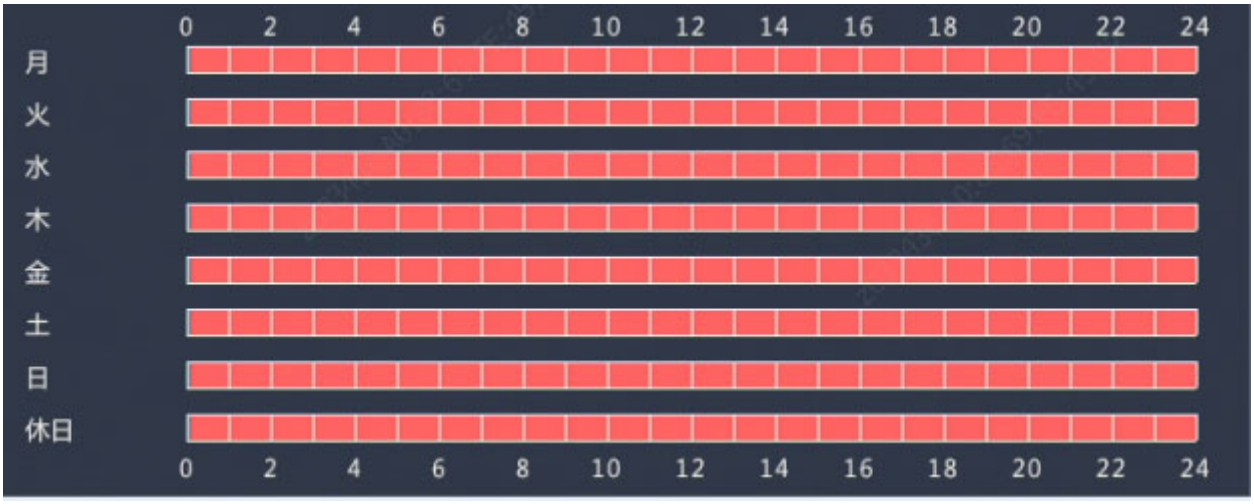
次の操作手順は下記の通り：

(1) 連動カット。

連動方式をクリックして、アラーム連動画面に遷移します。[連動カット]タブを選択して、連動カットのチャネルにチェックを入れ、<決定>をクリックします。

(2) [メインメニュー>ストレージ設定>カット設定]を選択して、「カット設定」画面に遷移します。カット計画の制定は、「6.2 録画/カット計画の制定方法」をご参照ください。注意するのは、録画タイプが「アラーム計画」を選択します。設定完了後、チャネル録画は、アラーム計画のカット状態になります。





6.6 手動録画/カット

6.6.1 手動録画

方法一：

プレビュー画面に遷移し、録画の必要があるウインドウを選択して、ツールバーのをクリックして、録画開始になります。

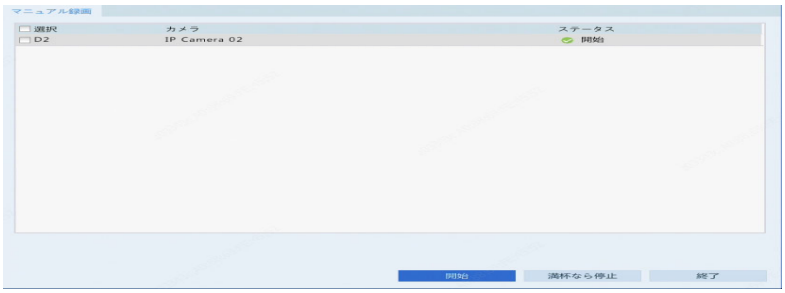
手動録画を停止する必要があれば、ツールバーのをクリックして、録画停止になります。

方法二：

[メインメニュー>手動操作>手動録画]を選択して、「手動録画」画面に遷移します。手動録画の必要があるチャネルにチェックを入れて、<録画開始>をクリックして、対応のチャネルが録画開始になります。

手動録画を停止する必要があれば、開始している手動録画のチャネルにチェックを入れて、<録画停止>をクリックして、対応のチャネルが録画停止になります。

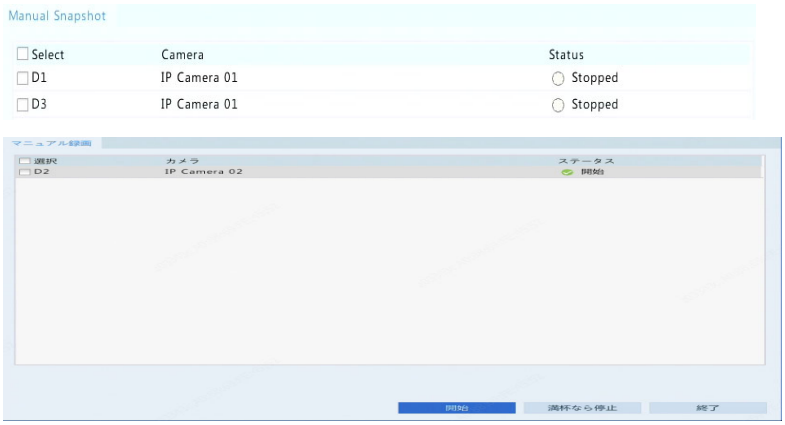




6.6.2 手動カット

[メインメニュー>手動操作>手動カット]を選択して、「手動カット」画面に遷移します。手動カットの必要があるチャネルにチェックを入れて、<手動カット起動>をクリックします。

手動カットを停止する必要があれば、開始している手動カットのチャネルにチェックを入れて、<手動録画停止>をクリックします。



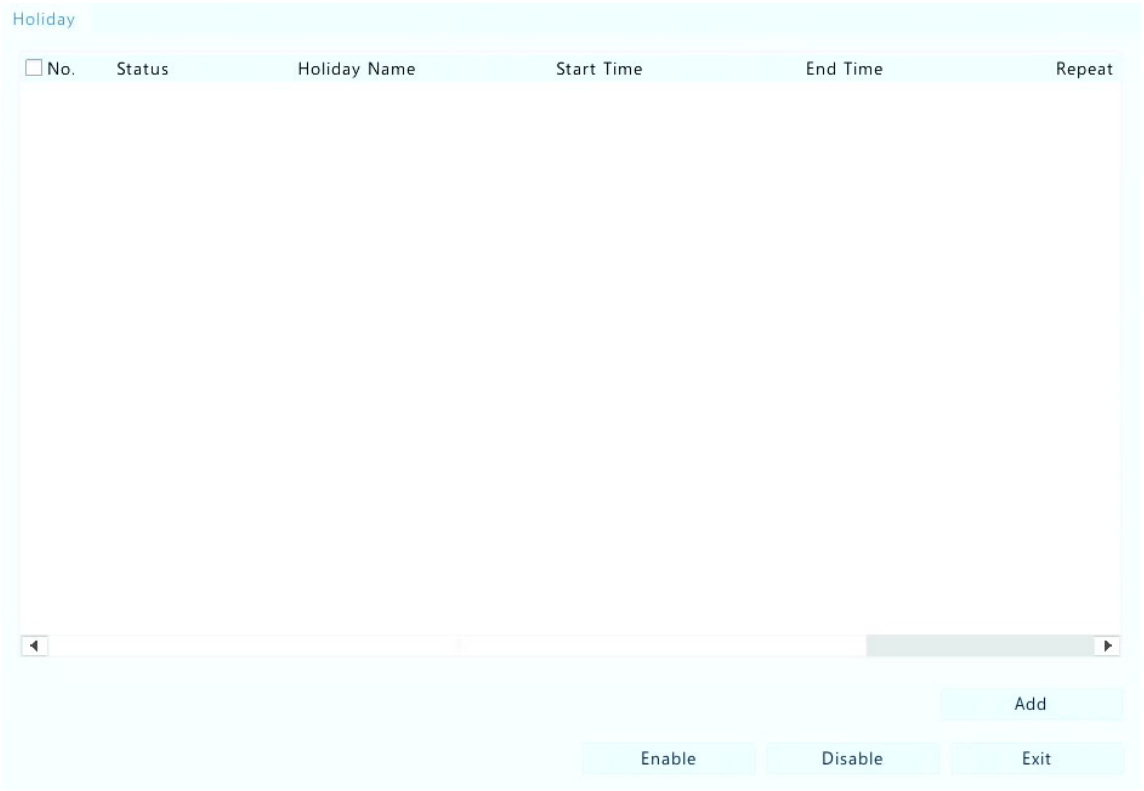
6.7 休日の録画/カット

休日設定は、ユーザで選択したある特別な時間帯の録画計画に使用します。

6.7.1 休日録画

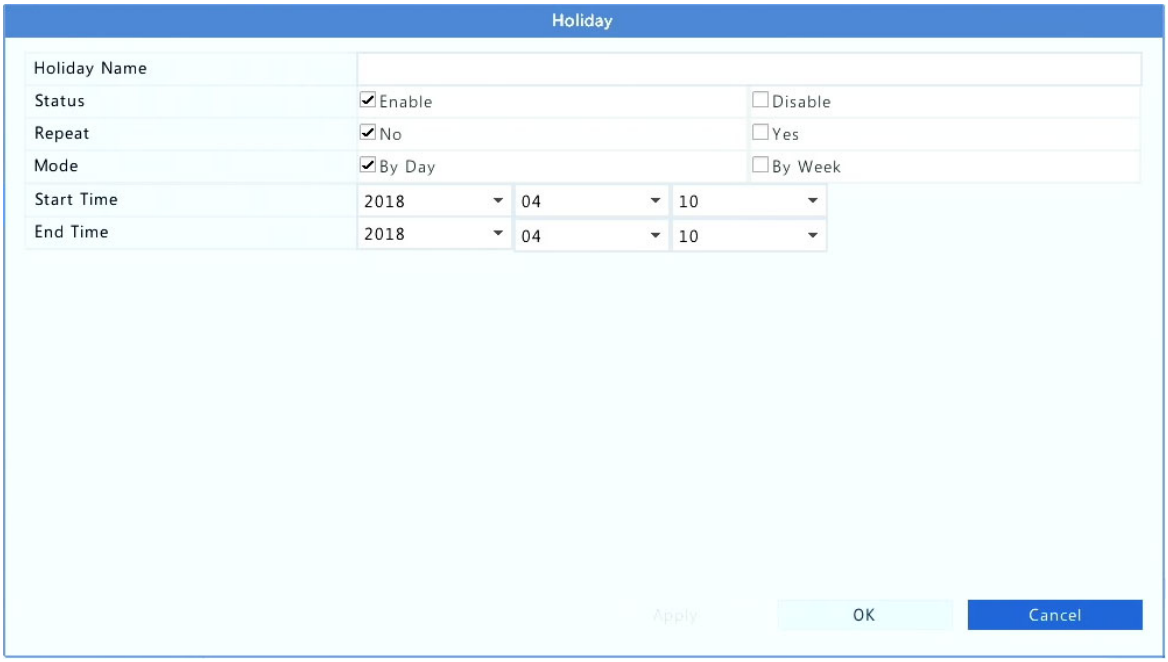
操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>休日設定]を選択して、「休日設定」画面に遷移します。

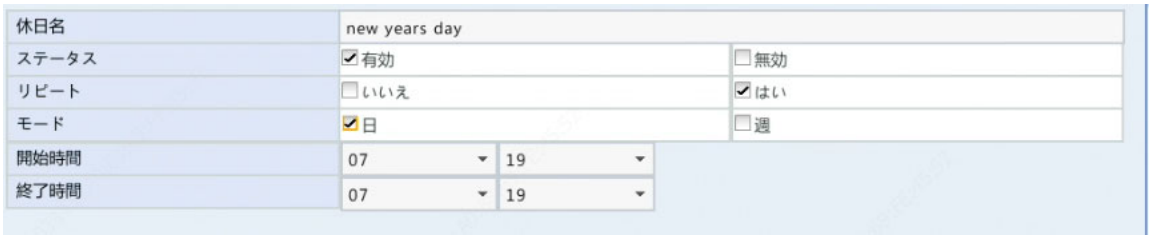




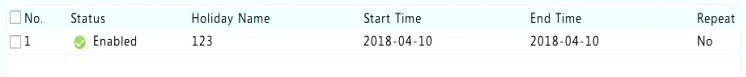
(2) 右下にある<追加>ボタンをクリックして、「休日設定」のダイアログをポップアップします。

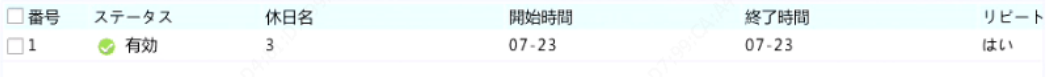




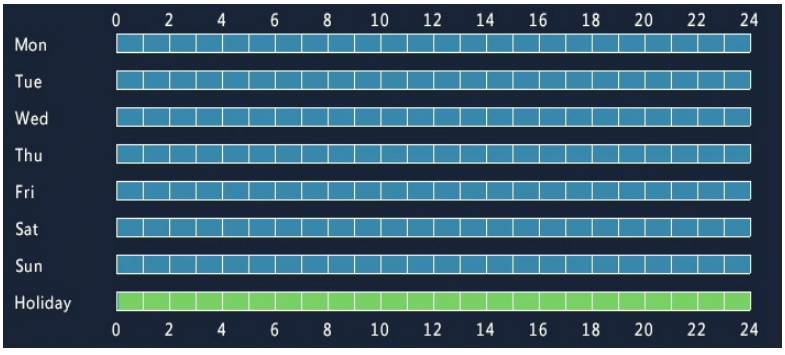


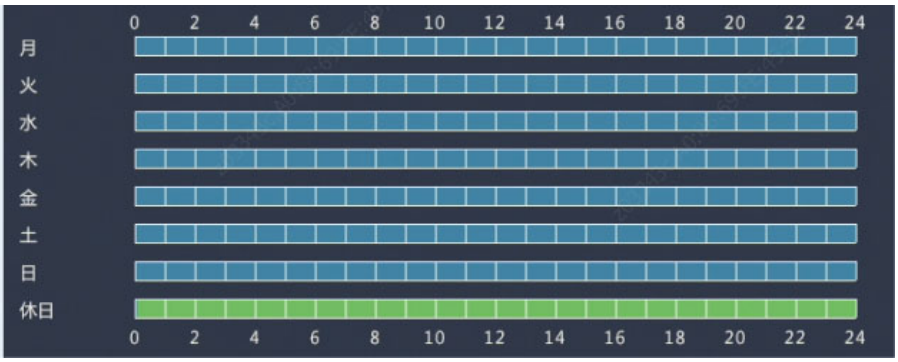
(3) 休日パラメータを設定して、<決定>をクリックして、休日情報を確認します。





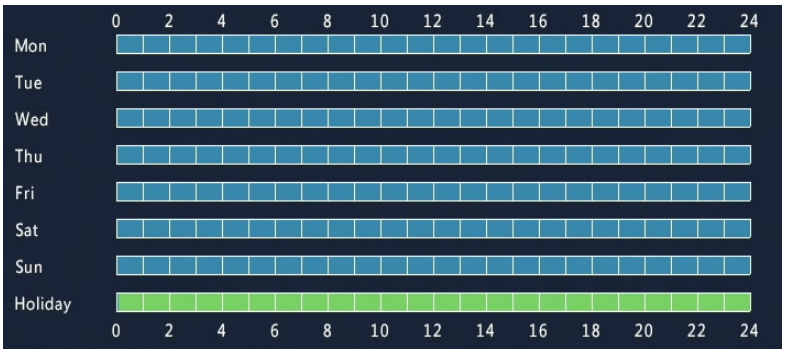
(4) [メインメニュー>ストレージ設定>録画設定]を選択して、「録画設定」画面に遷移します。録画計画の制定は、「6.2 録画/カット計画の制定方法」をご参照ください。曜日は「休日」を選択します。設定完了後、チャネル録画は普通と休日の録画状態になります。

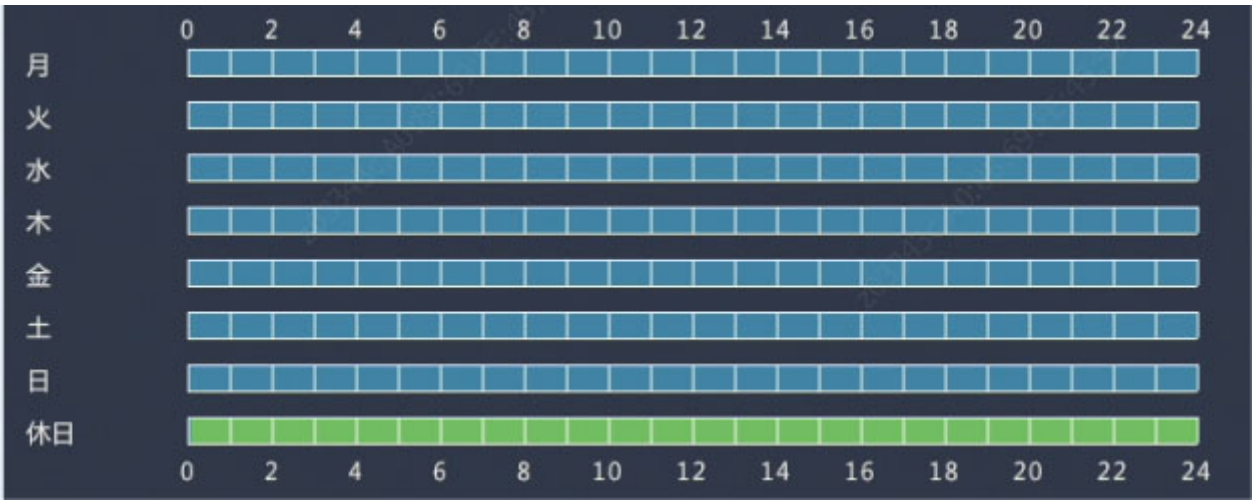




6.7.2 休日カット

[メインメニュー>ストレージ設定>カット設定]を選択して、「カット設定」画面に遷移します。カット計画の制定は、「6.2 録画/カット計画の制定方法」をご参照して、カットタイプを選択します。設定完了後、チャネル録画は普通と休日のカット状態になります。





6.8 その他の録画/カット

その他の録画/カットは、「イベント」、「動作検出及びアラーム」、「動作検出或いはアラーム」の録画/カット方式です。その中、イベントは動作検出、アラーム、動作検出とアラーム、動作検出或いはアラーム、知能感知を含めます。いずれのイベントが発生の際、イベント録画/カット計画をトリガーします。

ご注意：
イベントタイプの録画/カットタイプは、事前に対応イベントのアラームを起動させ、且つ連動で記録/カットします。操作手順は「6.4 動作検出録画/カット」をご参照ください。

7 再生

7.1 リアルタイム再生

リアルタイムライブビューをレビューの時、異常があればタイムリーに再生することができるために、リアルタイム再生は、システムの現在の時間より 5 分半間以内の録画を再生します。リアルタイム再生の際、5 分半間以内の録画があるとご確認ください。

操作手順は下記の通り：

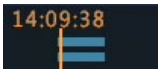
(1) プレビュー画面に遷移して、再生の必要があるウインドウを選択して、ツールバーのをクリックして、リアルタイム再生録画を開始します。

(2) プログレス・バーにあるスライドを引いて、録画の開始時間を再ロケーションします。要求によって録画を一時停止/停止することもできます。



7.2 再生ツールバー

表7-1 再生ツールバーパラメータ説明

ボタンアイコン	説明
	**現在の再生位置を表示します** **説明：** • スライドを引く時、快速で再生位置をロケーションすることができるために、ツールバーの上方においてマークしたチャネルのリアルタイムプレビュー小さい図を表示します。 • 第一のプログレス・バーがマークしたチャネルの録画を表示し、第二のプログレス・バーがすべてのチャネルの録画を表示します。
	**再生タイムライン**
	**タイムライン拡大/縮小** **説明：** マウスロールのロールアップ/ロールダウンはタイムラインの拡大/縮小ができます
	**正常放送/一時停止/放送停止/逆再生**
	**後退30秒/前進30秒**

ボタンアイコン	説明
/	減速放送/加速放送 説明: 減速放送/加速放送をクリックした後、加速放送/減速放送をクリックして、正常の速度に回復します
	シングルフレーム前進
/	編集開始/編集停止
	カットの際、再生ウインドウに白い点滅があります
	ロック
/	デフォルト/カスタムタグを追加します
	メニューの4の機能:ファイル管理、一部編集のサポート、再生カット、ファイルとタグのロック
	数字を拡大します。詳細は「3.6 デジタル拡大」をご参照ください
	フィッシュアイ取付けと表示モードを選択します
/	録画の音声をOFF/ONにします
	今のウインドウ焦点チャネルの音量を調整します

7.3 普通再生

普通再生は、チャネルと日付の条件で、対応している録画ファイルを探索・再生します。

操作手順は下記の通り：

(1) 右ボタンをクリックして、[録画再生]を選択して、録画再生画面に遷移します。

(2) 再生の必要があるチャネルを選択します。

説明：

- 複数のチャネルにチェックをいれば、複数ロードの同期再生ができます。「最大ロード数」をクリックして、再生できる一番多いチャネルを千部チェック入れます。設備の型番号が異なるため、再生性能も異なる可能性があります。
- 「全部閉じ」をクリックして、現在のすべての再生チャネルを閉じます。

(3) 再生の必要がある日付をダブルクリックして、再生モードを選択して、普通再生になります。

説明：

- 日付を選択した後、をクリックして、録画開始になります。
- カレンダーにおいて、右上の Blue は当該チャネルに普通録画があると表示します；Red は当該チャネルにイベント録画があると表示します；色無しは当該チャネルに全日の 24 時間で録画がないと表示します。
- 自分の要求により再生モードを選択することができます。「ハイビジョン」モードが、メジャーストリームとマイナーストリームで記録した録画で、「普通」モードが第三ストリームで記録した録画です。

7.4 コリドー再生

コリドー再生は、探索した録画をコリドーモードで画面分割で表示することです。

操作手順は下記の通り：

(1) 録画再生画面に遷移して、再生モードは[コリドー再生]を選択します。

(2) 再生の必要がある複数のチャネを選択して、再生の日付をダブルクリックして、コリドー再生になります。

7.5 タグ再生

タグは、ユーザがある時間の録画情報を記録することを助けています。ユーザはタグのキーワード探索で録画をロケーションすることができます。

7.5.1 タグの追加

操作手順は下記の通り：

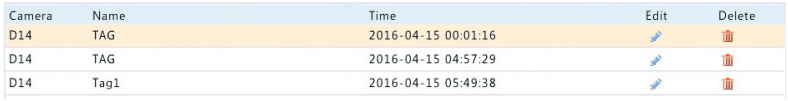
(1) 右ボタンをクリックして、[録画再生]を選択して、録画再生画面に遷移します。

(2) タグを追加します。

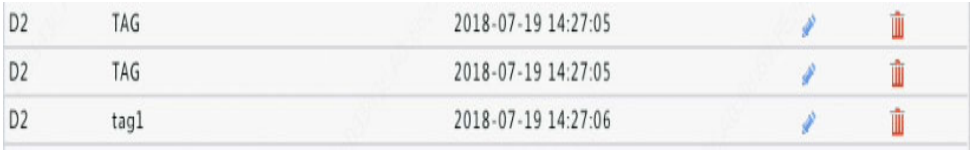
- をクリックして、デフォルトにタグ TAG を追加します。
- をクリックして、タグ名称、例えば tag1 を入力して、カスタムタグを追加します。

(3) タグ管理

をクリックして、ファイル管理画面に遷移します。[タグ]タブにおいて、追加したタグをチェック、編集と操作することができます。



Camera	Name	Time	Edit	Delete
D14	TAG	2016-04-15 00:01:16		
D14	TAG	2016-04-15 04:57:29		
D14	Tag1	2016-04-15 05:49:38		



D2	TAG	2018-07-19 14:27:05		
D2	TAG	2018-07-19 14:27:05		
D2	tag1	2018-07-19 14:27:06		

7.5.2 タグ再生

操作手順は下記の通り：

(1) 録画再生画面に遷移して、再生モードは[タグ再生]を選択します。

(2) 再生の必要があるチャネルと時間を選択して、キーワードを入力して、<探索>をクリックした後結果があります。

(3) タグを選択して、をクリックした後タグ再生になります。

7.6 イベント再生

イベント再生は、イベントタイプ（アラーム入力、動作検出など）により１つや複数のチャネルがある時間帯に録画したファイルを検索して、且つ再生します。

ご注意：
イベント再生する前に、当該イベントアラームが ON、且つ連動記録機能があるとご確認ください。

操作手順は下記の通り：

(1) 録画再生画面に遷移して、再生モードは[イベント再生]を選択します。

(2) 動作検出など再生タイプを選択した後、再生の必要があるチャネルと時間を選択して、<探索>をクリックして、結果があります。

(3) ファイルを選択します。をクリックして、動作検出再生を行います。

7.7 スマート再生

スマート再生は、設備が録画にあるスマート行為により、自動的に再生速度を調整します。当該時点でスマート探索結果があれば、録画は正常の速度で再生します。逆に、当該時点でスマート探索結果がなければ、設備は 16 倍の速度で再生し、再生効率を高めます。

説明：

- 前端 IPC がスマートをサポートするだけ、スマート再生機能が使用できます。
- デフォルトに「動作検出」のスマート探索方法を採用します。

操作手順：

(1) 録画再生画面に遷移して、再生モードは[スマート再生]を選択します。

(2) 再生チャネルを選択して、をクリックして、スマート再生が開始になります。

(3) をクリックして、スマート探索画面（デフォルトにフルスクリーン）に遷移します。

(4) スマート探索の規則を設定します。

表7-2 スマート探索ボタンの説明

アイコン	説明	アイコン	説明
	動作検出:フルスクリーン		全部削除
	探索		戻る

(5) をクリックして、当該エリアのスマート再生画面をポップアップします。

7.8 外部ファイルの再生

外部ファイルの再生は、U ディスクや携帯ハードディスクなど外部記憶装置に格納している録画ファイルを再生することです。

操作手順は下記の通り：

(1) 録画再生画面に遷移して、再生モードは[外部ファイル再生]を選択します。

(2) <更新>を選択して、外部の記憶装置を読み込みます。

(3) 再生の必要があるファイルを選択して、をクリックして、外部録画ファイルの再生が開始になります。

7.9 写真再生

写真再生は、写真タイプ（定時、動作検出など）により１つや複数のチャネルがある時間帯に録画した写真ファイルを検索して、且つ再生します。

操作手順は下記の通り：

(1) 録画再生画面に遷移して、再生モードは[写真再生]を選択します。

(2) プレビューカットなど再生タイプを選択して、再生の必要があるチャネルと時間を選択して、<探索>をクリックして、結果があります。

(3) ファイルをクリックして、写真の再生が開始になります。

7.10 POS再生

操作手順：

(1) 録画再生画面に遷移して、再生モードは[POS 再生]を選択します。

(2) 再生待ちのチャネルと時間を選択して、キーワードを入力して、<探索>をクリックして結果をチェックします。

説明：

&、|の特別文字検索をサポートします。「&」の意味が「と」で、「|」の意味が「や」です。

(3) をクリックして、重ね合せ内容を表示します。

(4) ファイルを選択します。をクリックして POS 再生になります。

7.11 ファイル管理

録画再生のファイル管理は、ファイル編集、再生カット、録画ファイルロック/アンロックとタグに対して管理を行います。

1. 再生カット

(1) 再生画面に遷移して、カットの必要があるところまで再生して、をクリックします。

(2) をクリックして、[再生カット]タブでカットファイルをチェックします。

(3) バックアップ必要があるカットファイルにチェックを入れ、<バックアップ>をクリックして、記憶装置にバックアップします。

説明：

解像度の大きさは、出力ポートディスプレイの解像度とカットする時ウインドウの画像分割数と関係しています。

2. ファイルロック

説明：
ファイルロックの意味：ロックした時間が含むすべての録画をカバーしません。

(1) ロックの必要がある録画位置まで再生して、をクリックします。
(2) をクリックして、[ファイルロック]タブでロックしたファイルをチェックします。

- ロック解除の際、をクリックして、ロック状態がになると、ロック解除になります。
- ファイルをバックアップする場合、バックアップ必要があるファイルにチェックを入れて、<バックアップ>をクリックして設備に記録します。

8 バックアップ

8.1 録画バックアップ

録画バックアップ：まず、設備ハードディスクに記録している録画をチェックして、そして録画をファイルの形式で USB 記憶装置やディスクにバックアップします。バックアップする前に、幾つかの条件を満たさなければなりません：

- USB 設備で使用してバックアップする場合、FAT32 や NTFS のパーティション形式を採用してください。
- ディスクを使用してバックアップする場合、LG の型番号が HL-DT-S レコーダーを使用してください；且つ DVD-R の内容がないディスクを使用します。
- ユーザはチャネルのローカルバックアップ権限があります。
- 録画が設備のハードディスクに記録されたことを確認します。。
- バックアップ設備は NVR（ネットワークビデオレコーダー）設備と正常に接続しています。

説明：
USB バックアップの録画ファイルフォーマットはデフォルトに*.mp4 とします。
ディスクバックアップの録画ファイルフォーマットは.TS だけサポートします。

8.1.1 通常録画のバックアップ

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>バックアップ>録画バックアップ]を選択して、「录像备份」画面に遷移します。

説明：
システムはデフォルトにすべてのチャネルを選択します。

(2) 探索条件を選択して、<探索>をクリックして、探索結果画面に遷移します。

説明：

当該画面において、録画ファイルのロック/アンロック、再生機能があります。

(3) バックアップ必要がある録画を選択して、<バックアップ>をクリックして、バックアップ画面に遷移します。

(4) パーティションを選択します。

- USB バックアップ

バックアップパスを選択して、<バックアップ>をクリックして、録画は今のカタログにバックアップします。

説明：

- フォルダを新規追加して、そしてダブルクリックして当該フォルダに入って、バックアップします。
- 外接設備の容量が 2T より大きい場合、<フォーマット>をクリックして、外接設備を NTFS ファイルシステムにフォーマットします；外接設備の容量が≤2T の場合、<フォーマット>をクリックして、外接設備を FAT32 や NTFS ファイルシステムにフォーマットします。一部の設備だけ容量が 2T 以上のフォーマットをサポートします。
- バックアップにおいて、プログレス・バーは「X/Y エクスポート中」とヒントします。X がバックアップ中の録画順次で、Y がバックアップ必要がある録画総数です。プログレス・バーの<取り消し>をクリックして、バックアップ停止になります。
- バックアップ必要がある録画ファイルの名付け規則はカメラ名称-録画開始時間.ファイルフォーマットです。例えば：Ch9-20150630183546.mp4。

-

- DVD バックアップ

バックアップパスを選択して、<バックアップ>をクリックして、録画は現在のカタログにバックアップします。

説明：

- レコーダーする前に、コーディングフォーマットは U-Code でないことをご確認ください；
- バックアップ中、「取消し」をクリックしないでください。取消しをクリックすれば、ディスクが再利用できません；
- レコーダー終了後、ディスクが自動的にポップアップします。手動でディスクを取り外さないでください；
- ローカルでバックアップしたディスクの再生をサポートしません。

8.1.2 録画編集のバックアップ

録画ファイルは分けて編集することができ、且つ USB 設備で編集した部分をバックアップします。

(1) 再生画面に遷移します。詳細は「7 再生」をご参照ください。

(2) 録画を編集します。

再生中、再生ツールバーにある/を使用して、バックアップ必要がある断片を編集します。

(3) をクリックして、[断片編集]タブで編集したファイルをチェックします。

(4) バックアップ必要がある録画断片を選択して、<バックアップ>をクリックして、バックアップ画面に遷移します。

(5) USB 記憶装置のパーティションと設備バックアップパスを選択して、<バックアップ>をクリックして、録画は今のカタログにバックアップします。

8.2 写真バックアップ

説明：
バックアップした写真ファイルのデフォルトフォーマットは*.jpg です。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>バックアップ>写真バックアップ]を選択して、「写真バックアップ」画面に遷移します。

(2) 探索条件を選択して、<探索>をクリックして、探索結果画面に遷移します。

説明：
解像度の大きさは、出力ポートディスプレイの解像度とカットする時ウインドウの画像分割数と関係しています。

(3) バックアップ必要がある写真ファイルを選択して、<バックアップ>をクリックして、バックアップ画面に遷移します。

(4) USB 記憶装置のパーティションと設備バックアップパスを選択して、<バックアップ>をクリックして、録画は今のカタログにバックアップします。

9 アラーム

9.1 入力出力

9.1.1 アラーム入力

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>入力出力]を選択して、「アラーム入力」画面に遷移します。

(2) アラーム入力の起動。

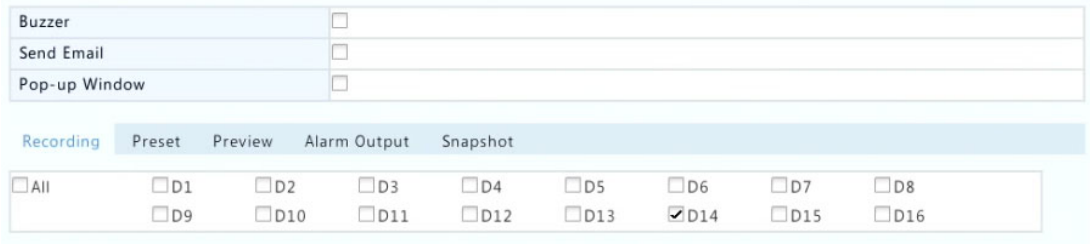
目標チャネルを選択して、をクリックして、「起動」にチェックを入れて、トリガー方式を選択します。<決定>をクリックして、当該アラーム入力の設定を完成します。





(3)　アラーム連動の設定。

連動方式ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。詳細は「9.8 アラーム連動」をご参照ください。



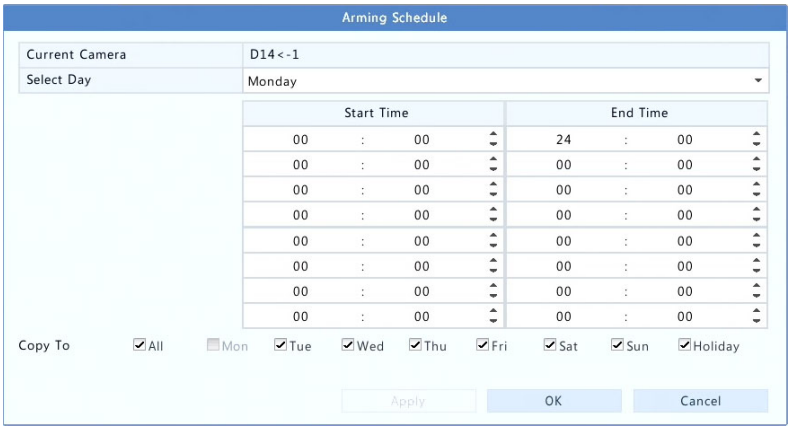


説明：

- 型番号によりチャネルのロードが異なる可能性があるので、実の状況に準じてください。
- アラームタイプによりアラームの連動タイプが異なる可能性があるので、実の状況に準じてください。

(4)　プランの設定

プランボタンをクリックして、プラン設定画面に遷移します。実の要求によりプランの時間を設定します。<決定>をクリックして、アラーム入力画面に戻ります。





説明：

- デフォルトに 7*24 時間で配備します。一日以内、8 の有効時間帯を設定することができますが、各時間帯の間、重複や交差がありません。
- プランが同じであれば、「曜日にコピーします」チェックボックスにある対応の時間にチェックを入れます。
- 其他のチャネルの設定が同じであれば、<コピー>をクリックして、チャネルチェックボックスに対応のチャネルにチェックを入れます。

9.1.2 アラーム出力

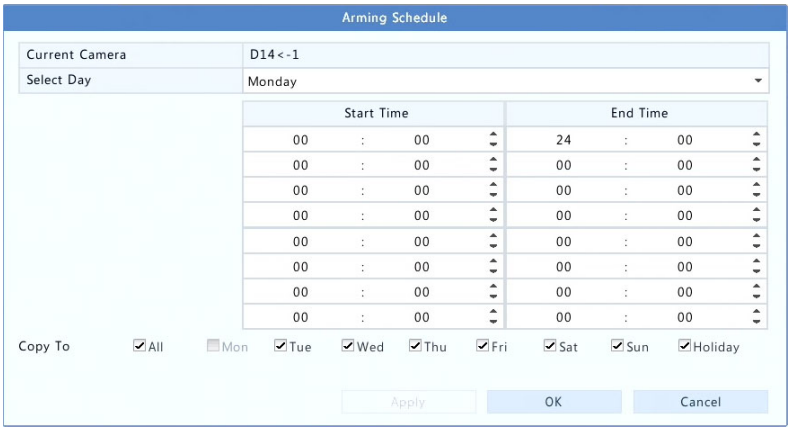
操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>入力出力]を選択して、「アラーム出力」画面に遷移します。

(2) アラーム出力のチャネルを選択して、をクリックして、アラーム出力のデフォルト状態及び持続時間を設定して、<決定>をクリックします。

(3) プランを設定します。

プランボタンをクリックして、プラン設定画面に遷移します。実の要求により有効時間を設定します。<決定>をクリックして、アラーム出力画面に戻ります。





説明：

- デフォルトに 7*24 時間で配備します。一日以内、8 の有効時間帯を設定することができますが、各時間帯の間、重複や交差がありません。
- プランが同じであれば、「曜日にコピーします」チェックボックスにある対応の時間にチェックを入れます。
- 其他のチャネルの設定が同じであれば、<コピー>をクリックして、チャネルチェックボックスに対応のチャネルにチェックを入れます。

9.2 動作検出

動作検出アラームの意味：設定した感知エリアにおいて、物体がある程度の変位を発生した時、設備はアラームします。

説明：

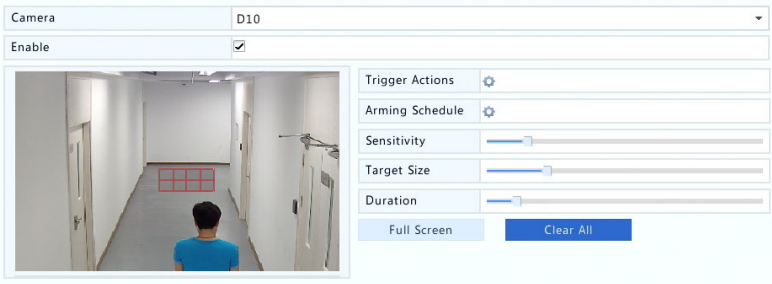
動作検出アラームがある場合、画面の右上に動作検出アラームアイコンを表示します。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>動作検出]を選択して、「動作検出」画面に遷移します。

(2) チャネルを選択して、「動作検出起動」にチェックを入れます。

(3) マウスで動作検出エリアを描画します。スライドバーを引いて、適切な感度を選びます。





説明：

感度の値が大きくほど、同一物体が同じ運動で引き起した運動量が大きくなって、感知しやすくなります。

(4)　アラーム連動の設定

連動方式ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。詳細は「9.8 アラーム連動」をご参照ください。



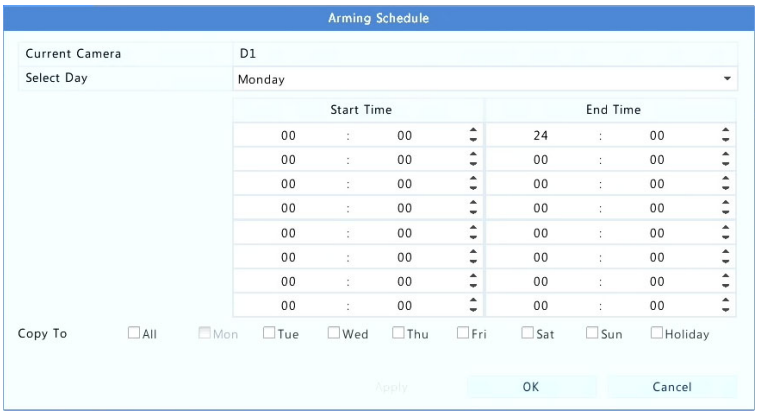


説明：

- 実の状況によりチャネルのロード数が異なる可能性がありますので、実物に準じてください。
- 実の状況によりアラーム連動タイプが異なる可能性がありますので、実物に準じてください。

(5)　プランの設定。

プランボタンをクリックして、プラン設定画面に遷移します。実の状況により配備の時間を設定します。<決定>をクリックして、動作検出画面に戻ります。





説明：

- デフォルトに 7*24 時間で配備します。一日以内、8 の有効時間帯を設定することができますが、各時間帯の間、重複や交差がありません。
- プランが同じであれば、「曜日にコピーします」チェックボックスにある対応の時間にチェックを入れます。

(6) <適用>をクリックして、設定を完成します。

説明：

その他のチャネルが同じであれば、<コピー> ボタンをクリックして、コピーの必要があるパラメータと目標チャネルにチェックを入れます。

9.3 カバー検知

カバー検知アラームの意味：カメラのビデオ画像がカバーされた時、設備がアラームします。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>カバー検知]を選択して、「カバー検知」画面に遷移します。

(2) チャネルを選択して、「カバー検知起動」にチェックを入れます。





(3) アラーム連動の設定。

連動方式ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。詳細は「9.8 アラーム連動」をご参照ください。

(4) プランの設定

プランボタンをクリックして、プラン設定画面に遷移します。実の要求により有効時間を設定します。<決定>をクリックして、カバー検知画面に遷移します。

説明：

その他のチャネルが同じであれば、<コピー> ボタンをクリックして、コピーの必要があるパラメータと目標チャネルにチェックを入れます。

(5) <適用>をクリックして、設定を完成します。

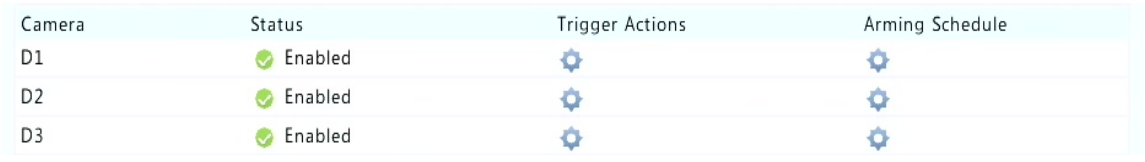
9.4 録画紛失

録画紛失アラームの意味：あるチャネルの録画信号が紛失した時、タイムリーに処理することができるために、設備はアラームします。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>録画紛失]を選択して、「録画紛失」画面に遷移します。

システムはデフォルトにすべてのチャネルの録画紛失アラームを起動します。をクリックして、アラーム閉じになり、アイコンはになります。





(2) アラーム連動の設定。

連動方式ボタン⚙をクリックして、アラーム連動画面に遷移します。詳細は「9.8 アラーム連動」をご参照ください。

説明：

録画紛失アラームは連動記録、プリセット、プレビューとカットを実行するとき、自分のチャネルと連動することができません。

(3) プランの設定。

プランボタン⚙をクリックして、プラン設定画面に遷移します。実の状況により有効時間を設定します。<決定>をクリックして、録画紛失画面に戻ります。

説明：

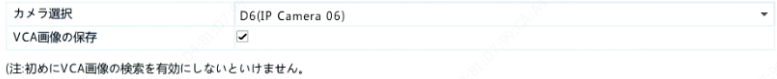
その他のチャネルが同じであれば、<コピー> ボタンをクリックして、コピーの必要があるパラメータと目標チャネルにチェックを入れます。

9.5 スマート検知

9.5.1 基本設定

[メインメニュー>アラーム設定>スマート検知]を選択して、「基本設定」画面に遷移します。実の状況により、チャネルを選択し、且つスマート画像の記録にチェックを入れます。



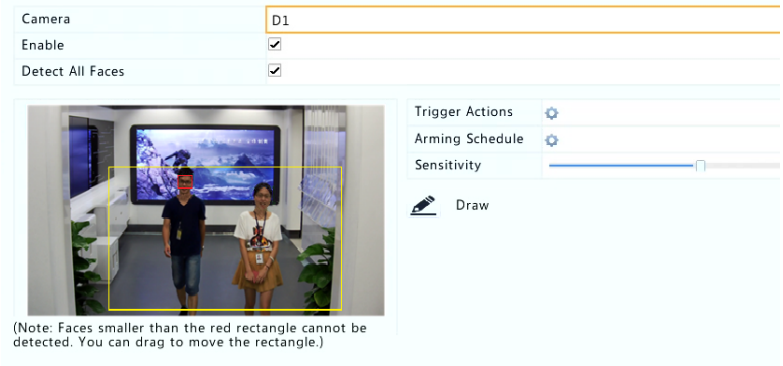


9.5.2 顔検出

顔検出機能は、監視に出現した人の顔を検出することができます。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>スマート検知]を選択して、「顔検出」画面に遷移します。





(2) チャネルを選択して、顔検出と全顔検出を起動させます。

説明：

全顔検出の意味：検知エリアに出現したすべての顔を検出することです。

(3) マウスでエリアボタンを描画して、左のエリアに規則エリアを描画します。感度を設定します。

説明：

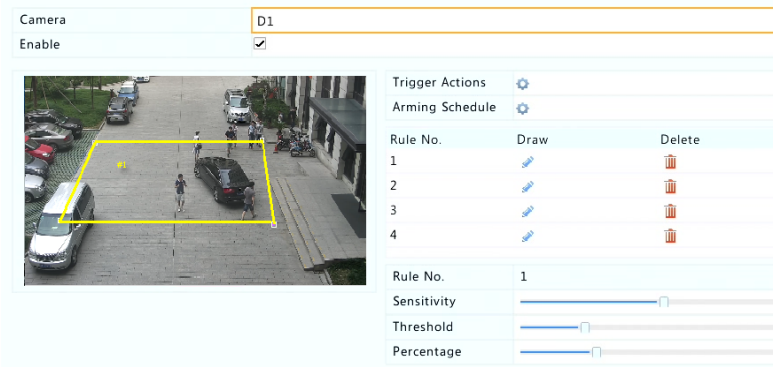
感度が小さくなるほど、横顔やはっきりしていない顔を検知することができません。ユーザは実の環境により調整します。

9.5.3 侵入検知

侵入検知の意味：録画において、物体が設定したエリアに侵入したかを検知して、結果により連動アラームを起動します。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>スマート検知]を選択して、「侵入検知」画面に遷移します。





(2) チャネルを選択して、エリア検知を起動します。

(3) 規則エリアを描画します。異なる規則により感度、時間のしきい値などパラメータを設定します。

説明：

- 最大４の規則が設定できます。
- 時間のしきい値：侵入した物体の滞在時間が時間のしきい値を超過した場合、アラームします。
- 割合：侵入した物体の面積割合が割合を超過した場合、アラームします。

(4) アラーム連動の設定。

連動方式ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。詳細は「9.8 アラーム連動」をご参照ください。

(5) プランを設定します。

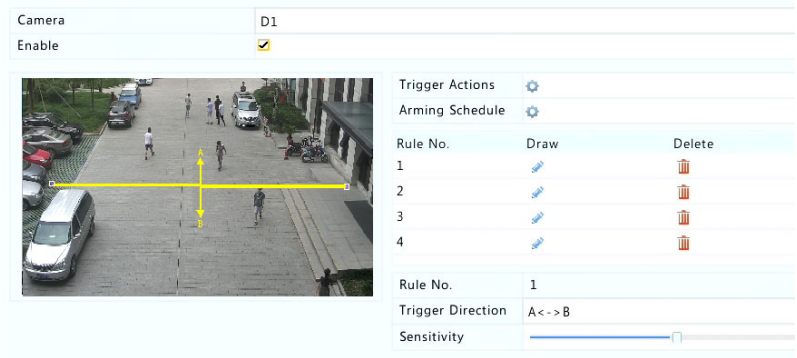
プランボタンをクリックして、プラン設定画面に遷移します。実の要求により有効時間を設定します。<決定>をクリックして、侵入検知画面に戻ります。

9.5.4 クロスライン検知

クロスライン機能は、録画において、設定したアラーム線を越えた物体があるかを検知して、結果によりアラームするかを判定します。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>スマート検知]を選択して、「クロスライン検知」画面に遷移します。





(2) チャネルを選択して、クロスライン検知を起動します。

(3) 規則エリアを描画します。異なる規則により方向、感度を設定します。

説明：

最大４の規則が設定できます。

(4) アラーム連動の設定。

連動方式ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。詳細は「9.8 アラーム連動」をご参照ください。

(5) プランを設定します。

プランボタンをクリックして、プラン設定画面に遷移します。実の要求により有効時間を設定します。<決定>をクリックして、クロスライン検知画面に戻ります。

9.5.5 音声異常検出

音声異常検出の意味：カメラから受信したオーディオが異常であれば、設備はアラームします。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>スマート検知]を選択して、「音声異常検出」画面に遷移します。





(2) チャネルを選択して、「音声異常検出」にチェックを入れます。

(3) アラーム連動を設定します。

連動方式ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。詳細は「9.8 アラーム連動」をご参照ください。

(4) プランを設定します。

プランボタンをクリックして、プラン設定画面に遷移します。実の要求により有効時間を設定します。<決定>をクリックして、音声異常検出画面に戻ります。

(5) 下記の表により検査タイプを選択し、且つ要求により関連しているパラメータを調整してください。

検査タイプ	説明
急上昇	音量が急に上昇する場合、差分パラメータを調整して、アラームを引き起す限界値を確認します。
急降下	音量が急に降下する場合、差分パラメータを調整して、アラームを引き起す限界値を確認します。
突然変化	音量が急に上昇や降下する場合、差分パラメータを調整して、アラームを引き起す限界値を確認します。
しきい値	音量の大きさについて、しきい値のパラメータを調整して、アラームを引き起す超過値を確認します。

(6)

(7) <適用>をクリックして、設定を完成します。

9.5.6 人数カウント

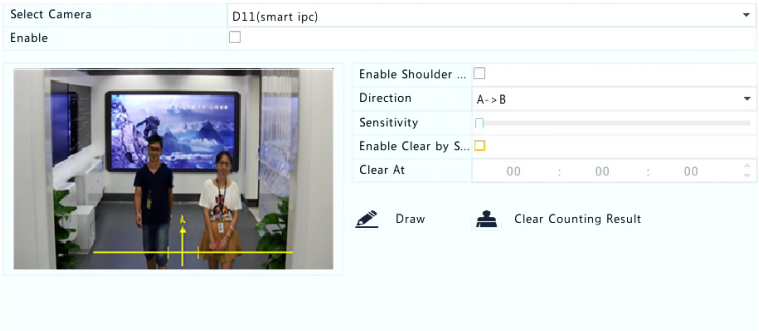
人数カウント機能は、検知エリアの進出人数を確認することができます。一部の設備だけ人数カウントの検知機能があります。

注意：

人数カウント機能は、その他のスマート検知機能（顔検出、侵入検知、クロスライン検知、デフォーカス検査とシーン変換）と同時に起動することができません。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>スマート検知]を選択して、「人数カウント」画面に遷移します。





(2) チャネルを選択して、人数カウント検知と人の肩のマークを起動します。

説明：
人の肩のマークを起動した後、肩が指定の幅を超えた人が識別できます。

(3) マウスで線引くボタンをクリックして、左側のエリアに規則をマークします。当該規則によって方向と感度を設定します。

(4) 「定時リセット」にチェックを入れると、毎日のカスタム時間で、人数統計 OSD をリセットします。「人数統計リセット」ボタンは、任意の時間で OSD をリセットすることができます。

説明：
リセットは人数カウント OSD だけ影響を与えて、最後の統計に影響がありません。

(5) <適用>をクリックして、設定を完成します。

9.5.7 デフォーカス検知

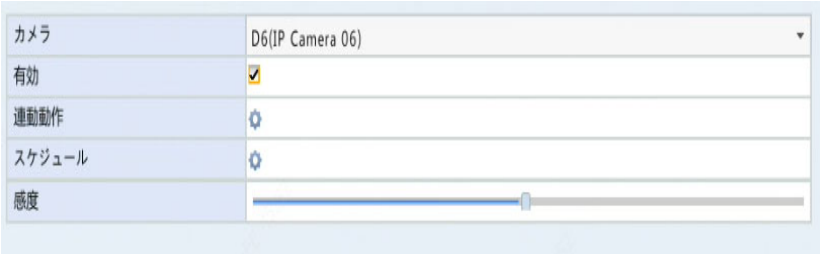
デフォーカス機能は、カメラのフォーカスが正常であるかを判定します。画像にデフォーカスがあれば、アラームします。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>スマート検知]を選択して、「デフォーカス検知」画面に遷移します。

(2) チャネルを選択して、デフォーカス検知を起動します。





(3) アラーム連動の設定。

連動方式ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。詳細は「9.8 アラーム連動」をご参照ください。

(4) プランの設定。

プランボタンをクリックして、プラン設定画面に遷移します。実の要求により有効時間を設定します。<決定>をクリックして、デフォーカス画面に戻ります。

(5) 感度を設定した後、<適用>をクリックして、設定を完成します。

9.5.8 シーン変更

外部や人的妨害で、監視シーンが変更した場合、システムは有効で実行することができません。シーン変更機能は、監視しているシーンが変更があるかを判定することができます。変更の場合、アラームします。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>スマート検知]を選択して、「シーン変更」画面に遷移します。

(2) チャネルを選択して、シーン変更を起動します。





(3) アラーム連動を設定します。

連動方式ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。詳細は「9.8 アラーム連動」をご参照ください。

(4) プランの設定。

プランボタンをクリックして、プランの設定画面に遷移します。実の要求により有効時間を設定します。<決定>をクリックして、シーン変更画面に戻ります。

(5) 感度を設定した後、<適用>をクリックして、設定を完成します。

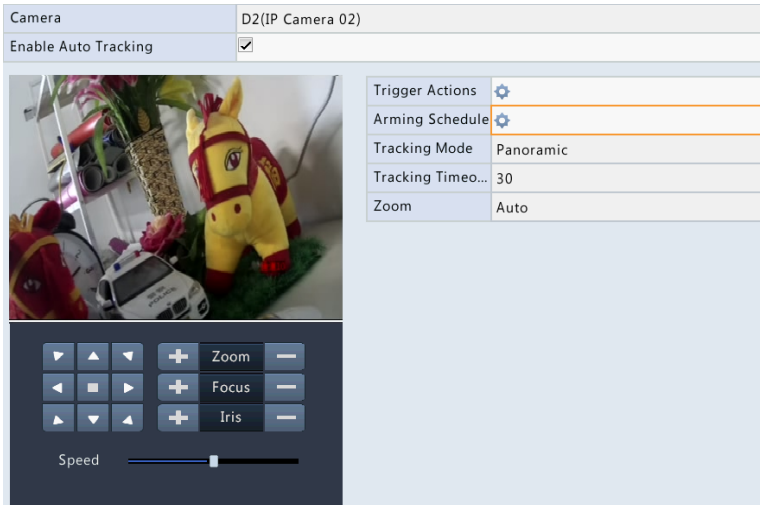
9.5.9 スマート運動追跡

スマート追跡は、リアルタイムライブビューで放送している画面にある運動目標を検知し、且つ第一番の目標を追跡します。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>スマート検知]を選択して、「スマート運動追跡」画面に遷移します。

(2) チャネルを選択して、スマート運動追跡を起動します。





(3) アラーム連動を設定します。

連動方式ボタンをクリックして、アラーム連動画面に遷移します。詳細は「9.8 アラーム連動」をご参照ください。

(4) プランの設定。

プランボタンをクリックして、プランの設定画面に遷移します。実の要求により有効時間を設定します。<決定>をクリックして、スマート運動追跡画面に戻ります。

(5) 追跡モードを選択します。今パノラマモードだけサポートしています。追跡のタイムアウト時間を設定して、追跡倍率を選択します。

説明：

- 追跡タイムアウト時間は 1~300 で、デフォルトに 30s とします。IPC の自動追跡の最大時間を超過すると、IPC は元々のシーン状態に戻ります 。
- 追跡倍率：自動、今の倍率、デフォルト倍率。自動倍率は、追跡の距離により自動的に倍率を調整して、目標の詳細に注目します；今の倍率は、目標が追跡できる倍率を維持していて、全体的な監視シーンに注目します。

(6) <適用>をクリックして、設定を完成します。

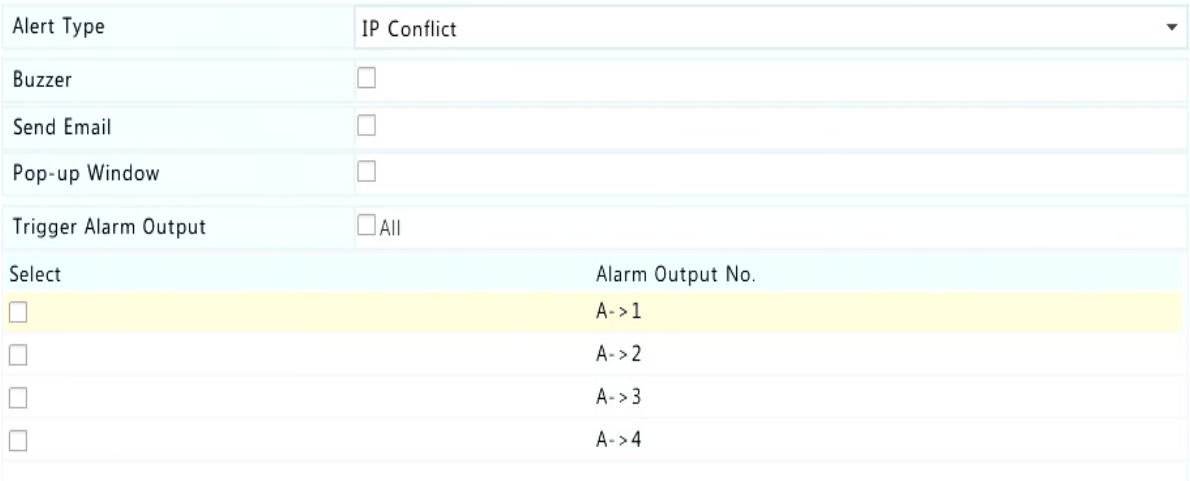
9.6 異常設定

異常設定は、異常イベントのアラームに対する処理です。異常イベントは、ハードディスクオフライン、ハードディスク異常（ハードディスクが検知できますが、正常に読みや書き込みができません）、不正アクセス（ユーザ名無し、或いはパスワードエラー）、ネットオフラインと IP 衝突の意味です。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>異常設定]を選択して、「異常設定」画面に遷移します。

(2) 異常種別を設定して、各連動タイプを ON にします。



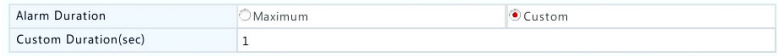


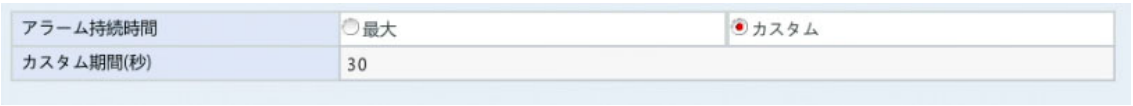
(3) <適用>をクリックして、設定を完了します。

9.7 音声アラーム

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>アラーム設定>音声アラーム]を選択して、「音声アラーム」画面に遷移します。





(2) ユーザは自分の要求により、音声アラームの長さを調整します。

(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

説明：

音声アラーム長さの調整範囲は 1~600 秒とします。

9.8 アラーム連動

アラームする時、音声アラーム（ブザー）、連動記録（アラームの際、録画して記録します）、連動プレビューなど操作があります。各型番号がサポートしているアラーム連動タイプが異なるので、実の状況に基づき使用します。

1. 連動音声アラーム

アラームの際、設備はブザーの音声があります。

2. 連動メール送付

アラームの際、メール送付の形式でタイムリーにユーザに通知します。

3. 連動アラームポップアップ

アラームの際、システムはアラーム情報をポップアップします。

4. 連動記録

アラームの際、システムはチャネルの選択をトリガーして、エビデンスとして録画を記録します。

5. 連動プリセット

アラームの際、プリセットを連動して、パンチルトカメラを指定の位置に調整し、現場の画面をよくチェックします。

6. 連動プレビュー

アラームの際、シングル画面でユーザが指定したチャネルのリアルタイムライブビューをパトロールします。そうすると、ユーザはタイムリーにアラームの状況が了解できます。

7. 連動アラーム出力

アラームの際、設備は対応のアラーム出力をトリガーして、第三者設備を連動します。

8. 連動カット

アラームの際、システムは選択したチャネルのカットを実行します。

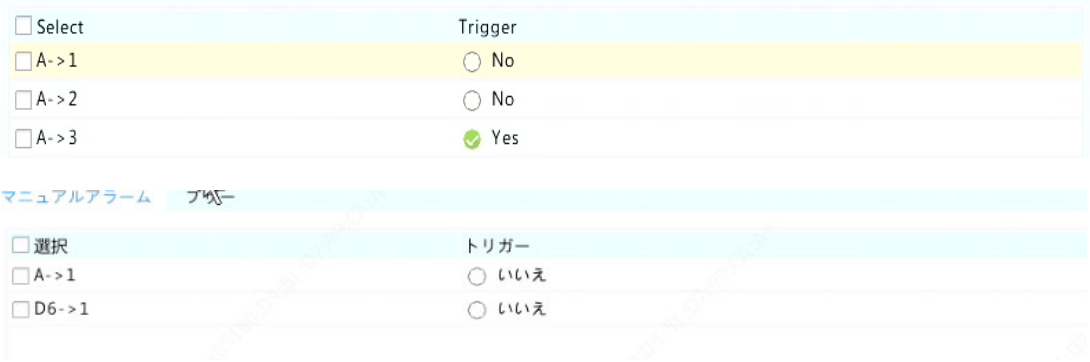
9.9 手動アラーム

9.9.1 手動アラーム

手動で開閉量アラームの出力をトリガー/削除することができます。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>手動操作>手動アラーム]を選択して、「手動アラーム」画面に遷移します。

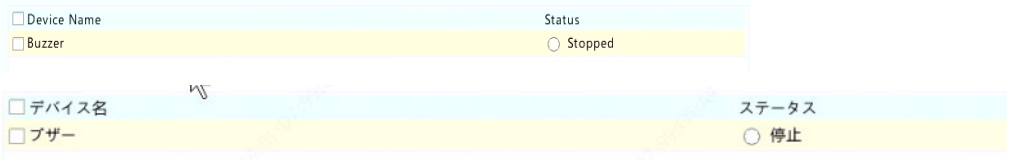


(2) チャネル開閉量のアラーム出力をトリガー/削除の際、当該チャネルにチェックを入れ、<トリガー>や<削除>をクリックして、対応のチャネルは開閉量アラーム出力をトリガー/削除します。

9.9.2 手動音声アラーム

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>手動操作>手動アラーム]を選択して、「手動音声アラーム」画面に遷移します。



(2) ブザーON の時、設備にチェックを入れ、<停止>をクリックして、手動でブザーを停止させます。

10 スマート探索

一部の設備だけスマート探索機能がサポートします。スマート探索は、行為探索、顔探索、人数カウントを含みます。各探索の具体的な機能、応用シーン及び設定方法は異なっています。

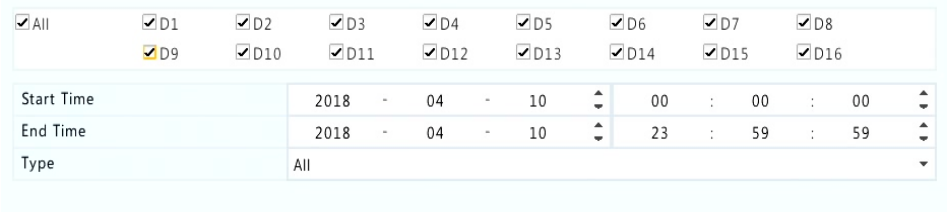
注意：
行為探索と顔探索を実行する前に、スマート検知の基本設定画面において、対応チャネルの「スマート画像記録」にチェックを入れなければなりません。

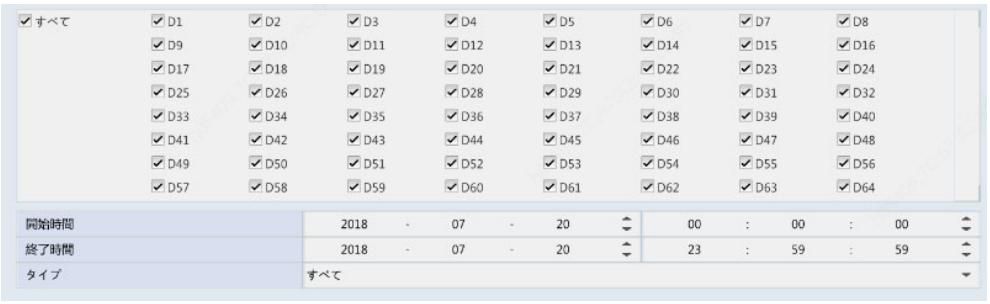
10.1 行為探索

行為探索は、スマート検知イベントに基づく快速探索です；今、クロスライン検知、侵入検知検知に基づく録画検索がサポートします。

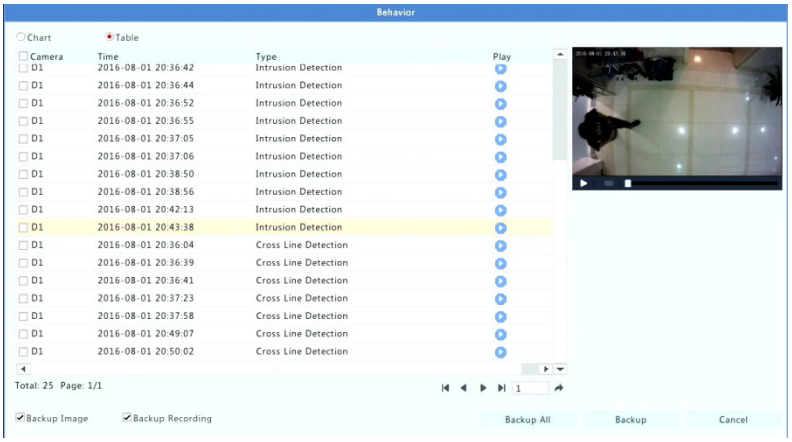
操作手順は下記の通り：

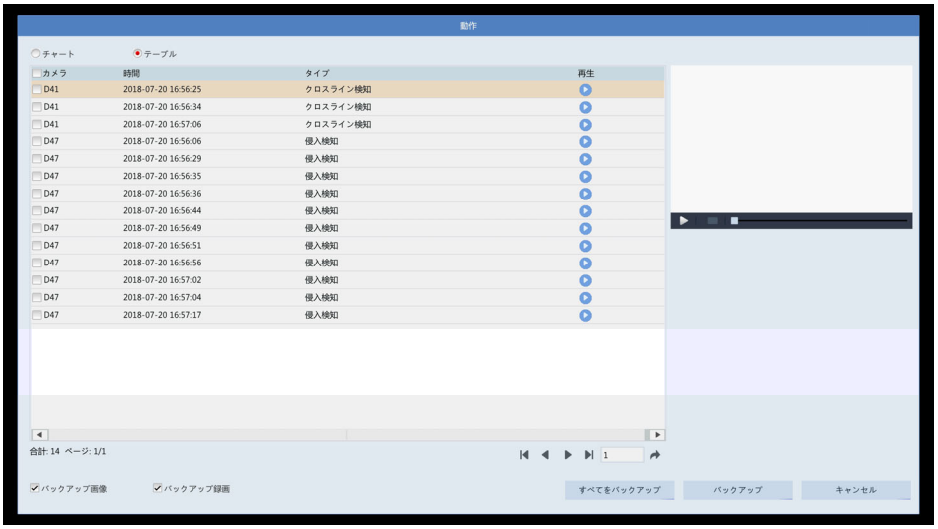
(1) [メインメニュー>スマート探索>行為探索]を選択して、「行為探索」画面に遷移します。





(2) チャネルを選択して、開始時間と終了時間を設定します。探索種別を選択して、<探索>をクリックします。





(3) アリコンやリストの形式で検索結果を表示します。チャネルチェックボックスを選択して、バックアップ操作を行います。

説明：

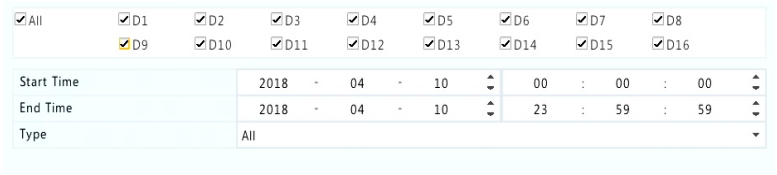
- 画像バックアップや録画バックアップが選択できます。
- 再生ボタンをクリックして、イベント発生前後の約 10 秒の録画を再生します。

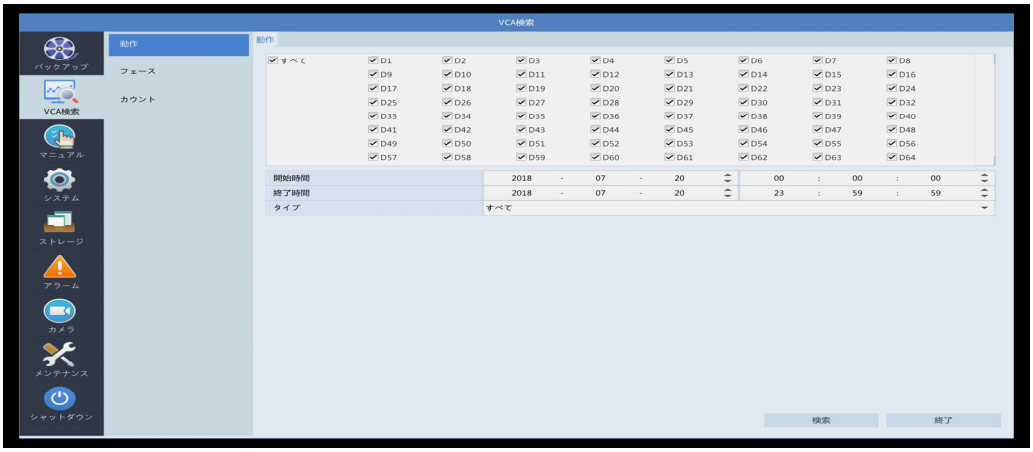
10.2 顔探索

顔探索は、顔検出による写真探索です。

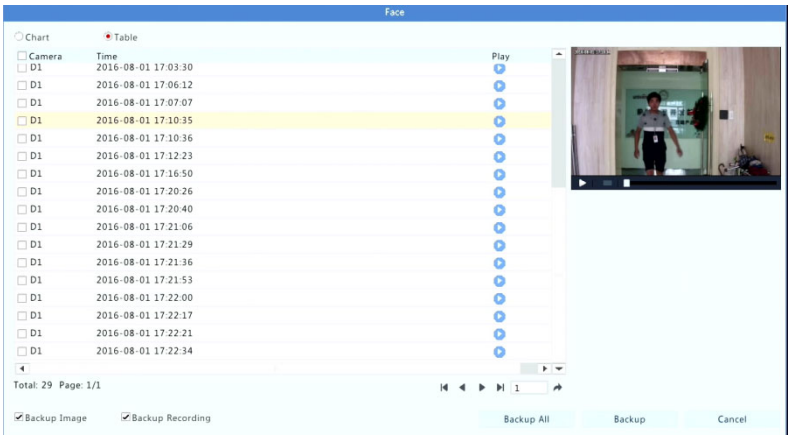
操作手順は下記の通り：

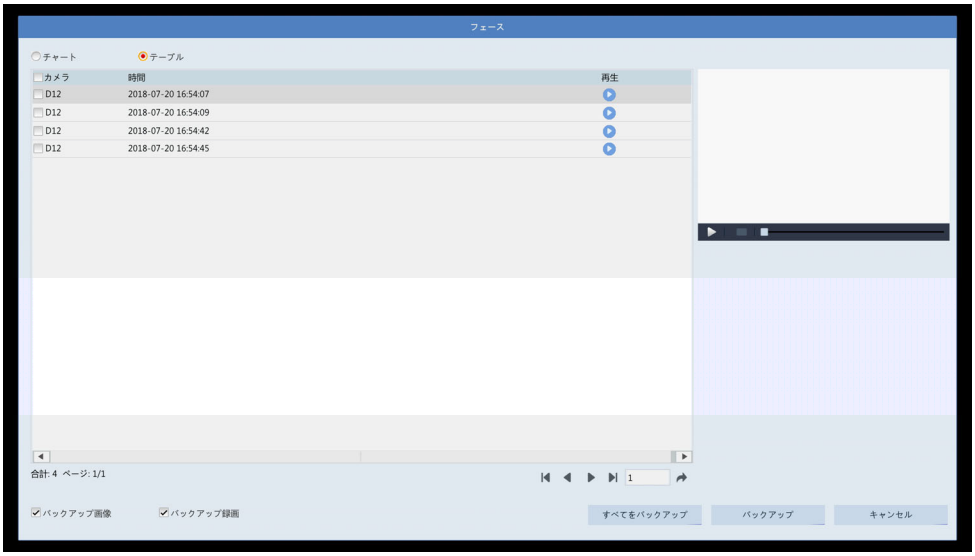
(1) [メインメニュー>スマート探索>顔探索]を選択して、「顔探索」画面に遷移します。





(2) チャネルを選択して、開始時間と終了時間を設定して、<探索>をクリックします。





(3) アリコンやリストの形式で検索結果を表示します。チャネルチェックボックスを選択して、バックアップ操作を行います。

説明：

- **画像バックアップや録画バックアップが選択できます。**
- **再生ボタンをクリックして、イベント発生前後の約 10 秒の録画を再生します。**

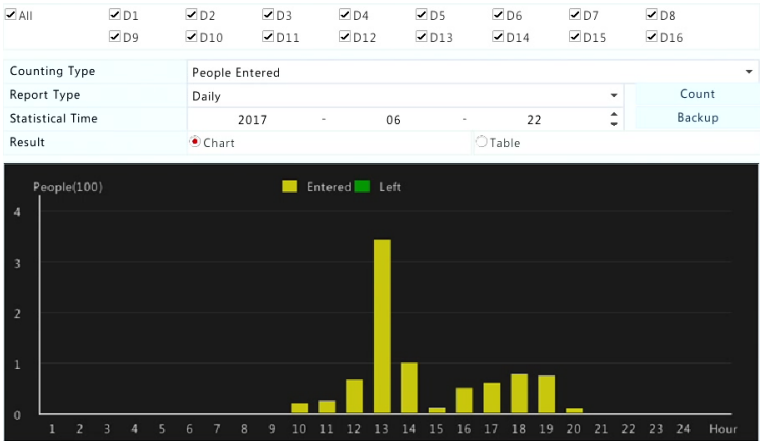
10.3 人数カウント

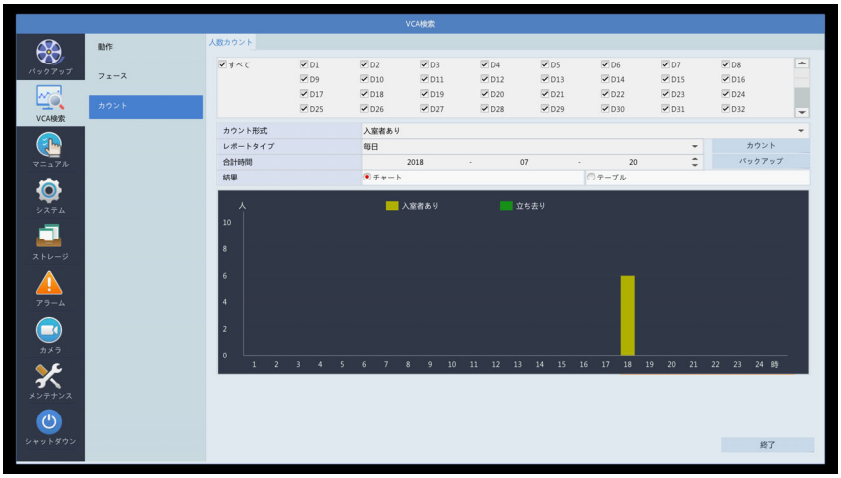
人数カウントの統計は、指定した時間で、各チャネルの進入と離れる人を、日、週、月、年で統計して、有効的に人的統計時間を節約し、精度も高めます。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>スマート探索>人数カウント]を選択して、「人数カウント」画面に遷移します。

(2) チャネル（デフォルトに全部を選択します）を選択して、統計タイプ、レポートタイプと統計時間を設定して、<統計>をクリックします。アリコンやリストのグラフで検索結果を表示します（下記はグラフで表示することを例とします）。グラフで表示する時、マウスで円柱をクリックすると、当該時間で選択したチャネルの詳細内容をポップアップで表示します。





(3) <バックアップ>をクリックして、統計したデータを外部記憶装置に記録します。

注意：

バックアップする前に、統計しなければなりません。

11 インターネット設定

ネット監視に使用する場合、ネット設定を行った後正常に利用できます。

説明：

ネットワークインターフェース 1 のデフォルト IP アドレスは 192.168.1.30 です。ネットワークインターフェース 2 のデフォルト IP アドレスは 192.168.2.30 です。順次類推します。

11.1 TCP/IP

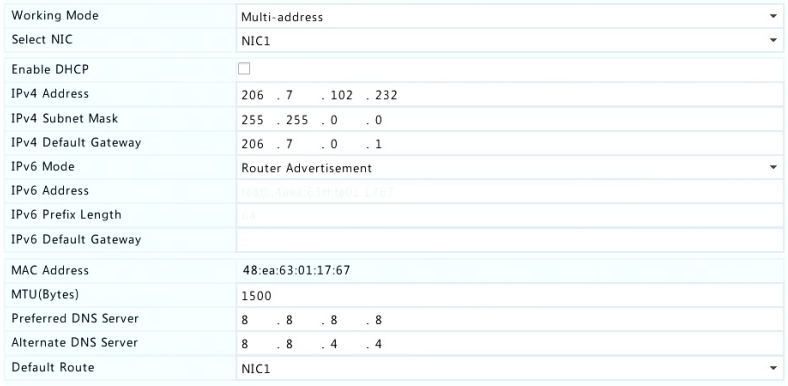
操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「TCP/IP」画面に遷移します。

(2) ネットパラメータを設定します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ネットワークカバー及びポートなどパラメータを設定することができます。

複数ポートの設備は、複数アドレス設定、負荷バランスとネットワークの容認 3 の作業モードがあります。

- 二つの LAN カードは独立で作業し、「LAN カード選択」を選択すると、それぞれ設定することができます。１つの LAN カードを「デフォルトルート」として設定して、設備は外部のネットと接続するとき、デフォルトにデフォルトルートでデータを送付します。
- 負荷バランス：2 の LAN カードを 1 つの IP アドレスにジャックし、且つ同時に作業して、設備入力出力の帯域幅を引き受けます。
- ネットワークの容認： 2 の LAN カードを 1 つの IP アドレスにジャックし、メイン LAN カードが故障であれば、予備 LAN カードはシームレス接続して、ネットの作業を保障します。





説明：

- 複数 LAN カードの設備に対して、デフォルトルーター、デフォルト LAN カード 1 を選択することができます。
- PoE ネットワークインターフェースや交換ネットワークインターフェースが付いている設備は、内部 LAN カードの IPv4 が設定できます。

注意：

- 複数 LAN カードが作業モードを切り替えた後、起動された 802.1x と ARP の攻撃防止機能が自動的に OFF になります。
- MTU の有効範囲は[576-1500]です。IPv6 機能を使用する必要があれば、範囲を[1280-1500]と設定し、且つ NVR（ネットワークビデオレコーダー）と PC の IPv6 アドレスが接続可と保証します。リアルタイムライブビュー、再生などを確認する場合、IPv4 アドレスも接続可とします。

(3) <適用>をクリックして、設定を完了します。

11.2 PPPoE

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「PPPoE」画面に遷移します。

(2) PPPoE を起動し、ISP（Internet 服务提供商）から提供されたユーザ名とパスワードを入力します。ダイヤル成功後、画面の下に設備の IP 情報を表示します。

説明：

- 複数 LAN カードの設備は、デフォルトルーターの LAN カードにより PPPoE ダイヤルを行います。
- PPPoE 機能を使用する前に、UNP クライアントと 3G/4G 機能を OFF になければなりません。

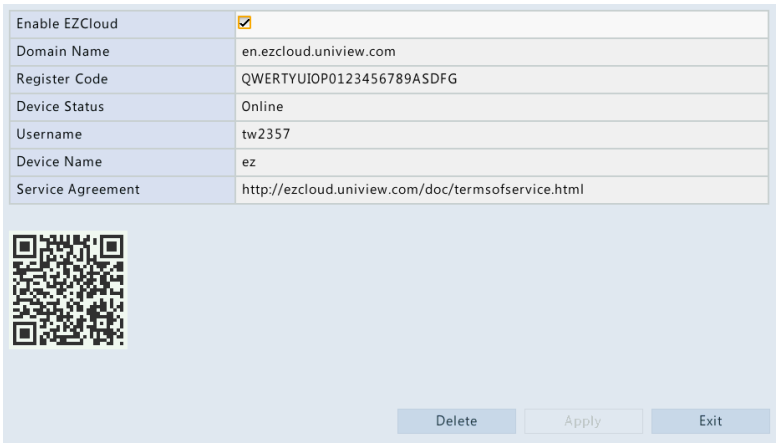
(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

11.3 宇視クラウド

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「宇視クラウド」画面に遷移します。

(2) 宇視クラウド（システムはデフォルトに宇視クラウドを ON にします）を ON にします。





説明：

- 携帯クライアントがダウンロードしていない場合、QR コードをスキャンして、ダウンロード画面に遷移します。
- 携帯クライアントがダウンロードした場合、QR ロードルーダーボタンをクリックして、登録コードを取得します。
- 設備オフラインの場合、便利にロケーションで解決するために、システムは一般の原因を表示します。
- 設備オンラインの場合、画面において使用している設備のユーザ名称を表示します。ジャック解除のとき、<ログアウト>ボタンをクリックしてください。

(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

11.4 DDNS

設備は PPPoE の方式で公衆通信ネットと接続している場合、DDNS（動的ドメイン解析）を採用すると、ドメイン名で設備にアクセスすることができ、動的 IP のアクセス不便を有効的に解決します。

説明：

Web ブラウザの中に http://サーバーアドレス/設備ドメイン名を入力すると、ドメイン名で設備の web 画面にアクセスすることができます。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「DDNS」画面に遷移します。

(2) 「DDNS を ON にします」にチェックを入れて、DDNS のタイプを選択します。

- DDNS のタイプは DynDNS や No-IP である場合、設備ドメイン名、ユーザ名、パスワードを入力して確認します。
  - 設備ドメイン名は、ドメイン名ウェブサイト（例えば DynDNS）で申請したドメイン名です。
  - ユーザ名、パスワードは、ドメイン名ウェブサイト（例えば DynDNS）で登録したアカウントと対応しているユーザ名とパスワードです。





- DDNS の種別は EZDDNS である場合、直接に設備ドメイン名をカスタムします。<テスト>をクリックして、当該ドメイン名が使用されていたかをチェックします。





(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

11.5 3G/4G

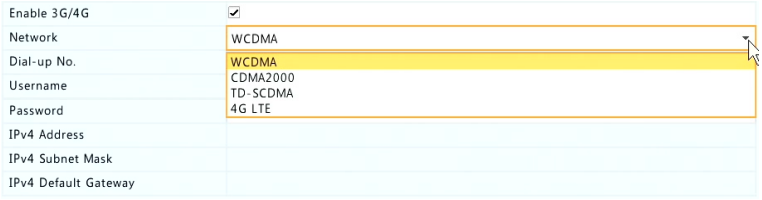
一部の設備だけ本機能をサポートします。設備に LAN カードを差し込んだ後、3G/4G 画面の簡単設定で、設備をネットと接続することができます。

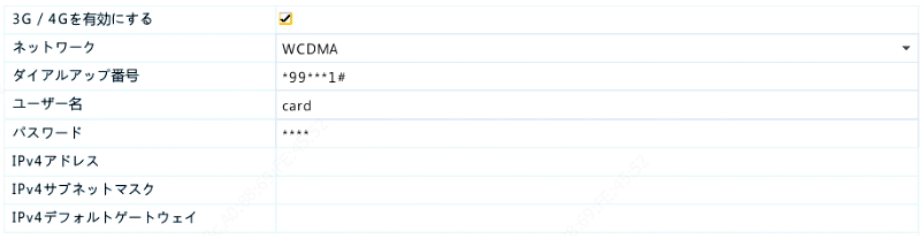
操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「3G/4G」画面に遷移します。

(2) 3G/4G を ON にします。

(3) 接続タイプ、ダイヤル番号、ユーザ名とパスワードなど情報を設定します。





(4) <適用>をクリックして、設定を完成します。

説明：

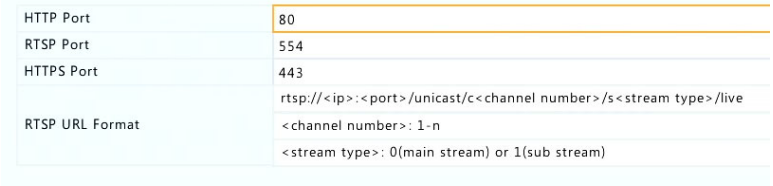
3G/4G 機能を使用する前に、UNP クライアントと PPPoE 機能を OFF にしてください。

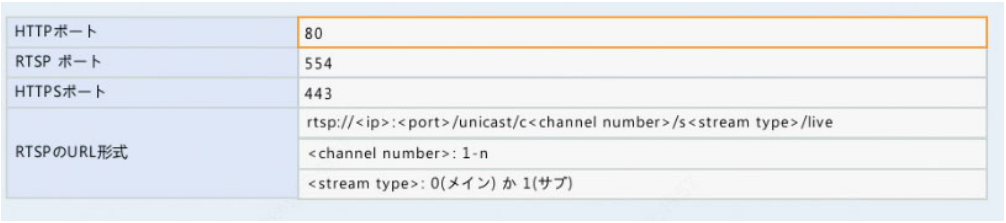
11.6 ポート

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「ポート」画面に遷移します。

(2) NVR の内部ポートを設定します。





説明：

- ポートの有効範囲は 1~65535 です。その中、21、23、2000、3702 と 60000 は保留ポートです。注意するのは、すべてのポート設定は重複しない。
- 上りのプラットフォームは画面にある RTSP URL フォーマットをコールして、当該 NVR のあるチャネルのリアルタイムライブビューをチェックすることができます。

(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

11.7 ポートマッピング

ポートマッピングは UPnP と内外ポートマッピング 2 の機能があります。

11.7.1 UPnP

UpnP のフルネームは通用プラグアンドプレイです。UPnP の NAT 転換規則で自動ポートマッピングを実現します。ネットの作業効率を高めるために、公衆通信ネットのコンピュータがプライベートネットの設備にアクセスさせます。

前提条件：UPnP 機能はルーターのサポートがなければなりません。そのため、UPnP 機能を設定する前に、ルーターに UPnP を ON にしてください。

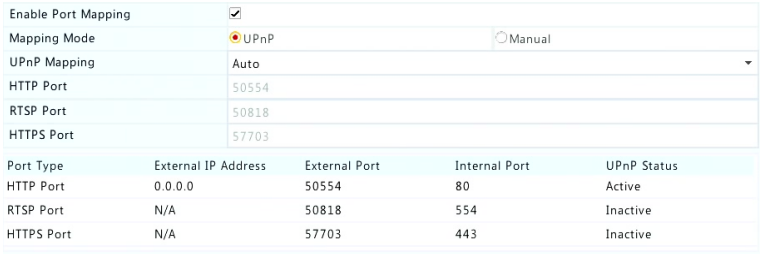
操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「ポートマッピング」画面に遷移します。

(2) システムはデフォルトに UPnP が ON とします。ユーザは自分の要求によりマッピングタイプを選択します。

説明：

- 「自動協議」タイプを選択すると推薦します。カスタムは外部ポートを指定すると、衝突が発生しやすいです。
- 複数 LAN カードの設備について、デフォルトルーターの LAN カードによりポートマッピングを行います。





(3) <更新>をクリックして、リストにある「UPnP 状態」をチェックして、有効であるかを確認します。

(4) <適用>をクリックして、設定を完成します。

11.7.2 手動でポートマッピング

ルーターは UPnP をサポートしない場合、手動で内外のポート番号を編集した上で、リモートアクセスすることができます。

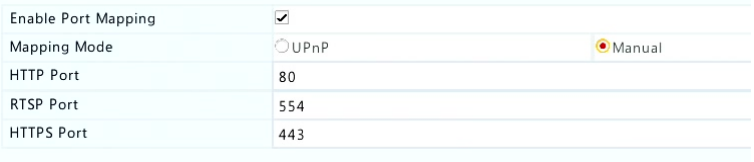
説明：

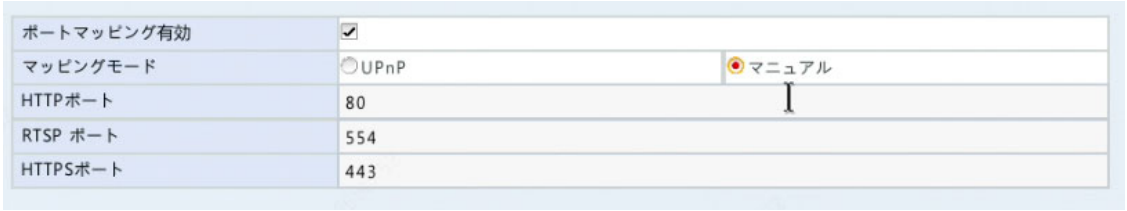
- マッピングの原則は、NVR のポート番号がルーターのポート番号と一致していることです。
- 一部のルーターが 1 つ種類のポート、即ち同名ポートだけサポートする場合、NVR の外部ポートが内部ポートと一致していることを要求し、且つルーターポートと一致しなければなりません。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「ポートマッピング」画面に遷移します。

(2) 「手動」マッピング方式にチエックを入れて、手動で外部ポートを設定します。





(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

説明：

ポートマッピング設定完成後、ブラウザーで「ルーターWAN の IP アドレス：HTTP 外部ポート番号」を入力して、NVR の Web 画面にログインします。例えば：ルーターの外部 IP アドレスが 10.2.2.10 で、HTTP の外部ポートが 82 である場合、ブラウザーのアドレスバーに http://10.2.2.10:82 をに入力します。

11.8 メール

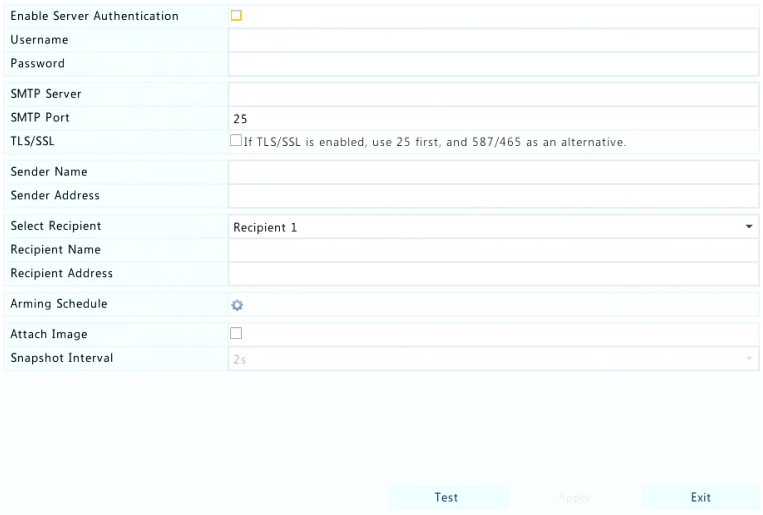
メールを設定する前に、関連しているアラーム連動画面に「メール送付」にチェックを入れたをご確認ください。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「メール」画面に遷移します。

(2) メールのパラメータを設定します。<テスト>をクリックして、メール送付成功したかを確認することができます。

サーバ検証が ON にすると、正しいユーザ名とパスワードを入力する必要があります。実メールにより SMTP サーバのアドレス、ポート値を入力し、且つ「TLS/SSL が ON にします」にチェックを入れるかを確認します。





説明：

デフォルトに 7*24 時間で配備します。有効時間以内でメールを送付します。

注意：

- 一部の設備だけ画像添付機能をサポートします。使用の際、実の設備画面によって操作してください。
- 画像添付機能を使用する前に、カット計画が ON と確認し、且つ関連しているアラーム連動画面に「連動カット」にチェックを入れたことをご確認ください。

(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

11.9 FTP

説明：

- 一部の設備だけ FTP 設定をサポートします。使用の際、実の状況により使用します。
- FTP 機能を使用する前提は、ＦＴＰサーバーを購買やダウンロードする必要があることです。
- FTP サーバーの使用や接続に成功した後、システムは指導的に画像を FTP サーバーにアップロードします。

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「FTP」画面に遷移します。

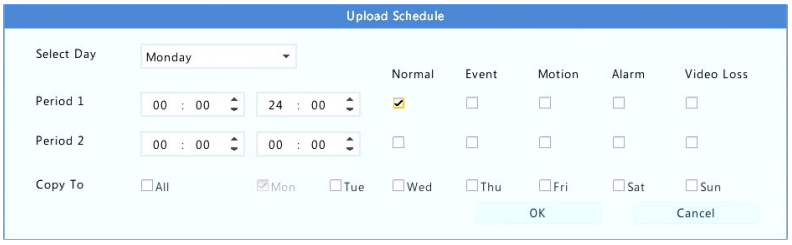


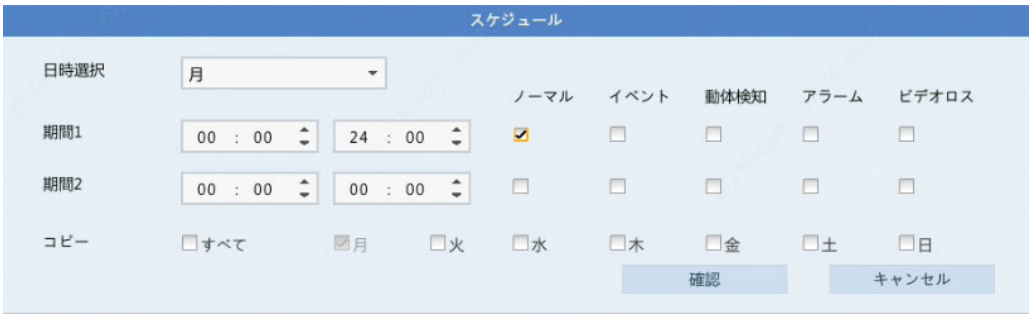
(2) 「FTP ON」にチェックを入れ、FTP サーバーの IP アドレス、ユーザ名とパスワードを入力して、リモートディレクトリと画像アップの間隔を設定します。

説明：

- <テスト>をクリックすると、FTP 接続が成功したかを確認します。
- リモートディレクトリが NULL である場合、システムは直接に IP、時間とチャネルによって異なるフォルダを作成します。フォーマット（abc/efg/xyz）によってリモートディレクトリを入力すると、システムは FTP ルートディレクトリの下にそれぞれ名称と対応しているフォルダを作成して、そして IP、时间、チャネルによって異なるフォルダを作成します。

(3) アップロード必要がある画像を選択して、アップロード計画ボタンをクリックして、「アップロード計画」画面に遷移します。当該チャネルのアップロード必要がある画像の時間とタイプを設定します。





説明：

- イベントタイプの画像をアップロードする場合、カット計画を ON にする同時に、当該イベントのアラーム連動カットを設定する必要があります。
- その他の日のアップロード計画が同じであれば、「曜日にコピー」チェックボックスに対応の時間にチェックを入れます。

(4) <適用>をクリックして、設定を完成します。

説明：

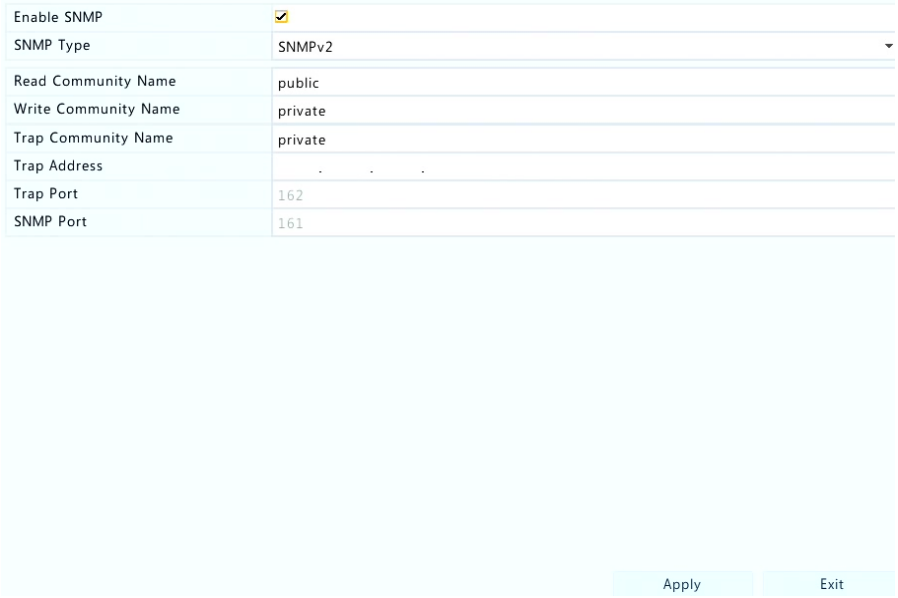
その他のチャネルの設定が同じであれば、チャネルへコピーボタンをクリックして、対応のチャネルにチェックを入れます。

11.10 SNMP

ユーザは SNMP プロトコルを利用して、上レベルプラットフォームと接続して、システム時間を取得することができます。

操作手順：

(1) [メインメニュー>システム設定>ネット設定]を選択して、“SNMP”画面に遷移します。“SNMP　ON”にチェックを入れます。



(2) SNMP タイプの選択。

- Snmp V2

共同体名称の読み・書きを設定して、プラットフォームの NVR データ読み込み用に使用します。

- Snmp V3

認証パスワード、暗号化パスワードを設定します。認証パスワードはプラットフォームで NVR アクセスの時使用され、暗号化パスワードが NVR からプラットフォームへ発信しているデータを暗号化します。

(3) <適用>をクリックして、設定完成になります。

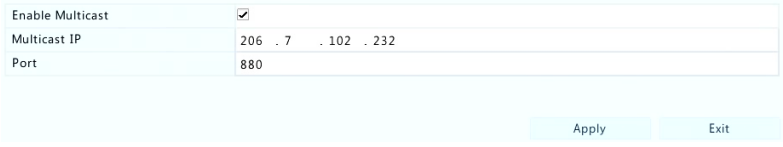
11.11 マルチキャスト

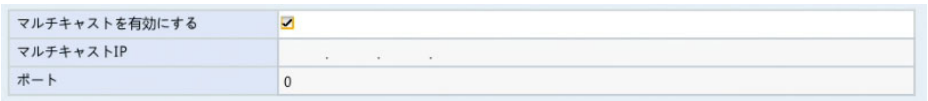
web クライアントで NVR にアクセスします。設備のアクセス上限を超過する場合、録画画面がプレビューできません。その時、設備のマルチキャスト IP を設定して、マルチキャストプロトコルの方法で解決します。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>インターネット設定]を選択して、「マルチキャスト」画面に遷移します。

(2) マルチキャストを ON にして、マルチキャストアドレスとポートを入力します。





(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

(4) Web で NVR にログインします。[設定>クライアント設定]を選択して、リアルタイムライブビュープロトコルを「マルチキャスト」と変更します。その時、マルチキャスト形式で録画画面がプレビューできます。

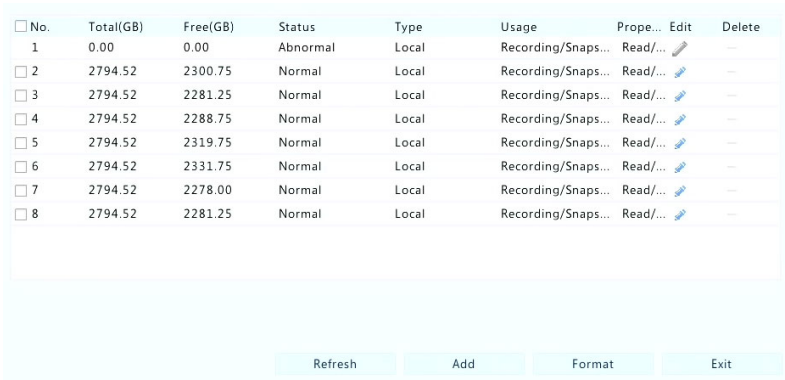
12 ハードディスク設定

12.1 ハードディスク管理

ハードディスクに関連する操作を行なう前に、ハードディスクが正しくインストールされていることを確保してください。admin ユーザーのみはハードディスクのフォーマットや属性設定を行なうことができます。

操作手順は下記の通り：：

(1) [メインメニュー>メモリ設定>ハードディスク管理]を選択して、「ハードディスク管理」画面に遷移します。

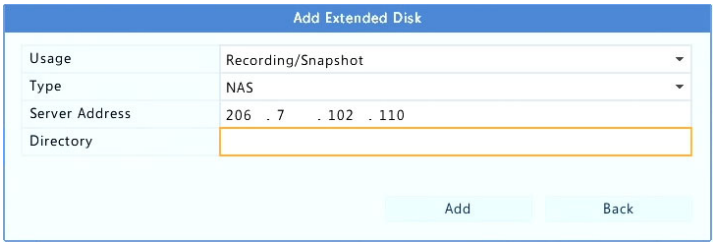


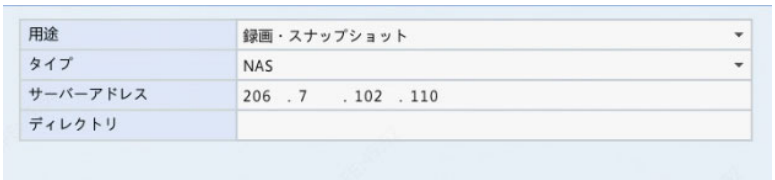


(2) ハードディスク管理。

- 拡張ハードディスクの追加

<追加>をクリックすると、次の画面に遷移します。用途（録画/スナップ、バックアップ）及び種別（現在は NAS しか対応できず、最大 8 つの NAS ディスクを追加することができます）を選び、サーバーアドレスとディレクトリを入力して、拡張ハードディスクの追加は完了します。





- フォーマット

ローカルハードディスク：ハードディスクにチェックを入れ、<フォーマット>をクリックすると、システム情報がポップアップ表示され、<はい>をクリックします。

外接ハードディスク：ハードディスクにチェックを入れ、<フォーマット>をクリックすると、システム情報がポップアップ表示され、フォーマットファイルを選択します。

説明：

- ローカルハードディスクをインストールすると、自動フォーマット機能に対応します。拡張ハードディスクは自動フォーマット機能に対応しません。
- フォーマットはハードディスク上のすべてのデータを削除しますから、設備の通常使用中、操作にご注意ください。

- ハードディスクの編集

ハードディスクにチェックを入れ、をクリックすると、ハードディスク用途（録画/スナップ、バックアップ）、属性（読み書き、読み出し専用、冗長性）を選択します。

説明：

- 録画/スナップ用途のハードディスクだけは属性設定に対応します。
- 一部の設備のみはハードディスク冗長性属性に対応します。
- 外部の eSATA ディスクは同様に「録画/スナップ」又は「バックアップ」用途を選び、アンロード機能に対応します。eSATA ディスクと NAS ディスクともに、アレイ作成に対応しません。

12.2 アレイ設定

説明：

- 一部の設備のみは RAID（Redundant Arrays of Independent Disks、独立した複数のディスクの冗長性配列）設定に対応します。RAID でディスクの読み書き効率とデータの安全性を向上させることができます。
- 現在対応しているアレイ種別は RAID0、RAID1、RAID5、RAID6、RAID10、RAID50 和 RAID60 が挙げられます。

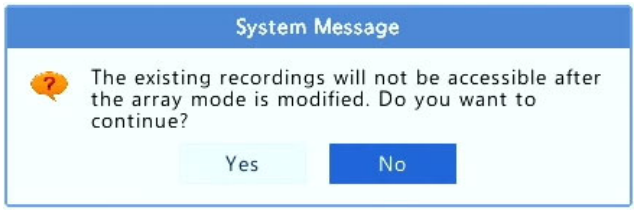
アレイ種別	ハードディスク数
RAID0	2～8つ
RAID1	2つ
RAID5	3～8つ
RAID6	4～8つ
RAID10	4～16つ、かつ2の倍数
RAID50	6～16つ
RAID60	8～16つ

アレイ設定を行なう前に、RAID モードを ON に設定しておきます。

操作手順は下記の通り。

(1) [メインメニュー>メモリ設定>アレイ設定]を選択して、「アレイ設定」画面に遷移します。

(2) 「RAID モード ON」にチェックを入れると、システム情報がポップアップ表示され、<はい>を選択して、操作は完了します。

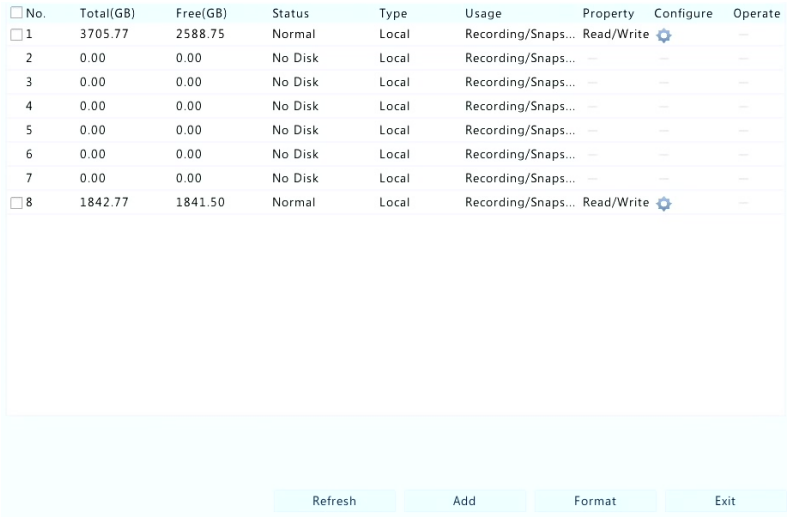


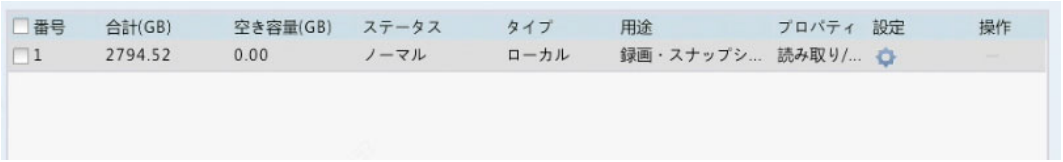
12.2.2 アレイ作成

1. ワンキー作成

ワンキー設定によって、設備はアレイの快速作成を行なうことができます。
操作手順は下記の通り。

(1) [メインメニュー>メモリ設定>アレイ設定]を選択して、「物理ディスク」タブに遷移します。





(2) <ワンキー設定>をクリックして、システムは自動的にアレイ作成を完了させます。

説明：

- ワンキー設定のとき、ディスク番号にチェックを入れず、システムは自動的にすべての使用可ディスを認識します。
- 使用可ディスの総数が 2 のとき、システムは自動的に RAID1 アレイとして作成します。
- 使用可ディスの総数が 3 以上のとき、システムは自動的に RAID5 アレイとして作成します。４つ以上の使用可ディスがある場合、システムは自動的にグローバルホットバックアップディスクを作成します。
- ワンキー設定のアレイ名のデフォルトフォーマットは ARRAYX であり、例えば ARRAY1、ARRAY2。

2. 手動作成

説明：

- ハードディスク資源の浪費を回避するために、手動でアレイを作成するとき、すべてのハードディスクをカバーしてください。
- 手動でアレイを作成するとき、自動的にホットバックアップディスクを生成しません。アレイの再作成の成功及びシステムの安定運転を確保するために、ホットバックアップディスクを設定してください。

ユーザーは、手動操作で必要なアレイを作成することができ、RAID5 の作成を例として操作手順を説明します。

(1) [メインメニュー>メモリ設定>アレイ設定]を選択して、「物理ディスク」タブに遷移します。

(2) ディスク番号にチェックを入れ、<手動作成>をクリックして、「アレイ作成」画面に遷移し、アレイ名のカスタムを行ない、アレイ種別とローカルディスクを選択します。

(3) <決定>をクリックして、手動作成は完了します。

12.2.3 アレイ再作成

アレイの状態は主に通常、衰退、損壊、再作成の 4 種類があり、アレイ状態のチェックによってディスクを直ちにメンテナンスを行ない、ディスクアレイの優位を発揮し、データ記録の安全性と信頼性の確保を目指します。

説明：

タイムリーにアレイの衰退や損壊を発見するために、[メインメニュー>アラーム設定>異常設定]を選択して、アレイ衰退、アレイ損壊に対してアラーム及び連動設定を行います。

アレイに物理ディスクの紛失が発生しない場合、その動作状態は通常、物理ディスクの紛失数がこの類のアレイの許可限度を超えた場合、アレイの動作状態は損壊、両者の間にある場合、アレイ状態は衰退とします。アレイが衰退状態にあるとき、アレイ再作成機能によって、通常状態まで回復させることが可能です。

説明：

4 つのディスクから構成された RAID5 アレイを例として説明すれば、1 つのハードディスクが紛失した場合、アレイ状態は「衰退」へ変わり、2 つのハードディスクが紛失した場合、アレイ状態は「損壊」とします。

1. 自動再作成

アレイが衰退状態にあるとき、10 分後システムは自動的にアレイ再作成を行ない、ホットバックアップディスクをアレイ再作成に利用し、アレイの安全保証を目指します。

自動再作成条件：

- アレイ状態は衰退です。

- アレイにホットバックアップディスクがあり、かつホットバックアップディスクの容量がアレイの最小ディスクの容量以上とします。

2. 手動再作成

ハードディスクが損壊し、かつシステムにホットバックアップディスクがない場合、アレイは自動的に再作成できず、アレイを通常状態まで回復させるよう、ユーザーの手動再作成を必要とします。

操作手順：

(1) [メインメニュー>メモリ設定>アレイ設定]を選択して、「アレイ」タブに遷移します。

(2) 再作成するアレイを選び、再作成ボタン をクリックすると、アレイ再作成画面に遷移します。

(3) ローカルディスクを選び、<決定>をクリックして、手動再作成は完了します。

説明：

ローカルディスクはデフォルトで、要求を満たす 1 番目のハードディスクにチェックを入れます。

12.2.4 アレイ削除

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>メモリ設定>アレイ設定]を選択して、「アレイ」タブに遷移します。

(2) 削除するアレイを選び、削除ボタン をクリックすると、システム情報がポップアップ表示されます。<はい>を選択して、削除完了とします。

注意：

アレイを削除すると、ディスク上のすべてのデータが紛失しますから、操作にご注意ください。

12.3 パック設定

ハードディスクのグループ分けによって、指定チャネルを指定パックに書き込み、IPC の異なる記録期間の必要に対応することができます。それぞれのアレイを対応するパックに区分します。

注意：

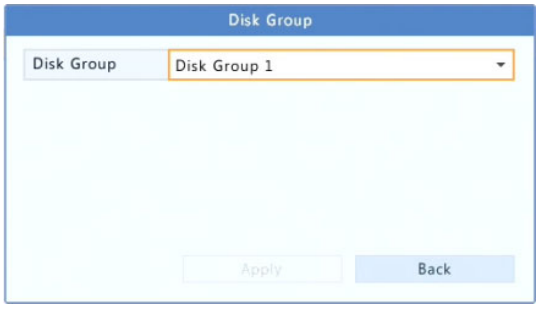
- 冗長として設定されたハードディスクは、パック設定を行わりません。
- フォーマットハードディスクはパック情報の初期化につながります。

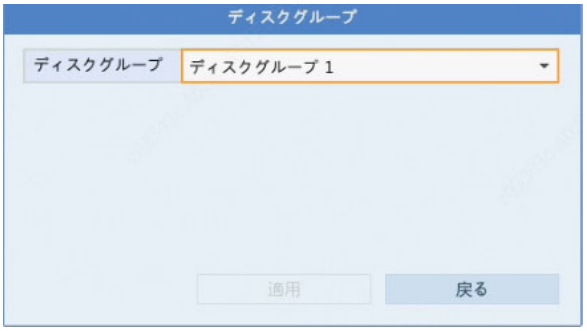
操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>メモリ設定>パック設定]を選択して、「パック設定」画面に遷移します。



(2) 「パックモード ON」にチェックを入れ（デフォルトですべてのハードディスクの属するパック 1）、ボタンをクリックすると、ハードディスクの属するパックを選択します。





(3) <決定>をクリックして、設定完了とします。

12.4 容量設定

(1) [メインメニュー>メモリ設定>容量設定]を選択して、「容量設定」画面に遷移します。

(2) チャネルとパック、配布録画、画像容量を選択します。

(3) <適用>をクリックして、設定完了とします。

説明：

- その他のチャネルの設定が同じな場合、<コピー>ボタンをクリックすると、対応するチャネルにチェックを入れます。
- **パックモードの場合のみ、指定チャネルを指定パックに書き込み、IPC の異なる記録期間の必要に対応することができます。**

12.5 高級設定

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>メモリ設定>高級設定]を選択して、「高級設定」画面に遷移します。



(2) 空き容量がなくなったときの策略種別を選択します。

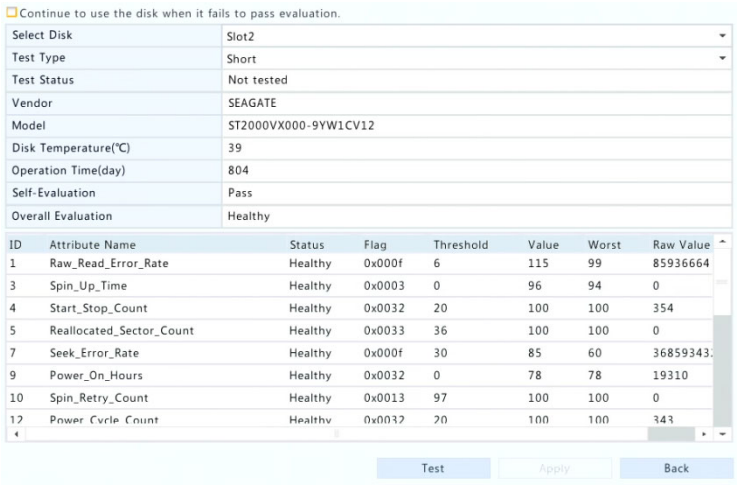
- 上書き：
  - あるチャネルの分配容量が 0 のとき、ハードディスクの残り容量を共有し、ファイル記録がいっぱいになったとき、残り容量を上書き保存します。
  - あるチャネルの分配容量が 0 ではないとき、ファイル記録がいっぱいになったとき、分配される容量を上書き保存します。
- 中止：この策略は分配容量が 0 ではないチャネルのみを対象とし（分配容量が 0 のチャネルは上書き保存に対応します）、ファイル記録が分配容量に達したとき、録画やスナップを中止させます。

(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

12.6 ハードディスク検収

12.6.1 S.M.A.R.T.検収

S.M.A.R.T.検収技術はヘッド、ディスク、モーター、回路などの検収を行ない、直ちにハードディスクの健康状態の分析・評価を行なうことができます。一部のハードディスクは検収に対応しないおそれがあります。





注意：

ハードディスクが自己評価に合格しないとき、引き続きハードディスクを使用すると大きなリスクがあるので、慎重に選択してください。

説明：

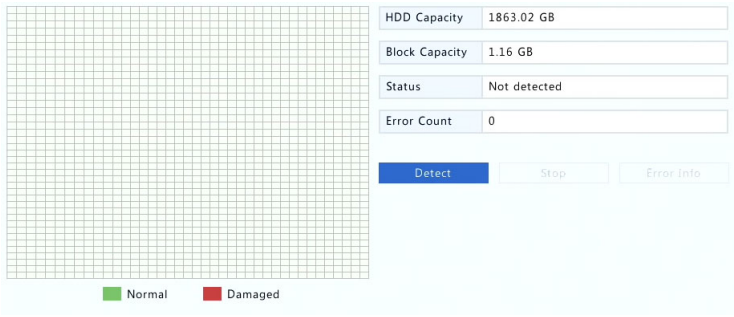
- 自己評価の種別として、簡単型、拡張型と伝送型に分けられます。簡単型検収の内容が少なく、速度が速いです。拡張型検収はもっと全面的で徹底的、時間も長くなります。伝送型は主に検収データ伝送ときの問題です。
- 全体評価の状態として、「健康状況が良い」、「故障」及び「不良セクタに保存」という 3 種類があります。「故障」の場合は、ハードディスクを交換すると望ましいですが、詳細は当社の技術サポートに連絡してください。

12.6.2 不良セクタ検収

設備システムは読み出し専用の方式で、ハードディスクに存在している不良セクタを検収します。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システムメンテナンス>ハードディスク検収]を選択して、「不良セクタ検収」画面に遷移します。





(2) ディスク位置と検収方式を選択して、<検収開始>をクリックすると、現在のハードディスクの不良セクタ検収を行います。<検収中止>をクリックすると、現在のハードディスクの検収を中止させます。

注意：
不良セクタ検収エラーが 100 となったとき、自動的に検収を中止させます。

13 システム設定

13.1 基本設定

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>基本設定]を選択して、「基本設定」画面に遷移します。

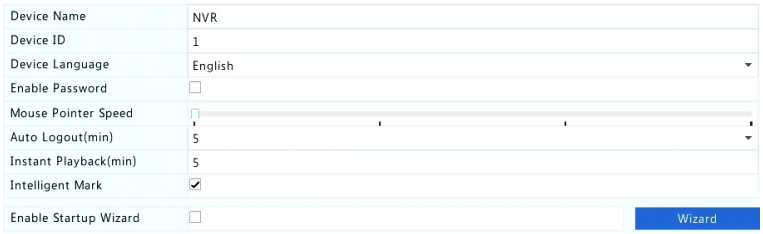
(2) 基本パラメータの設定を行います。

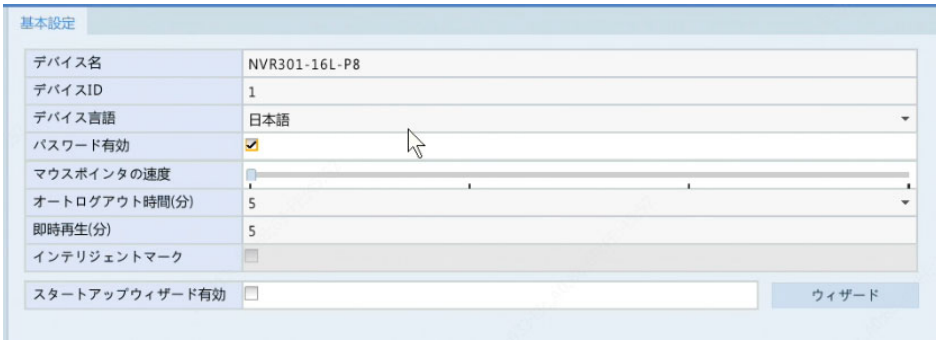
- Admin ユーザのみは「操作パスワード ON」を設定することができます。「操作パスワード ON」にチェックを入れないと、ローカル画面にログインするとき、パスワードを入力する必要がありません。しかし、システムがログオフされたときに、メニューへ再進入するには、ユーザー名とパスワードの検証を必要とします。
- 一部の NVR は「スマートマーク」機能に対応し、NVR と IPC のスマートマークともに ON にすると、顔/エリア/クロースラインアラームとして設定されたエリア/線及びスマートデータのリアルタイムな変化状況は、実況プレビュー/行為検査/アラーム設定画面に表示されます。

説明：

スマートマークは色の異なるエリア/線として表示され、そのうち、黄色は顔/区域/クロースラインに設定されたエリア/線、緑は規則がトリガーされず、スマートデータに変化があり、赤は当該エリアのデータが規則をトリガーして（ポインターはスマートアラームの設定規則へ指す）、スマートアラームが生じたことを示します。

-
- <スタートガイド>をクリックして、直接メインメニュー画面にてガイドを設定することができます。





(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

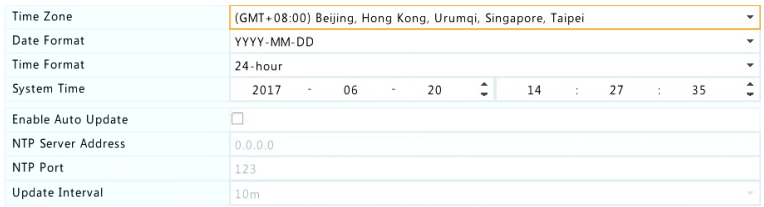
13.2 日時設定

13.2.1 日時設定

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>日時設定]を選択して、「日時設定」タブに遷移します。

(2) タイムゾーンと日付、日時フォーマットを選び、手動でシステム日時の設定を行います。また、自動更新を ON にして、NTP サーバーアドレス、ポート及び更新間隔を設定することも可能です。





(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

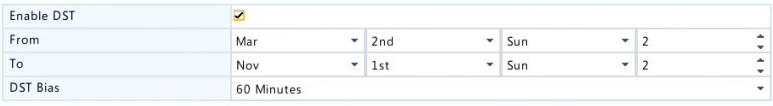
13.2.2 日時の同期化

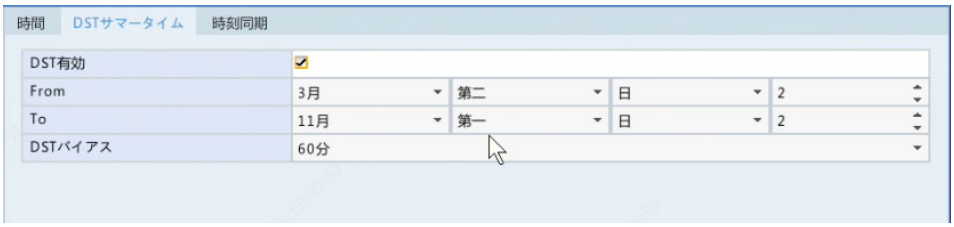
実際の適用では、1 台のカメラが複数の NVR に管理される可能性があるので、NVR のカメラ日時の同期化は日時の不一致につながり、録画記録の混乱を招くおそれがあります。この場合、手動で日時の同期化機能を OOF にします。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>日時設定]を選択して、「日時の同期化」タブに遷移します。

(2) 「カメラ日時の同期化」の要否にチェックを入れます（デフォルトでチェックを入れます）。





(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

説明：

- カメラは初回オンラインになるとき、日時が同期化されます。
- 日時の同期化を ON にすると、30 分ごとに日時の同期化を行います。

13.3 取引設定

当該機能はスーパーのレジと接続しているシーンに適用します。設定完成後、NVR 設備はレジから関連情報を取得し、且つテキストの形式でチャネルの監視画面に重ね合せます。

説明：

一部の設備だけ本機能をサポートします。

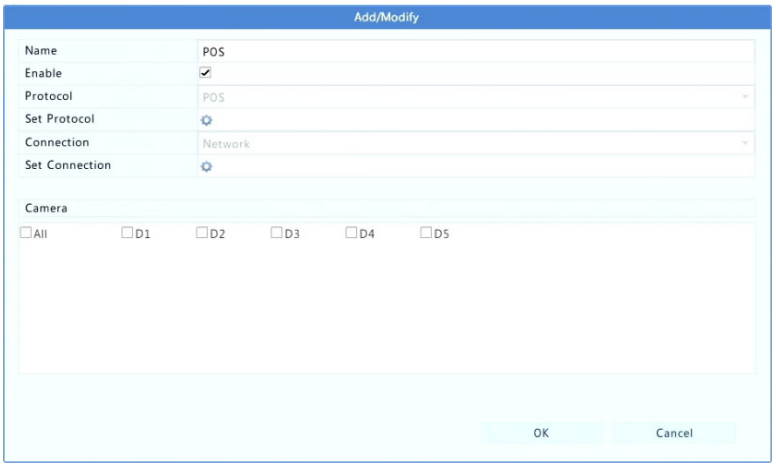
操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>取引設定]を設定して、“取引設定”画面に遷移します。

(2) <追加>をクリックして、下記の画面に遷移します。POS 名称（重複できません）を入力して、起動にチェックを入れて、プロトコルと接続方式を設定します。重ね合せ POS データのチャネル（１つのチャネルは同時に一回しか重ね合せできません）を選択して、<決定>をクリックして、取引設定画面に戻します。

説明:

- **プロトコル設定の際、開始文字、停止文字、改行文字に入力したのは 16 進法値です。表示できない文字は文字列の形式で、無視します。**
- **接続方式設定の際、ソースアドレスは POS 設備の IP アドレスです。目的地アドレスは最終に POS データを受信している決算センターの IP アドレスです。目的地アドレスは NULL であれば、NVR が POS データを転送する必要がありません。**



(3) [メインメニュー>システム設定>取引設定]を選択して、“POS 表示設定”画面に遷移します。POS データの表示位置、フォント及び色を設定します。

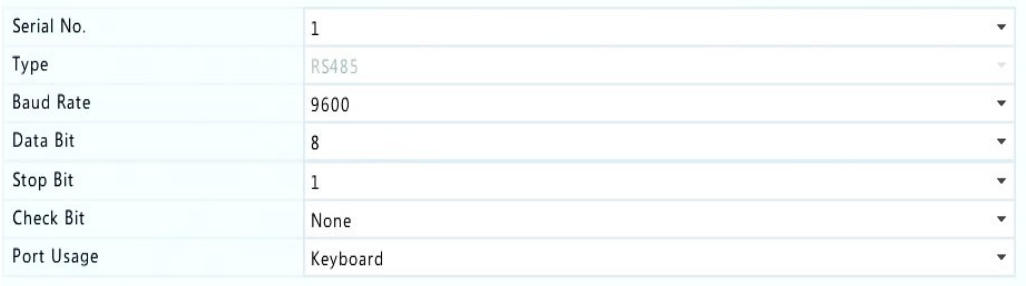
13.4 シリアルポート設定

シリアルポートパラメータは、その接続されたシリアル設備と一致しなければなりません。パンチルト制御のとき、シリアルポートパラメータ設定を必要とします。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>シリアルポート設定]を選択して、「シリアルポート設定」画面に遷移します。

(2) シリアルポートパラメータ設定を行います。



説明：

キーボード制御用シリアルポートモードを選び、外部キーボードによる設備操作を行なうことができます。

(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

13.5 ユーザー設定

ユーザーはシステム管理と操作の実体として、ユーザー種別は操作権限の集合です。ある種別があるユーザーに割り当てられると、このユーザーは該当種別に定義されたすべての権限を所有しています。

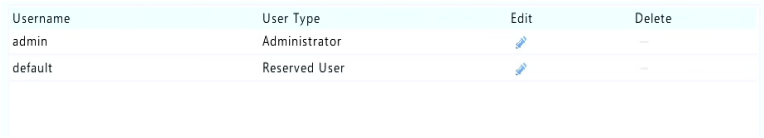
システムは４つのユーザー種別に対応しています。

- admin：システムのデフォルトなスーパー管理者として、すべての権限を持ち、デフォルトな初期パスワードは 123456 です。
- default：システムのデフォルトな保留ユーザーとして、新規追加や削除ができず、実況と会話権限のみあり、admin ユーザーしか設定できません。
- オペレーター：デフォルトで基本権限とチャネル権限のある者です。
- 一般ユーザー：デフォルトでチャネル権限のある者です。

説明：

- **admin ユーザーのみは、ユーザーの追加・削除及び他ユーザの変更権限を持っています。**
- **default ユーザーのある実況と会話権限の使用が（admin ユーザー）に禁止されるとき、ユーザーがログインしない場合、このチャネルがロックされ、対応するペインに🔒アイコンが表示されます。**

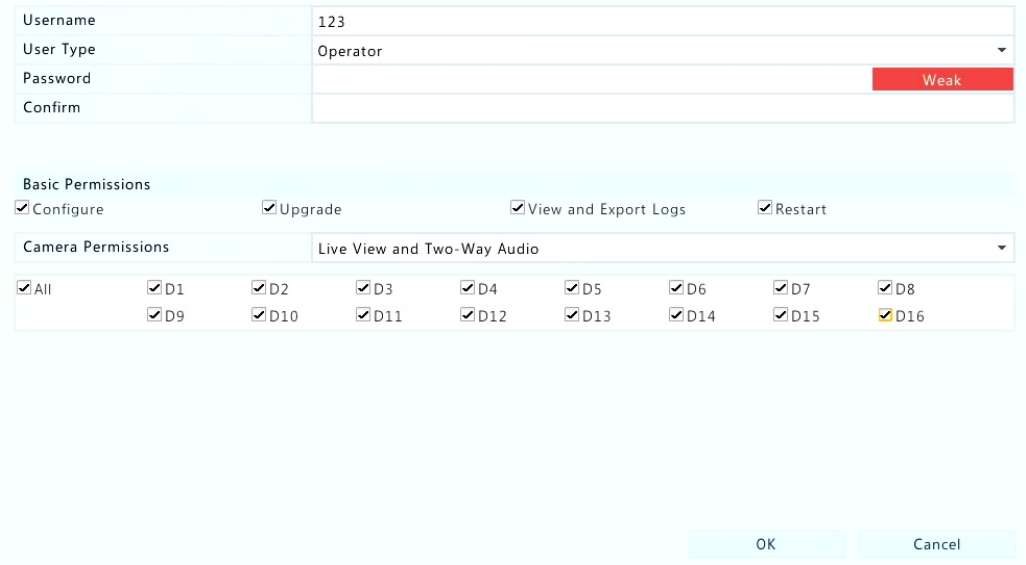
(1) [メインメニュー>システム設定>ユーザー設定]を選択して、「ユーザー設定」画面に遷移します。





(2) 様々なユーザー設定を行います。

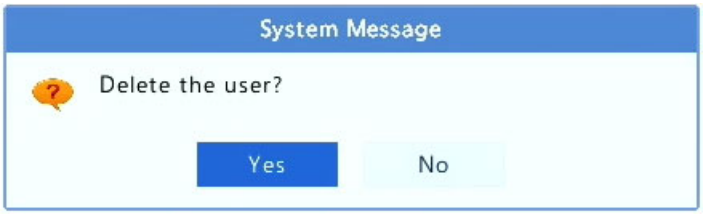
- ユーザーの追加
  a. <追加>をクリックして、ユーザーの変更/追加画面に遷移します。
  b. ユーザー名（空白と中国語を禁止とします）、パスワードを入力し、ユーザー種別とユーザー権限を選びます。
  c. <決定>をクリックして、設定を完成します。





- ユーザーの削除

削除ボタンをクリックして、システム情報がポップアップ表示され、「はい」を選ぶと、削除操作は完了します。



- ユーザーの変更

編集ボタンをクリックすると、ユーザーの変更・追加画面へ遷移し、ユーザー種別、ユーザーパスワードや権限を変更することができます。

説明：

あるユーザーパスワードを変更した後、次回このユーザーがシステムにログインするとき、新規パスワードの入力を必要とします。

13.6 安全設定

13.6.1 IP 権限

IP 権限の設定によって、すべてのユーザーは限定された IP 内のみで設備の Web 画面にアクセスすることができ、設備の安全確保を目指します。

(1) [メインメニュー>システム設定>安全設定]を選択して、「IP 権限」画面に遷移します。



(2) 「IP 権限 ON」にチェックを入れ、権限種別を選択して、開始アドレスと終了アドレスを入力して、<追加>をクリックします。

説明：

- ブラックリストを選ぶとき、リストに表示された IP ユーザーは遠距離で設備にアクセスすることができません。
- ホワイトリストを選ぶとき、リストに表示された IP ユーザーのみは設備にアクセスすることができます。ホワイトリストが空になった場合、遠隔で設備にアクセスすることができません。

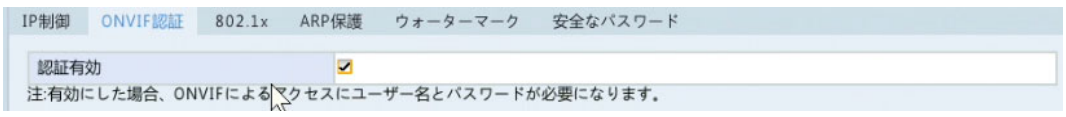
(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

13.6.2 ONVIF 認証

ONVIF 認証の設定を行ない、ONVIF プロトコールによる設備へのアクセスにユーザー名とパスワード認証を必要とします。

(1) [メインメニュー>システム設定>安全設定]を選択して、「ONVIF 認証」画面に遷移します。





(2) 「認証 ON」にチェックを入れます。

(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

13.6.3 ARP 耐攻撃

ARP 攻撃は、IP アドレスと MAC アドレスの偽りによって ARP 騙しを実現し、主に LAN に存在しています。設備の ARP 耐攻撃は、アクセス元の物理アドレスを確認し、それによって ARP 攻撃を防ぎます。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>安全設定]を選択して、「ARP 耐攻撃」画面に遷移します。

(2)



(3)

(4) ランカードを選び、ARP 耐攻撃を ON にします。

(5) 自動･手動でゲートウエイの物理アドレスを設定します。

(6) <適用>をクリックして、設定を完成します。

説明：

マルチランカード設備は作業モードを変更すると、この機能は自動的に OFF されます。

13.6.4 802.1x

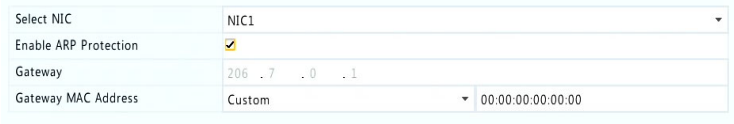
802.1x はポートに基づくネットワーク接続を制御するためのプロトコールとして、主に LAN 内の認証と安全課題の対応に利用されます。

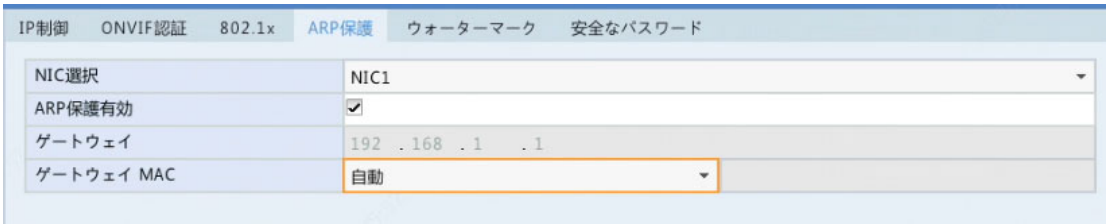
説明：

- 一部の設備のみはこの機能に対応します。
- マルチランカード設備は作業モードを変更すると、この機能は自動的に OFF されます。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>安全設定]を選択して、「802.1x」画面に遷移します。





(2) ランカードを選び、802.1x を ON にします。

(3) EAPOL バージョンを選び、サーバー認証用ユーザー名、パスワードを入力します。

(4) <適用>をクリックして、設定を完成します。

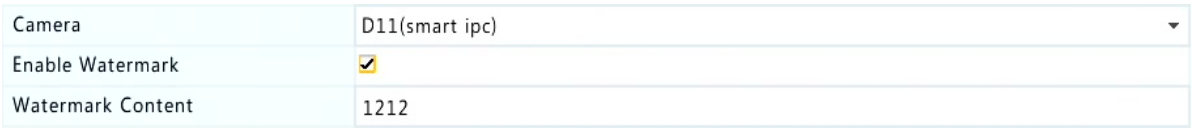
13.6.5 ビデオ透かし

ビデオ透かしによって、暗号化情報のカスタマイズを行ない、それによってビデオ情報の外部削除や変更を回避することが可能です。

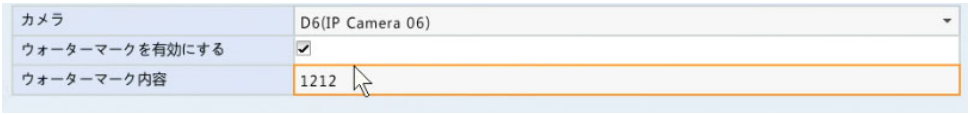
操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>安全設定]を選択して、「ビデオ透かし」画面に遷移します。

(2)



(3)



(4)

(5) チャネルを選び、ビデオ透かしを ON にします。

(6) 透かし内容を入力します。

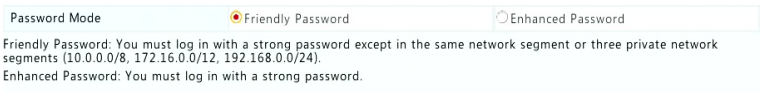
(7) <適用>をクリックして、設定を完成します。

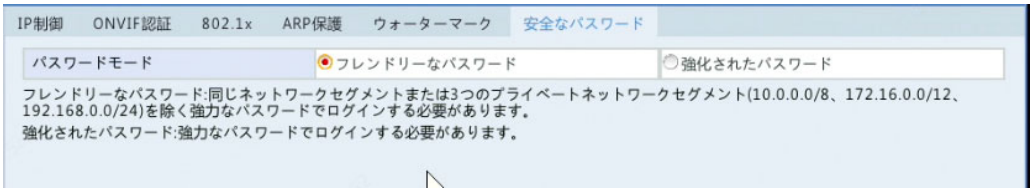
13.6.6 安全パスワード

安全パスワードは、それぞれのパスワードモードで、強い、弱いパスワードの使用権限を規定します。安全パスワードのパスワードモードとして、「友好的パスワード」及び「強化パスワード」に分けられます。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>安全設定]を選択して、「安全パスワード」画面に遷移します。





(2) 強いパスワードの ON･OFF を選択します。システムはデフォルトで友好的パスワードモードを ON にします。

- 友好的パスワード

友好モードでは、同セグメント、３つのセグメント（10.0.0.0/8、172.16.0.0/12、192.168.0.0/24）を除き、強いパスワードでログインしなければなりません。

- 強化パスワード

強化パスワードを ON にすると、ユーザーパスワードが弱いパスワードとして認識されたとき、強いパスワードへの変更を注意させます。また、新規追加されるユーザーパスワードも強いパスワードに限定されます。

説明：
admin ユーザーのみは安全パスワードを設定することができます。

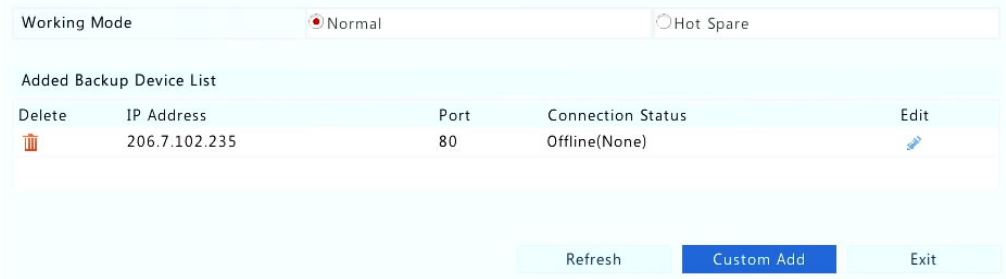
(3) <適用>をクリックして、設定を完成します。

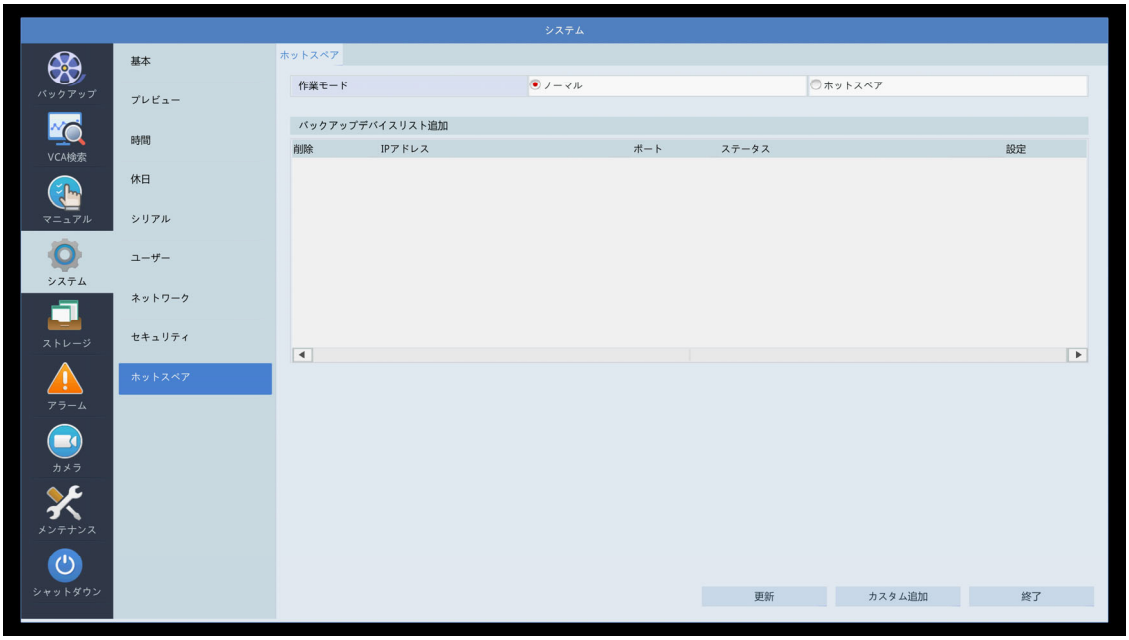
13.7 ホットバックアップ設定

一部の設備のみは N+1 ホットバックアップ機能に対応します。
動作している N 台の NVR では 1 台に故障が発生したとき、ホットバックアップ NVR はこの異常 NVR の代わりとして運転します。回復してオンラインになったら、NVR 解放業務をホットバックアップしてデータ戻りを行ない、それによってデータ記録の信頼性と連続性を確保します。
操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システム設定>ホットバックアップ設定]を選択して、「ホットバックアップ設定」画面に遷移します。

(2) 動作モードを選びます。動作モードとして通常（作業機）とホットバックアップモード（バックアップ機）に分けられ、デフォルトで通常モードとします。





- 通常モード

通常モードでは、バックアップ機のカスタムを必要とし、ホットバックアップ機能が効かないおそれがありますから。操作手順は下記のように示します。

ステップ 1　<カスタム追加>ボタンをクリックします。
ステップ 2　設備追加の関連情報を入力し（ユーザー名は admin と固定する）、<追加>をクリックすると、設定完了とします。

- ホットバックアップモード

動作モードはホットバックアップモードのとき、リストにマシンを追加している作業機がすべて表示されます。

説明：
- 動作モードの切替に設備の再起動を必要とし、再起動後、設備の一部のパラメータ及び画面は変わります。
- 複数の設備が同時に故障が発生した場合には、1 台の設備だけはバックアップを行ない、その他はバックアップ待ちとします。
- 作業機からバックアップ機に切り替えたとき、一部の機能は裁断され、一部のパラメータはデフォルト値に回復します。

14 システムメンテナンス

14.1 システム情報

[メインメニュー>システムメンテナンス>システム情報]で、その後のメンテナンスのため、現在設備の基本情報を確認することができます。

1. システム情報

[システム情報]タブから、設備の型番、製品のバーコード、ソフトバージョン及びその発布時間、設備動作時間などの情報を確認することができます。

Basic Info	
Product Model	NVR
Serial Number	210235T0E51234567890
Firmware Version	B3119P15
Build Date	2016-11-09
Operation Time	0 Day(s) 0 Hour(s) 48 Minute(s)

型番	NVR301-16L-P8
シリアルナンバー	210235C2A53166000002
ファームウェアバージョン	B3222P31C06610
ファームウェア発表日付	2018-03-19
稼動時間	0 日 5 時 22 分

2. チャネル状態

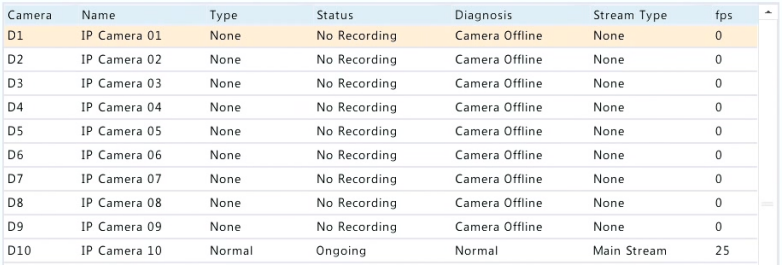
[チャネル状態]タブから、各チャネルの状態情報を確認することができます。

Camera	Name	Status	Motion	Tampering
D1	IP Camera 01	Offline(Network Disconnected)	Off	Off
D2	IP Camera 02	Offline(Network Disconnected)	Off	Off
D3	IP Camera 03	Offline(Network Disconnected)	Off	Off
D4	IP Camera 04	Offline(Network Disconnected)	Off	Off
D5	IP Camera 05	Offline(Network Disconnected)	Off	Off
D6	IP Camera 06	Offline(Network Disconnected)	Off	Off



3. 録画状態

[録画状態]タブから、各チャネルの録画状態及びコーディングパラメータを確認することができます。

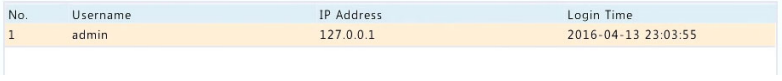


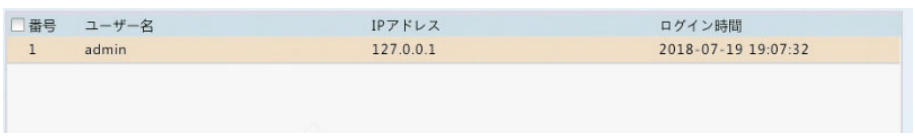


4. オンラインユーザー

[オンラインユーザー]タブから、この設備にログインしているユーザー情報を確認することができます。

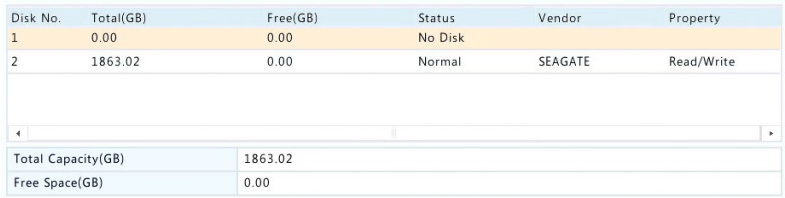
admin ユーザーは強制的にその他ユーザーをオフラインさせることができます。

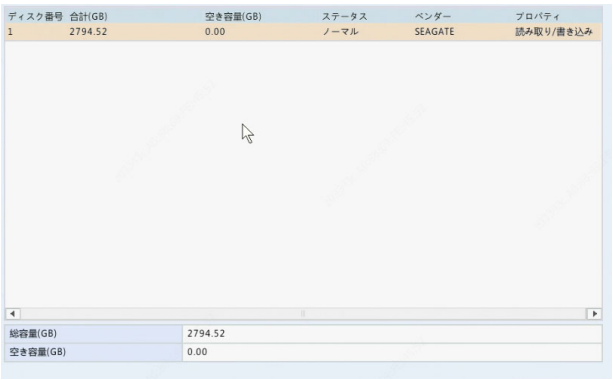




5. ハードディスク状態

[ハードディスク状態]タブから、この設備に接続されたハードディスク状態や属性などの情報を確認することができます。





6. デコーダーカード状態

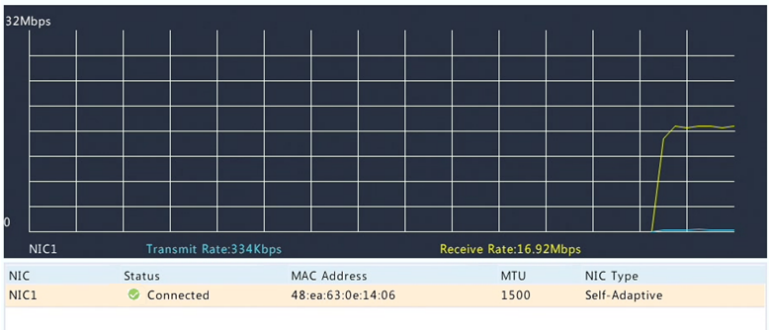
[デコーダーカード状態]タブから、デコーダーカードの状態情報を確認することができます。

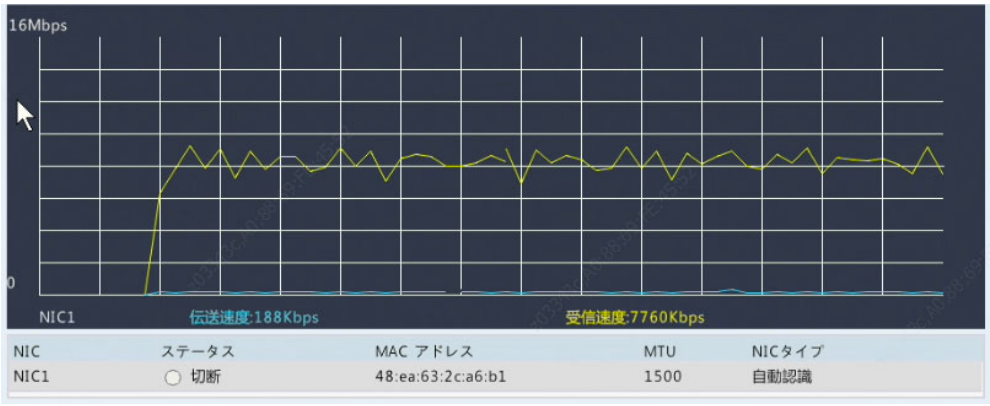
説明：
一部の設備のみは当該機能に対応します。

14.2 ネットワーク情報

14.2.1 ネットワーク通信速度

[メインメニュー>システムメンテナンス>ネットワーク情報]で、「ネットワーク通信速度」画面に遷移します。ネットワーク通信速度の監視によって、リアルタイムに設備ランカード通信速度、MTU など有効情報を取得することができます。





14.2.2 ネットワーク検収

1. ネットワーク遅延、パケットロス試験

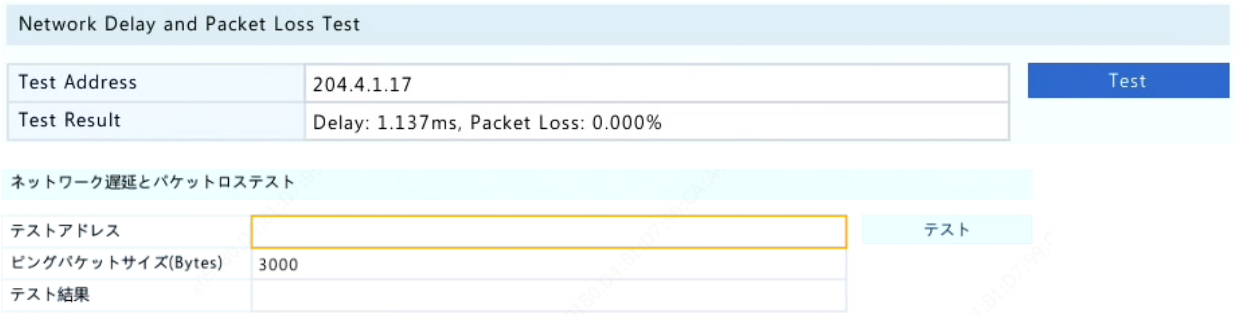
(1) [メインメニュー>システムメンテナンス>ネットワーク情報]で、「ネットワーク検収」画面に遷移します。

(2) 試験アドレスを入力し、<試験>をクリックすると、ネットワーク遅延とパケットロス試験を行います。

説明：

システムのデフォルトな試験パケットのサイズは 3000 バイトで、実際のネットワーク環境によって調整することができます。

- 試験に成功した場合、試験ドメイン名との接続に成功した結果を表示し、平均遅延とパケットロス率を含みます。
- 試験に失敗した場合、「目標アドレスに届かないです」結果が表示されます。



2. ネットワークパケットキャプチャ、バックアップ

(1) [メインメニュー>システムメンテナンス>ネットワーク情報]で、「ネットワーク検収」画面に遷移します。

(2) バックアップする USB 設備を選び、パケットキャプチャのポート及び IP を指定します。

(3) ランカードを選び、右側のをクリックすると、パケットキャプチャを行います。<パケットキャプチャのチェック>をクリックすると、バックアップ設備のルートディレクトリからパケットキャプチャのバックアップファイルを取得します。



説明：

- システムのデフォルトなデータパケットのサイズは 1520 バイトで、カスタム調整ができます。
- パケットキャプチャバックアップのファイル命名規則は「ランカード名称_時間.pcap」とします。
- Web 端末はパケットキャプチャを行なうとき、設備はパケットキャプチャ操作を行なうことができません。
- UNP クライアント、PPPoE、3G/4G ダイヤルに成功した後、ランカードリストに対応する仮想ランカードが追加され、このランカードのパケットキャプチャ操作もできます。

14.2.3 ネットワーク状態

[ネットワーク状態]タブから、設備の様々なネットワークパラメータを確認することができます。



Type	Bandwidth
IP Camera	17Mbps
Remote Live View	17Mbps
Remote Playback	0bps
Idle Receive Bandwidth	143Mbps
Idle Send Bandwidth	303Mbps

タイプ	帯域
IPカメラ	10Mbps
リモートライブビュー	0bps
リモート再生	0bps
受信帯域	50Mbps
送信帯域	80Mbps

14.2.4 3G/4G ネットワーク状態

[メインメニュー>システムメンテナンス>ネットワーク情報]を選択して、「3G/4G ネットワーク状態」画面に遷移します。3G/4G ランカードのネットワークパラメータを確認することができます。

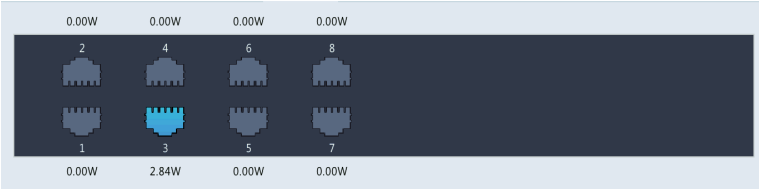
3G/4G	Off
IPv4 Address	0.0.0.0
IPv4 Subnet Mask	0.0.0.0
IPv4 Default Gateway	0.0.0.0
Preferred DNS Server	0.0.0.0
Alternate DNS Server	0.0.0.0

3G/4G	OFF
IPv4アドレス	0.0.0.0
IPv4サブネットマスク	0.0.0.0
IPv4デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
優先DNSサーバー	0.0.0.0
代替DNSサーバー	0.0.0.0

14.2.5 PoE/交換ネットワークインターフェース状態

説明：
PoE 又は交換ネットワークインターフェース設備のみは、この状態タブに対応します。

[メインメニュー>システムメンテナンス>ネットワーク情報]を選択して、「PoE/交換ネットワークインターフェース状態」画面に遷移します。PoE/交換ネットワークインターフェースの接続状態を確認することができます（下図のように、ネットワークインターフェース 3 は青色で、使用されていることを示します）。PoE 設備は電力情報も確認できます。





14.2.6 ネットワーク資源統計

[メインメニュー>システムメンテナンス>ネットワーク情報]で、「ネットワーク資源統計」画面に遷移します。設備の帯域幅の使用状況を確認することができます。

Type	Bandwidth
IP Camera	15Mbps
Remote Live View	0bps
Remote Playback	0bps
Idle Receive Bandwidth	145Mbps
Idle Send Bandwidth	96Mbps

タイプ	帯域
IPカメラ	10Mbps
リモートライブビュー	0bps
リモート再生	0bps
受信帯域	50Mbps
送信帯域	80Mbps

説明：

- ネットワーク受信の残留帯域幅が足りない場合、IP 設備の接続不可につながる恐れがあります。
- ネットワーク送信の残留帯域幅が足りない場合、NVR 設備は遠隔リアルタイムライブビュー、再生とダウンロード不可につながる恐れがあります。

14.3 ログ検索

ログは、ユーザーの歴史操作及び設備状態を記録し、ログから設備の使用状態を検索することができます。また、ログからアラーム情報の詳細を確認することもできます。

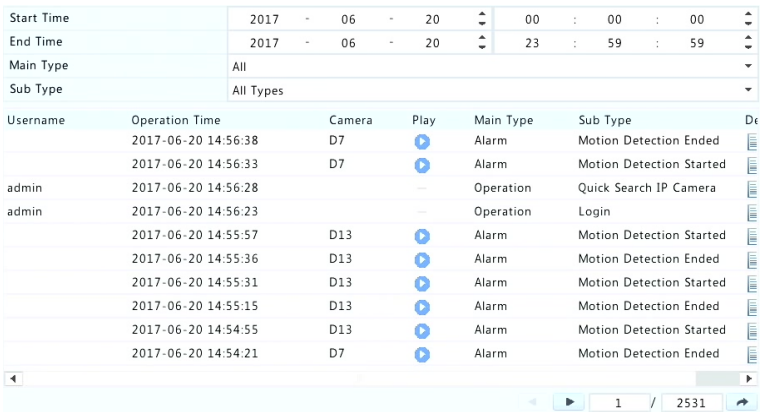
(1) [メインメニュー>システムメンテナンス>ログ検索]を選択して、「ログ検索」画面に遷移します。

(2) ログ検索条件を設定します。

開始時刻、ログのメイン種別、ログのサブ種別を設定します。

(3) 検索ログ。

<検索>をクリックすると、条件に合致するログ情報が表示されます。





(4) ログ再生

現在のログ時刻の録画をチェックするには、▶ボタンをクリックしてください。

説明：

- 一部のログはログ再生功能に対応していないので、実際の画面をご確認ください。
- ログ再生時刻は警報アラーム前の 1 分、警報アラーム後の 10 分とします。

(5) ログバックアップ

ログ情報のエクスポートを必要とする場合、<ログバックアップ>ボタンをクリックして、バックアップフォーマットを選び、<バックアップ>ボタンをクリックすると、ログ情報がメモリ設備にバックアップされます。

14.4 システムバックアップ

1. システムバックアップ

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システムメンテナンス>システムバックアップ]を選択して、「システムバックアップ」画面に遷移します。

(2) 各類の設定操作を行います。

- 設定情報のエクスポートを必要とする場合、<設定エクスポート>をクリックすると、エクスポート操作を行います。しばらく後、この目録に*.xml ファイルが生成されると、設定エクスポート操作は完了します。
- 設定情報のインポートを必要とする場合、目録リストにて目録をダブルクリックすると、*.xml のファイルが選定されます。<設定インポート>をクリックすると、決定後この設定ファイルがインポートされます。

注意：

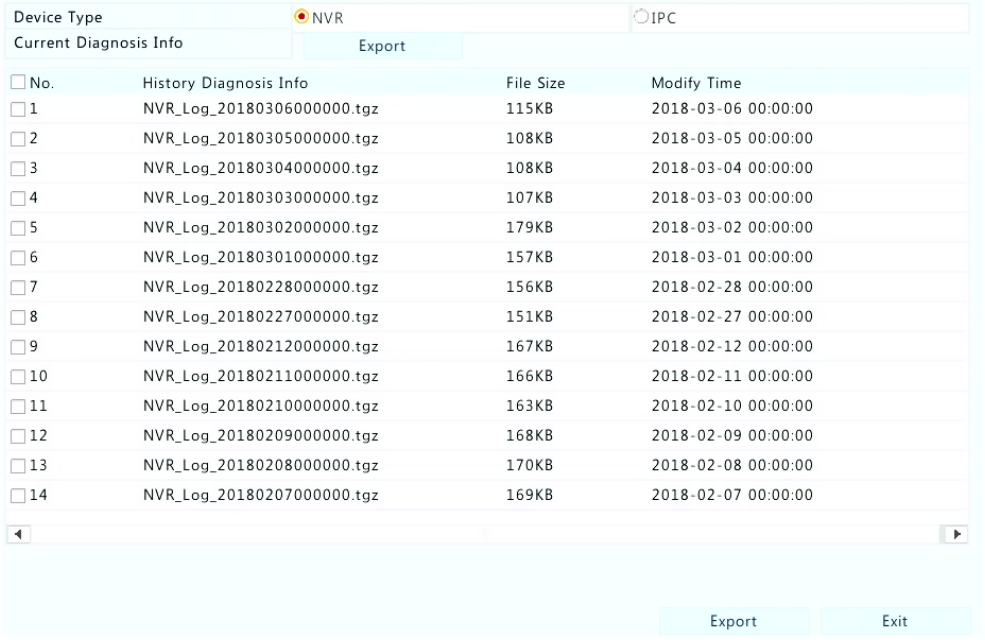
- 削除されたファイルは二度と回復できないので、操作に注意してください。
- admin ユーザーのみは、診断情報のエクスポート、設定インポート及び設定エクスポート操作を行なうことができます。

2. 診断情報

設備は 14 日の診断情報を保存することができ、空き容量がなくなった時、一番早い情報を上書き保存し、順次類推します。

操作手順：

(1) [メインメニュー>システムメンテナンス>システムバックアップ]をクリックして、「診断情報」画面に遷移します。





(2) 設備タイプの選択。

- NVR

- NVR の歴史診断情報は、毎日の 00:00 に作成します。エクスポートの必要がある場合、<バックアップ>をクリックします；今の診断情報をエクスポートの必要があれば、<エクスポート>をクリックしてください。
- IPC
- IPC の歴史診断情報は、毎日の 00:05 に作成します。バックアップ必要があるチャネルを選択して、診断情報をエクスポートする場合、<バックアップ>をクリックします；今の診断情報をエクスポートの必要があれば、<エクスポート>をクリックしてください。

説明：

- IPC 診断情報はチャネルにより分けています。即ち、同一 IPC が異なるチャネルに加入した場合、各チャネルにて当該 IPC d 診断情報を記録します。

-

14.5 システム回復

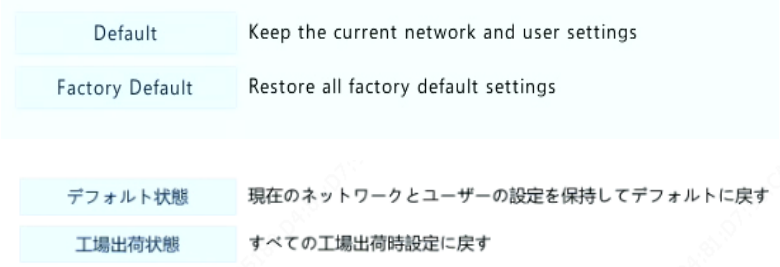
デフォルト設定の回復は簡単回復と完全回復に分けられます。

- 簡単回復：ネットワークパラメータ、ユーザーパラメータ及び日時パラメータを除くその他のパラメータをすべてデフォルト設定に回復します。
- 完全回復：すべてのパラメータをデフォルト設定に回復します。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システムメンテナンス>システム回復]を選択して、「システム回復」画面に遷移します。

(2) デフォルト設定に回復します。実際の必要によって、<簡単回復>又は<完全回復>をクリックして、ダイアログにて<決定>を選ぶと、設備は再起動してデフォルト設定に回復します。



説明：

簡単回復や完全回復後、録画と操作ログが削除されません。

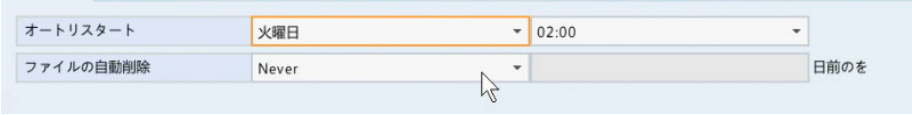
14.6 自動メンテナンス

admin ユーザーのみは、自動メンテナンス操作を行なうことができます。

(1) [メインメニュー>システムメンテナンス>自動メンテナンス]を選択して、「自動メンテナンス」画面に遷移します。

(2) 実際の必要によって、システムの自動再起動時刻及びファイルの自動削除時刻を設定します。





注意：
自動削除されたファイルは二度と回復できないので、操作に注意してください。

14.7 システムアップグレード

設備のアップグレードは下記の 2 つの方法があり、アップグレードが完了したら、設備は再起動して最新のプログラムを採用します。

- ローカルアップグレード：USB メモリ設備内のアップグレードファイルによってローカルアップグレードを行います。
- クラウドアップグレード：クラウドサーバーによってオンラインアップグレードを行います。

注意：
アップグレードの際に、設備の電気やネットワークが切断されないことを確保してください。頻繁に停電する環境で設備を利用する場合、UPS を用意していてください。

1. ローカルアップグレード

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システムメンテナンス>システムアップグレード]を選択して、「ローカルアップグレード」画面に遷移します。

(2) USB メモリ設備から、アップグレードファイル保存用保存先を選び、<アップグレード>をクリックすると、ローカルアップグレードを行います。

2. クラウドアップグレード

説明：

- クラウドアップグレード前に、DNS サーバーの有効性を確保し、DNS 経路を確認・修正してください。メインメニュー>システム設定>ネットワーク設定で、有線ネットワーク画面に遷移します。
- クラウドアップグレード速度はネットワーク速度の制限を受けます。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>システムメンテナンス>システムアップグレード]を選択して、「クラウドアップグレード」画面に遷移します。

(2) <チェック更新>をクリックすると、システムはオンラインでバージョンをチェックします。

- 最新版がある場合、画面に最新版と発布日時が表示されます。<アップグレード>をクリックすると、クラウドアップグレードを行います。
- 最新版がない場合、画面に最新版と発布日時が表示され、現在が最新版であることを説明します。

15 設備のシャットダウン

設備のシャットダウン画面では、ユーザーは設備のログオフ、再起動、シャットダウン操作を行なうことができます。

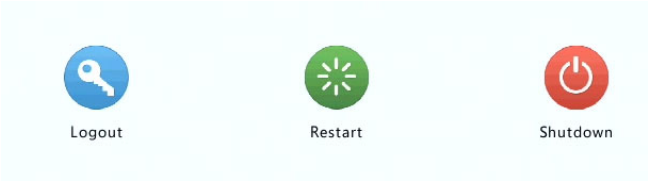
設備シャットダウンとは、設備が電気を切断しない場合、動作中のシステムプロセスを閉じることです。長期間動作しない場合には、電源を切ってください。

フロントパネルの【ON・OFF】キーを 3 秒以上押して、確認後設備のシャットダウンを行なうこともできます。

操作手順は下記の通り：

(1) [メインメニュー>設備のシャットダウン>設備のシャットダウン]を選択して、「設備のシャットダウン」画面に遷移します。

(2) 機能キーによって、設備のログオフや再起動、シャットダウン操作を行います。





注意：

設備が異常でシャットダウン（例えば、断電）した場合、実行中の設備設定の紛失につながるおそれがあります。バージョンアップグレード中のとき、設備の起動不可などが発生するおそれがあるので、操作にご注意ください。

第二部分：Web 操作

1 操作前のご注意

Web 画面から、直接に設備の管理とメンテナンスを行なうことができ、Web 画面操作を行なう前に、下記をご確認ください。

- 該当する操作権限があります。
- 設備は正しく動作しています。クライアント PC と設備とのネットワークがつながっています。
- クライアント PC に Microsoft Internet Explorer 8.0 及びその以上のブラウザをインストールすると望ましいですが、Firefox、Chrome、Opera ブラウザに対応します。
- クライアント PC システムの最低要求は WinXP/Win7/Win8 です。
- 64 ビットシステムに 32 ビットのブラウザを必要とします。

説明：

- Web 画面では、グレーで表示されているパラメータは変更不可で、具体的なパラメータ値は、それぞれ説明せず、画面の表示情報をご確認ください。
- 以下の図はただのイメージとして（設備の型番によって異なる可能性があります）、ユーザーは使用時、実際の表示をご確認ください。

2 ログイン

(1) クライアント PC で Web ブラウザを開き、アドレス欄に設備 IP アドレス（デフォルトで 192.168.1.30）を入力して Enter キーをクリックします。初回ログインの場合、システムの表示情報によって最新コントロールをロードします。コントロールをインストールするとき、ブラウザを閉じてください。

(2) ログインダイアログで正しいユーザー名とパスワード（admin ユーザーのパスワードはデフォルトで 123456 です）を入力し、<ログイン>をクリックすると、Web 画面に遷移します。

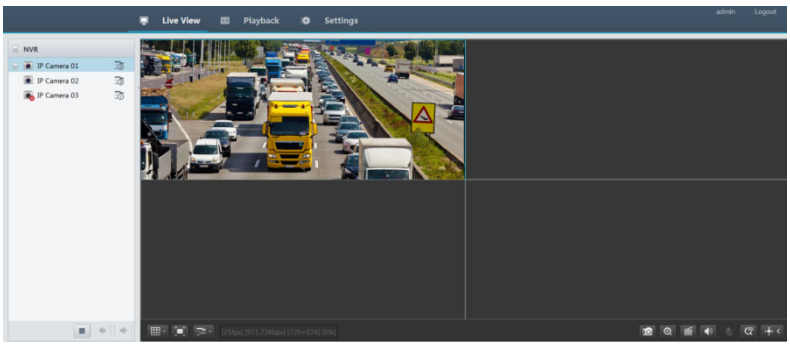
注意：

デフォルトパスワードは初回ログインのみに利用され、安全確保のため、デフォルトパスワードを強いパスワードに設定すると望ましいです。強弱パスワード策略は下記に示します。

- 強いパスワード：長さは 8 桁以上で、かつ大文字、小文字、特殊文字、アラビア数字のいずれかの 3 種以上を含みます。
- 中等パスワード：長さは 8 桁以上で、かつ大文字、小文字、特殊文字、アラビア数字のいずれかの 2 種を含みます。
- 弱いパスワード：長さは 8 桁以上で、かつ大文字、小文字、特殊文字、アラビア数字のいずれかの 1 種を含みます。

3 リアルタイムライブビュー

ログインに成功したら、デフォルトでリアルタイムライブプレビュー画面に遷移します。



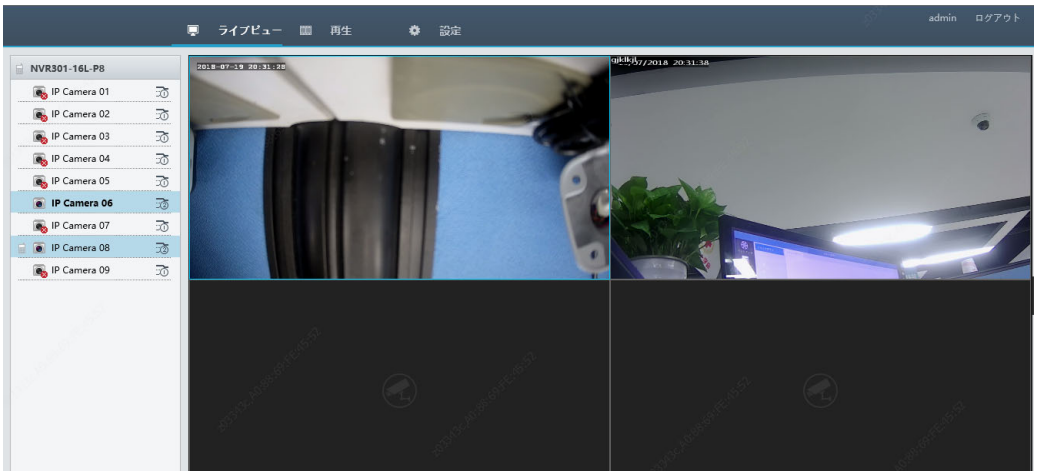


表3-1 リアルタイムライブビュー制御ボタン説明

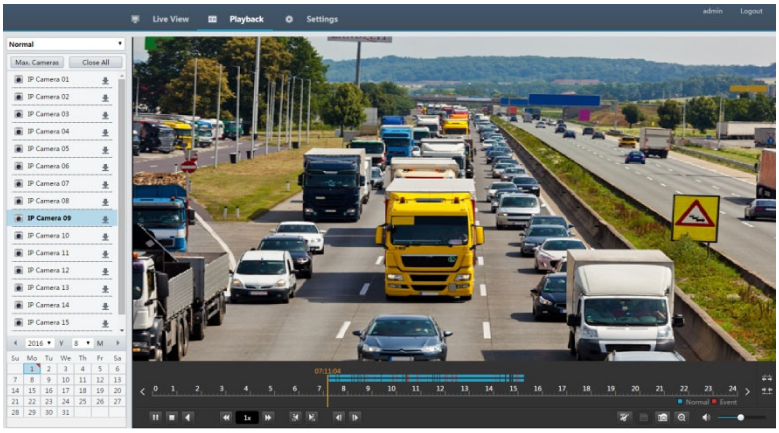
アイコン	説明	アイコン	説明
	双方向通話	/	メインデータレート/補助データレート
/	すべてのリアルタイムライブビュー開始/中止	/	前画面/次画面
	画面切替		全画面
	全局データレート種別の選定	[25fps] [3.96Mbps] [1920×1088] [0%]	フレームレート/ビットレート/解像度/パケットロス率
	スナップ		デジタル拡大
	ローカル録画	/	ミュート/非ミュート
/	双方向通話		3D測位
/	コントロールパネルの開閉		

説明：

- 設備名の左側のアイコンは、WEB と NVR との間の双方向通話に対応し、チャネル名の左側のアイコンは WEB と IPC との間の双方向通話に対応することを示します。
- オフライン又はシングルストリームのカメラは、デフォルトでメインデータレートしか表示しません。
- スナップ画像ファイルの命名規則は、IP アドレス_チャネル番号_スナップシステム時間(時-分-秒-ミリ秒) .拡張子とします。デフォルトの保存先は C:\Users\[ユーザー名]\Surveillance\Snap\システム日付（yyyy-mm-dd）です。
- ローカル録画ファイルの命名規則は、IP アドレス_チャネル番号_S 録画開始のシステム時間(時-分-秒)_E 録画中止のシステム時間(時-分-秒).拡張子とします。デフォルトの保存先は C:\Users\[ユーザー名]\ Surveillance\Record\システム日付(yyyy-mm-dd)です。

4 再生

[再生]タブをクリックすると、再生画面に遷移します。



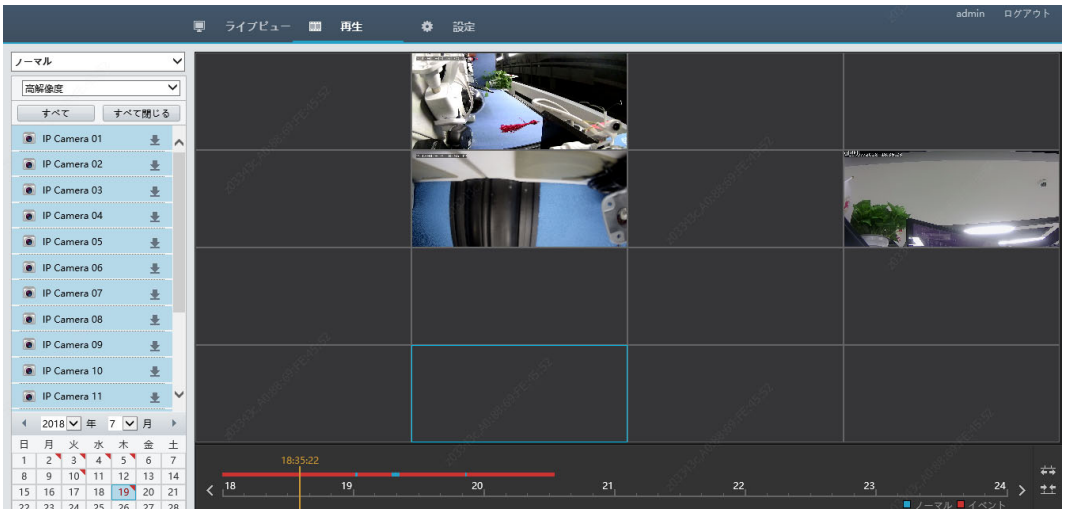
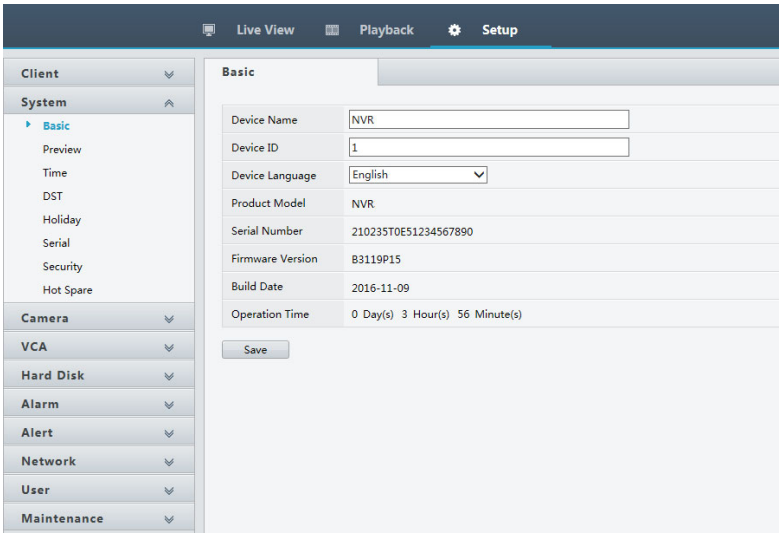


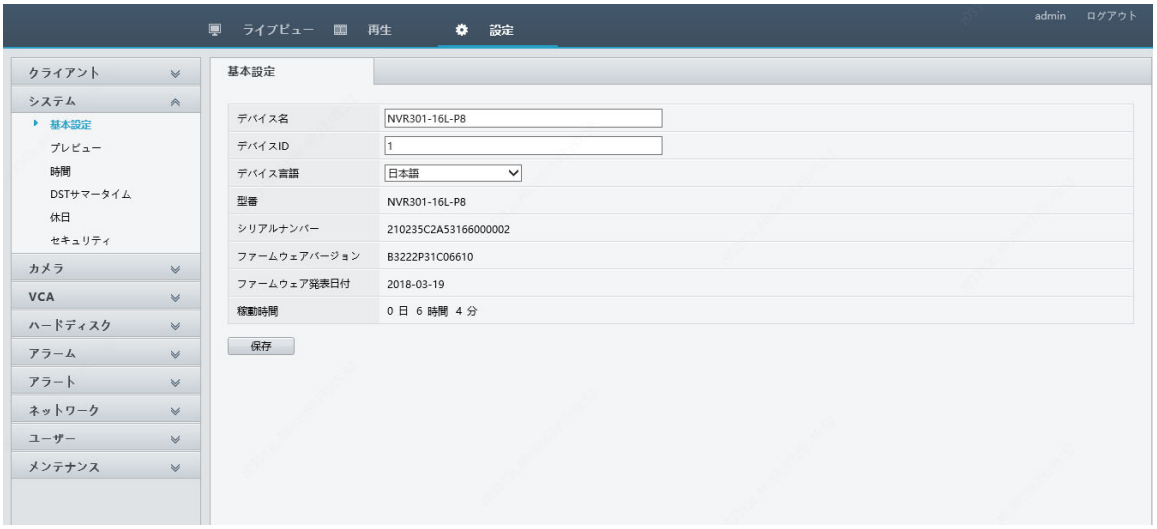
表4-1 再生制御ボタン説明

アイコン	説明	アイコン	説明
/	再生/一時中止		中止
	戻し	/	減速/加速
/	30秒戻る/30秒進む	/	フレームごとに戻る/フレームごとに進む
/	前期間/次期間	/	録画のカット/カットの一時中止
	クリップ録画の保存		スナップ
	デジタル拡大		音量調整、音声のON・OFF

5 設定

ログインに成功したら、[設定]メニューをクリックすると、設定画面へ遷移し、左側のタブで対応する設定操作を行います。





付録：こんなときは？

問題の説明	原因及び対策案
ログインパスワードを忘れたとき	adminユーザーログイン用ダイアログの左側の「パスワード忘れ？」をクリックすると、パスワード取り戻し画面へ遷移し、下記の2つの方法があります。 • 携帯電話のクライアントを開き、[ローカル設定>設備パスワードの取り戻し]をクリックして、画面上の QR コードをスキャンします。 • 画面上の製品バーコードを顧客サービスに提供します。
Webコントロールのロードに失敗したとき	• コントロールインストール中、すべてのブラウザを閉じてください。 • すべてのファイアウォール及びアンティウイルソフトを閉じます。 • IE ブラウザの[ツール>Internet オプション>一般>設定]で、「Internet 臨時ファイル」タブを開き、「記録ページの新バージョン点検」を「ページにアクセスするたびに」に設定します。 • IE ブラウザの[ツール>Internet オプション>安全]で、設備 IP を信頼できるサイトに追加します。 • IE ブラウザの[ツール>互換性レビュー設定]で、設備 IP を互換性ビューに追加します。 • ブラウザのバッファを削除します。
Web画面のリアルタイム	リアルタイムライブビュー画面にデータレートの有無を確認してください。

問題の説明	原因及び対策案
ライブビューが真っ黒になったとき	• データレートがない場合、ファイアウォール/アンティウイルソフトを閉じたか確認します。 • データレートがある場合、PC のグラフィックカードのドライバー不良の可能性があるので、フィックカードのドライバーを再ダウンロードしてください。
カメラがオフラインになり、ローカルに「ネットワーク録画無し」と表示されたとき	[メインメニュー>システムメンテナンス>システム情報]で、「チャネル状態」画面に遷移し、オフライン状態原因を確認します。普通、原因としてネットワークの未接続、ユーザー名パスワード不正、弱いパスワードのアクセス拒否や帯域幅の不足などがあります。 • まず、ネットワーク接続や設定問題の有無をチェックします。 • ユーザー名パスワード不正の場合、NVR に設定されたカメラのパスワードとカメラのログイン用パスワードと一致しているかどうか確認します。 • 弱いパスワードのアクセス拒否の場合、カメラ web 画面にログインして、その Admin パスワードを強いパスワードに変更します。 • 帯域幅の不足の場合、NVR 上のその他のオンライン IP 設備を削除します。
ローカルは一部のリアルタイムライブビューしか表示せず、その他は「資源不足」と表示したとき	• カメラは補助ストリームコーデイングを選び、解像度を D1 に低下させます。 • NVR は補助ストリームによるリアルタイムライブビュー作成を優先させます。
カメラが繰り返してオンライン・オフラインになったとき	• ネットワークの安定性をチェックします。 • カメラと NVR のソフトウエアアップグレードを行ない、当社のアフターサービスに連絡してバージョンを入手してください。
ローカルリアルタイムライブビューが正常ですが、再生とき録画を検索できないとき	• 録画計画が正しく設定されることを確保します。 • NVR 日時とタイムゾーンが正しくないです。 • ハードディスクが破損されます。 • 目標録画が上書きされます。
運動検収アラームの設定が効かないとき	• 「運動検収 ON」にチェックを入れるか点検し、運動検収エリアを正しく設定します。 • 感度の点検を行います。 • 有効時間が正しく設定されるか点検します。
設備はハードディスクを認識できないとき	• 標準電源アダプタをご利用ください。 • 設備の電源を切断した後、挿入・抜き出しを再実施します。 • その他のハードディスクスロットに変更します。 • ハードディスク型番が当社の設備に対応しないので、当社のアフターサービスに連絡して、当社の設備に対応するハードディスク互換性リストを入手してください。
マウスは正しく操作できないとき	• 標準マウスをご利用ください。 • ケーブル延長などの操作がないように確保してください。